

入門 シャレイア語

Ziphil Shaleiras

まえがき

初版まえがき

本書『入門 シャレイア語』は、初学者がシャレイア語を一から学ぶための初めての入門書です。

シャレイア語の公式サイトには文法をまとめたページがありますが、初学者が文法を学ぶためのものというよりも、すでに文法をある程度知っている人が改めて文法を確認するためのものという側面が強いです。そのため、必ずしも難易度順に項目が並んでいるわけではなく、説明も初めて学ぶ人にとっては少し不親切な点が多く見られます。本書は、サイトで公開されている文法書の内容を網羅しつつも、初学者にとっての分かりやすさを重視して書きました。

シャレイア語とは、私が 2012 年より創作している人工言語です。人工言語というのは、日本語や英語のような人間が意思疎通のために自然と作り上げてきた言語に対して、特定の人間が意図的に創作した言語のことを指します。人工言語を作る目的は様々ありますが、私がシャレイア語を作っている目的は、私自身の世界の捉え方を言語を媒介として表現するためです。この本は、そんなシャレイア語の文法を一通り知ることができる本になっています。

もちろん、言語は文法だけではありません。個々の単語の使われ方や微妙なニュアンスの違いなども、言語の重要な要素の 1 つです。このような本書で扱いきれなかった部分は、以下のシャレイア語の公式サイトで全て見るができます。シャレイア語の辞書もこのサイトから閲覧およびダウンロードすることができます。

シャレイア語公式サイト『Aventia』
<https://ziphil.com>

本書は、計 32 課から構成されています。各課の冒頭には、その課で学ぶ構文を用いた代表的な例文を抜粋してあります。また、およそ 4 課ごとに演習問題を収録してあるので、学んだ内容の確認として利用してください。

最後に、本書を読んでシャレイア語の世界に興味をもってくださったのなら、大変嬉しく思います。

2018 年 11 月

Ziphil Shaleiras

第2版に寄せて

初版の出版からおよそ6年半が経ち、その間にシャレイア語は様々な変化を受けました。

まず、これまで別々の場所で公開されていたシャレイア語に関する研究内容が、1つの文法書という形にまとめられました。いわゆる参照文法が整備されたわけです。この作業の途中で文法用語が見直され、文法をより体系的に記述するため、いくつかの用語が変更や廃止されたり、新たな用語が導入されたりしました。

また、初版の出版から現在にかけて、シャレイア語は6回もの文法改定をしています。根本的な文法こそ変わらないものの、いくつかの構文が変更になったり、新しい表現が追加されたりしました。

そんな中、QuizKnock でシャレイア語が紹介されて以来、大変ありがたいことにシャレイア語に興味をもっていた方が増えたように感じます。その一方で、今述べたような変化によって、唯一の入門書であった『入門 シャレイア語』の内容も古くなり、シャレイア語を一から学ぶのに最適な文献がないという状況になってしまいました。そこでこの度、現在のシャレイア語を学ぶのに最適な文献として、本書の第2版を刊行することにしました。

第2版では、全体の構成は初版のものをそのまま踏襲しつつも、現在のシャレイア語をより正確に学べるように記述を全面的に修正しました。演習問題は特に大きな見直しを行い、各課の内容の理解をより深められるよう、難易度の調整をしつつ問題数をおよそ倍増しました。また巻末には、シャレイア語へ翻訳する演習問題が解きやすいように、日本語から引ける語彙集を追加しました。

なお、第2版の表紙デザインはふせ みゆり氏に依頼し、大変素敵に仕上げていただきました。また、原稿の校正を山森彩加氏にいただき、誤字脱字を始めとする様々なミスを丁寧にご指摘いただきました。お二人にはこの場を借りて感謝申し上げます。

本書が、シャレイア語に興味をもってくださった方々にとって、より良い入門書となることを願います。

2025年3月

Ziphil Shaleiras

目次

まえがき	2
目次	4

第 1 部

1 文字と発音	12
シャレイア文字と転写	約物
シャレイア文字	発音の種類
補助符号	アクセント
数字	
2 動詞と助詞句	20
初めの注意	助詞句の使用例
動詞が必要	i
助詞句	
3 修飾	24
形容詞	特殊詞
副詞	語順のまとめ
連述詞	
4 語彙的品詞と文法的品詞	28
語彙的品詞と文法的品詞	文法的品詞と活用
2種類の品詞の関係	新出単語の表記について
文法的品詞と意味の違い	
5 不定辞の活用 I	32
活用の形態	相
動詞型不定辞の動詞の活用	経過相と継続相
時制	態
6 不定辞の活用 II	38
動詞型不定辞の動詞以外の活用	名詞型不定辞の活用
連述詞型不定辞と特殊詞型不定辞の活用	
演習問題 1	40

7 特殊な動詞	44
sal	kav と qet
形容詞をとる助詞	
8 否定表現	46
動詞の否定形	名詞の否定形
修飾語の否定形	否定相当語
9 疑問表現	50
諾否疑問文	助詞と作る疑問句
諾否疑問文への答え方	疑問詞疑問文への答え方
疑問詞疑問文	
10 助詞句の順序	54
話題と新情報	助詞句の省略
文章の流れ	日本語と対応しない助詞
11 受動相当表現	58
受動相当表現	主語がない受動相当表現
演習問題 2	60

第 2 部

12 連結詞	66
語句の連結	á による選択疑問文
連結詞	á と é の違い
文の連結	
13 接続詞	70
接続詞	接続詞節を修飾する特殊詞
接続詞の用法	接続詞の副詞的用法
接続詞節の位置	
14 kin 節	74
kin 節	kin 節を修飾する特殊詞
kin 節とよく使われる動詞	kin 節の時制
kin 節句の位置	

15	動詞の助動詞的用法	78
	動詞の助動詞的用法 I	助動詞的用法 II の例
	助動詞的用法 I の例	kil と qif
	動詞の助動詞的用法 II	
16	反復表現	82
	反復表現	反復と相
	演習問題 3	84
17	命令表現	88
	命令表現	dit のない命令表現
18	縮約	90
	名詞の縮約形	ditat の縮約形
	kin の縮約形	
19	繰り返しの回避	92
	met	I
20	限定節	94
	限定節	限定節の時制
	限定節の例	
	演習問題 4	98
21	助接辞の非動詞修飾形	102
	助接辞の種類	限定節の省略で現れる非動詞修飾形
	非動詞修飾形をとる名詞や形容詞	動名詞を修飾する非動詞修飾形
22	例外助接辞	106
	例外助接辞の用法	例外助接辞の言い換え
	ke	feli と tace
	ti	
23	比較表現 I	110
	優劣表現の作り方 (名詞と比較)	ni がない優劣表現
	優劣表現の作り方 (節と比較)	形容詞句としての優劣表現
	名詞との比較で表せない優劣表現	

24 比較表現Ⅱ	114
同等表現	形容詞句としての最上表現
最上表現	dès と doqhv
ve がない最上表現	
演習問題 5	118
第 3 部	
25 否定表現発展	124
二重否定	dil による部分否定
全部否定と部分否定	
26 疑問表現発展	128
ve による選択疑問文	諸否疑問文による間接疑問節
間接疑問節	付加疑問
27 数の表記と読み	132
数の表記	動詞型不定辞と名詞型不定辞の数辞
整数の読み	数辞の表記
小数の読み	
28 数辞の用法	136
基数と序数	日付と時刻の表現
回数の表現	名詞型不定辞の数辞の用法
le	
演習問題 6	140
29 比較表現発展	144
差異の数値による明示	順位
倍数	「以上」と「以下」
30 間投詞	148
間投詞	yo
主な間投詞	間投詞として用いられる助詞句
助詞句をとる間投詞	

31	直接話法と間接話法	152
	直接話法と間接話法	
	時制と時間表現に関する注意点	文から独立した発話部
	句読点の使い方	叙述の現在時制
32	修辭的な表現	156
	強調	反語
	挿入	遊離助詞句
	演習問題 7	160
	演習問題解答	164
	語彙集 (シャレイア語から)	170
	語彙集 (日本語から)	178

第 1 部

第1部では、シャレイア語の文を作るにあたって必要な最も基本的な文法を学びます。シャレイア語のどんな文を作るときも、ここで学ぶ内容は不可欠です。逆に言えば、ここの内容をきちんと理解していれば、それ以降に学ぶ複雑な構文もすんなりと理解できるようになるはずです。しっかりおさえるようにしましょう。

文字と発音

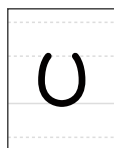
1▶ シャレイア文字と転写

シャレイア語には「シャレイア文字」と呼ばれる独自の文字があります。しかし、シャレイア文字は Unicode などの文字コード規格に収録されていないため、コンピュータ上で扱うのは困難です。また、新しい文字を覚えるには時間がかかるので、初学者が文法を学ぶにあたって障害となり得ます。

これらの理由から、シャレイア文字の各文字に対してラテン文字を対応させ、シャレイア文字の代わりにラテン文字で表記することもあります。このラテン文字による表記を「転写」と呼びます。この本では、シャレイア文字の紹介もしますが、本文は全てラテン文字による転写で表記しています。なお、シャレイア語の転写部分はサンセリフ体(ゴシック体)で表記してあります。

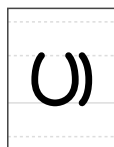
2▶ シャレイア文字

シャレイア文字のうち、数字や記号などを除く単語を綴るための文字は、以下に示す通り全部で 25 個あります。基本的に 1 つの文字にそれぞれ 1 つの発音が割り当てられているので、その発音について説明します。



s /s/

日本語のサ行の子音と同じです。ただし、si の発音は「スイ」に近く、「シ」とは異なるので注意してください。



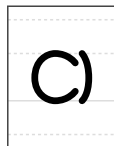
z /z/

日本語のザ行の子音と同じです。ただし、zi の発音は「ズィ」に近く、「ジ」とは異なるので注意してください。



t /t/

日本語のタ行の子音と同じですが、ti と tu の発音は順に「ティ」と「トゥ」のようになります。



d /d/

日本語のダ行の子音と同じですが、di と du の発音は順に「ディ」と「ドゥ」のようになります。



k /k/

日本語のカ行の子音と同じです。



g /g/

日本語のガ行の子音と同じです。



f /f/

日本語のファ行の子音とほぼ同じですが、上の歯と下の唇の間に息を吹き込んで発音します。



v /v/

日本語のヴァ行の子音とほぼ同じですが、上の歯と下の唇の間に息を吹き込んで発音します。



p /p/

日本語のパ行の子音と同じです。



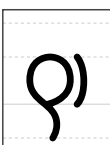
b /b/

日本語のバ行の子音と同じです。



c /θ/ or /t͡s/

方言によって /θ/ か /t͡s/ のどちらかで発音します。前者は英語の think や south に含まれる th の音で、後者は日本語の「ツ」の子音です。



q /ð/ or /d͡z/

方言によって /ð/ か /d͡z/ のどちらかで発音します。前者は英語の this や with に含まれる th の音で、後者は日本語における語頭のザ行の子音です。

x

/ʃ/

英語の she などに含まれる sh と同じです。日本語のシャ行の子音とほぼ同じですが、厳密には日本語のシャ行より舌の位置が若干前になります。

j

/ʒ/

英語の usual の s に現れる音で、日本語のジャ行の子音とほぼ同じです。舌を口の中の上部に接触させないで発音することに注意してください。

l

/l/

英語の letter などに含まれる l と同じ音です。

r

/ɹ/

英語の r と同じで、日本語のラ行の子音とは異なります。舌を口の中のどこにも接触させずに発音します。

n

/n/

日本語のナ行の子音と同じです。後ろに母音を伴わなくても、しっかりとナ行の音を出します。例えば、sen は「セン」よりも「セヌ」に近い発音になります。

m

/m/

日本語のマ行の子音と同じです。

y

/j/

日本語のヤ行の子音と同じです。

h

/h/, ∅

日本語のハ行の子音と同じです。詳しくは後述しますが、全く発音されない場合もあります。



a /a/

日本語のアの音と同じです。



e /e/

日本語のエの音とイの音の間くらいの音です。英語の end などの e と同じ音です。



i /i/

日本語のイの音と同じです。



o /o/

日本語のオの音と同じです。



u /u/

日本語のウ行の音を口をすばめて発音します。英語の blue などに出てくる u と同じ音です。

l の発音は、基本的に英語の l と同じですが、後ろに母音がないときに限って日本語のラ行の子音で発音されることがあります。基本的に、この 2 つは同じ音として認識されます。そのため、英語の l が苦手な場合は、l を全て日本語のラ行で発音してしまっても良いでしょう。

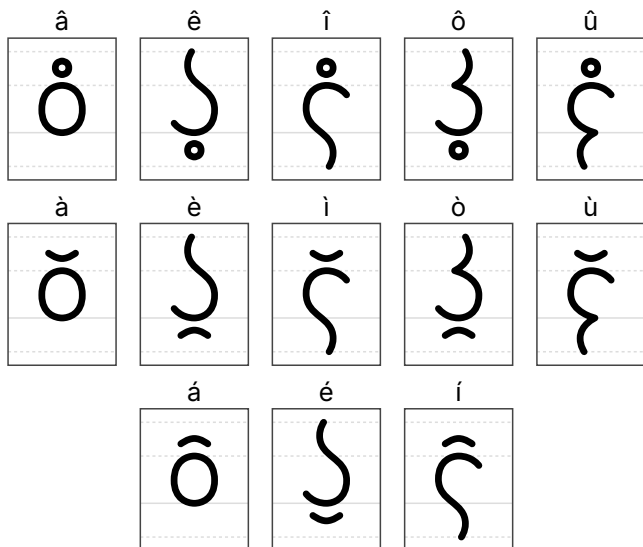
h の発音は基本的にハ行の音ですが、後ろに母音がないときは全く発音されません。なお、h が語末にあってその後に母音で始まる単語が続いた場合、この h は「後ろに母音がある」と判断されて発音されるので注意してください。

第 14 課で出てくる kin とその縮約形の 'n に含まれる n のみ、例外的に /n/ で発音されます。これは日本語の「ン」に近い音です。それ以外は、上で説明した文字と発音の対応に従って、規則的に発音されます。

シャレイア文字の順番は上に示した通りで、ラテン文字の順番とは異なります。シャレイア語の辞書では、シャレイア文字順で単語が並べられます。

3 ▶ 補助符号

母音字には上下に補助符号(ダイアクリティカルマーク)が付けられることがあります。以下に、補助符号が付けられた母音字の形と転写を示します。文字によって符号の位置や向きが変わるので注意してください。



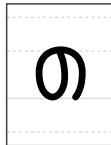
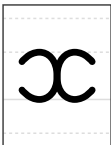
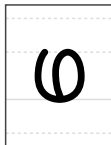
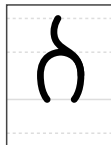
補助符号の有無に関わらず、母音の発音は一定です。例えば、a, â, à, á は全て同じく「ア」の音で発音されます。ただし、第12課で扱う連結辞に含まれる補助符号付きの文字に限り、以下の表に示すように例外的な発音になります。

単語	発音	単語	発音
é	/eɪ/	lé	/leɪ/
à	/ao/	dà	/dao/
á	/aɪ/	lá	/laɪ/
ò	/ɔɐ/		

/eɪ/, /ao/, /aɪ/, /ɔɐ/ の発音は、それぞれ「エイ」, 「アウ」, 「アイ」, 「オア」のようになります。ただし、これらは単独の母音が2つあるわけではなく1つの二重母音なので、1つ目の母音を強く発音し、2つ目の母音は弱めに発音します。例えば、/eɪ/ を発音するときには、「エ」と「イ」を両方はっきり発音するのではなく、「エ」の方を強く発音して「イ」は弱く発音します。

4 ▶ 数字

シャレイア文字には数字もあります。シャレイア語では数を10進法で数えるので、数字は0から9までの10種類です。

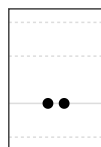
0	1	2	3	4
				
5	6	7	8	9
				

0の文字に含まれる斜線は、aと区別するためのものです。数字を単独で書く場合は、この斜線を省略することがあります。

数の表記法や読みについては、第27課で扱います。

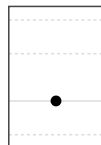
5 ▶ 約物

コンマやピリオドなどの約物も、シャレイア文字特有のものがあります。以下に、代表的なシャレイア文字の約物を挙げます。文字の右側の説明文の1行目は、その記号の転写と名称を表します。



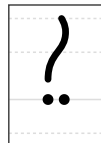
・ デック

ピリオドに相当する記号で、文末に置きます。転写の際はピリオドを使いますが、シャレイア文字としての字形は点2つなので注意してください。



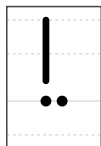
, タデック

コンマに相当する記号です。日本語の読点のように自由に置けるわけではなく、置ける場所は決まっています。



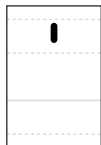
? パデック

疑問符です。疑問文で、デックの代わりに文末に置きます。疑問文については第9課などで学びます。



！ ヴァデック

感嘆符です。強調したい文や語調が強い文に対して、デックの代わりに文末に置きます。



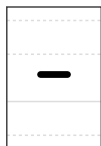
' ノーク

何らかの縮約形であることを表します。縮約形については第 18 課で学びます。



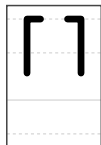
‘ ディカック

単語の前に置いて、その単語が固有名詞であることを表します。転写ではコンマを逆向きにしたような記号を用います。詳しい用法は後述します。



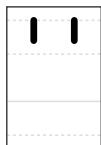
- フェーク

複数の単語を繋げて合成語を作ります。



« » ラクット

この記号で囲まれた部分が実際に発話された内容であることを表します。詳しい用法は第 31 課で扱います。



" " ヴァクット

この記号で囲まれた部分が強調や引用であることを表します。

英語では、人名や地名などの固有名詞は語頭を大文字にして表記するのが普通です。シャレイア文字には大文字と小文字の区別はないので、代わりに固有名詞の前にはディカックを置いて、それが固有名詞であることを明示します。このディカックは基本的に任意で、置いても置かなくても構いません。ただし、人名の前には置かれることがほとんどです。

日本語では、会話文に対しても強調や引用に対しても鉤括弧を使います。シャレイア語ではこの 2 つの括弧を区別し、会話文に対してはラクットを用いて、強調や引用に対してはヴァクットを用います。

6 ▶ 発音の種類

シャレイア語には2種類の発音方法があり、それぞれ「軽発音」と「重発音」と呼ばれます。方言差のようなものだと考えてください。

軽発音と重発音で異なるのは、c と q の発音だけです。それぞれ以下のように発音します。

文字	軽発音	重発音
c	/θ/	/t͡s/
q	/ð/	/d͡z/

どちらの発音方法も正式な発音として認められているので、自分の好みに応じてどちらか一方を選択してしまって構いません。ただし、どちらかに決めたら、少なくとも一連の話の中ではその発音方式を使い続けてください。軽発音と重発音を混ぜながら話すことはありません。

7 ▶ アクセント

シャレイア語では、不定辞の語幹の最後の母音に常にアクセントが置かれます。アクセントが置かれる母音は、他の母音と比べて音量が大きく少し長めに発音されます。補助符号の有無はアクセントの位置と全く関係なく、補助符号があるからと言ってアクセントが置かれるわけではありません。

不定辞とは、「私」や「本」や「食べる」のように、文法的な役割をもたず、物や概念や性質などの何らかの意味をもつ単語のことです。動詞として用いられている不定辞は、語幹の後ろに1音節の活用接尾辞が付けられるので、語幹の最後の母音というのは、活用形の最後から2番目の母音になります。例えば、**kofides**は「見つけた」を意味する動詞ですが、**es**の部分は活用接尾辞で**kofid**が語幹なので、アクセントは*i*に置かれます。それ以外の品詞で用いられている場合は、語幹そのものか活用接頭辞が付いた形で現れるので、語幹の最後の母音というのは、文中で現れる形の最後の母音と一致します。

不定辞については、詳しくは第5課で扱います。

動詞と助詞句

hâres a tel.

▶ 私は笑った。

sôdes a ces e sakil.

▶ 彼はリンゴを食べた。

qoletes a tel e xoq i ces.

▶ 私は彼の本を売った。

1 ▶ 初めの注意

シャレイア語では、多くの単語が辞書に載っている形から変化して文中に現れます。

したがって、最初にその変化の仕方について学んだ後に、語順や構文などの文法に触れるのが良いのかもしれませんが、しかし、言語について何も知らない状態で単語の変化だけ学んでも、無味乾燥でおもしろくないでしょう。そこでこの本では、まずはシャレイア語の雰囲気を掴んでもらうため、最も根本となる文の構造について最初に触れていきます。

単語の変化は第5課、第6課、第21課で扱います。少なくとも第6課が終わるまでは、語形変化についてあまり深く考えず、どのような種類の単語がどのような位置に置かれるのかに注目するようにしてください。

2 ▶ 動詞が必要

シャレイア語では、少数の例外を除いて全ての文に動詞が必要です。動詞は文頭に置かれます。

hâres.

▶ 笑った。

この文の **hâres** は「笑った」という意味の動詞です。**hâres** は **hâr** という単語が変化した形ですが、語形変化については今後扱いますので、まずは **hâres** で1つの動詞だと考えてください。

3 ▶ 助詞句

動詞の「笑った」だけでは誰が笑ったか分かりません。「私が」のような主語を明示したくなります。

「私が」や「リンゴを」のような動詞の内容や時刻などを説明する句は、助詞と名詞の組み合わせによって作られます。助詞は、日本語の「～が」や「～を」と同じく文中での名詞の意味的な役割を表し、名詞の前に置かれます。

以下に基本的な助詞を示します。助詞はこれ以外にもありますが、最低限これだけはおさえておきましょう。

助詞	意味
a	～が, ～は 主語
e	～を 目的語
ca	～に, ～へ 相手, 到達点
zi	～から 起点
te	～に 時刻
vo	～で 場所

例えば、主語を表す助詞 **a** を「私」を表す名詞 **tel** の前に置いて **a tel** とすることで、「私が」という語句を作ることができます。このような助詞と名詞の塊を「助詞句」と呼びます。もしくは、使われている助詞の名前を明示して、「**a** 句」のように呼ぶことも多いです。

なお、上の表には対応する日本語の助詞を載せましたが、多くの場合でこの通りの対応になるものの、必ずしもぴったり一致するわけではありません。日本語の助詞と一致しない例は第 10 課で扱います。

助詞句は動詞の後に置かれます。

hâres **a tel**.

▶ 私が笑った。

助詞句が 2 つ以上ある場合は、動詞の後にそれらを並べます。

sôdes **a ces** **e sakil**.

▶ 彼はリンゴを食べた。

助詞句を並べる順番に文法上の制約はないので、話者が自由に並べることができます。しかし実際には、助詞句の順番にはある程度の傾向があります。これについては第 10 課で詳しく学びます。それまでは、主語 (**a** 句) を最初に置き、そ

れ以外の助詞句をその後に並べると考えてください。また、日本語のように主語を省略することは基本的にしません。

4 ▶ 助詞句の使用例

上の表に挙げた各助詞の用法をもう少し詳しく見てみましょう。

まず a と e は、それぞれ動詞の主語と目的語を表す助詞です。それぞれ日本語の「～は」と「～を」にほぼ対応します。

lices a tel e nāt.

▶ 私は花を見た。

次に ca は、移動を表す動詞の行き先や、動詞のいわゆる間接目的語などを表します。日本語では「～に」や「～へ」に相当することがほとんどですが、「～を」に対応する場合もあります。

lanes a tel ca naflat.

▶ 私は公園に行った。

séqes a tel e sokiḡ ca ces.

▶ 私は腕時計を彼にあげた。

zi は、ca の逆で移動を表す動詞の出発点などを表します。日本語では「～から」が相当します。

nifetes a tel e sakil zi sod.

▶ 私はリンゴを家から持って来た。

te は、動詞が表す動作を行った時刻を表します。例えば、「昨日」はシャレイア語で tazît と言いますが、これは英語の yesterday と違って名詞なので、te とともに te tazît のように使われます。

zédices a ces te tazît.

▶ 彼は昨日運動した。

最後に vo は、動詞が表す動作を行った場所を表します。例えば、「ここ」はシャレイア語で fêd ですが、これも英語の here と違って名詞としてしか用いないので、vo fêd とする必要があります。

kofides a tel e monaf **vo fêd**.

▶ 私は猫をここで見つけた。

5 ▶ i

少し特殊な助詞に i というものがあります。これは日本語の「～の」に相当します。名詞を伴って助詞句を作るのは同じですが、できた i 句は動詞と一緒に使われるのではなく、名詞を修飾します。

例えば、この i と「彼」を意味する ces を組み合わせれば、i ces という助詞句ができます。これは「彼の」という意味で、名詞を修飾する語句になります。したがって、例えば「本」を意味する xoq の後ろにこの助詞句を置いて xoq i ces とすることで、「彼の本」を表現することができます。i 句は修飾する名詞の後ろに置かれることに注意してください。

i 句とそれが修飾する名詞によって新しい大きな名詞の塊ができるので、これにさらに助詞を付けて文中で用いることができます。

qoletes a tel **e xoq i ces**.

▶ 私は彼の本を売った。

この例では、「彼の本」を意味する xoq i ces の前に目的語を表す e を置くことで、「彼の本を」という助詞句を作っています。これを「売った」という意味の動詞 qoletes とともに使うことで、「彼の本を売った」という文になっています。

新出単語

名 sakil — 名 リンゴ

動 séq (séqes) — 動 あげる

名 sod — 名 家

動 sôd (sôdes) — 動 食べる

名 soki q — 名 腕時計

動 zédic (zédices) — 動 運動する

助 zi — 助 ～から (起点)

名 tazît — 名 昨日

助 te — 助 ～に (時刻) 接 ～するとき

名 tel — 名 私

動 kofid (kofides) — 動 見つける

名 fêd — 名 ここ

助 vo — 助 ～で (場所)

助 ca — 助 ～に (相手), ～へ (到達点)

名 ces — 名 彼, 彼女

動 qolet (qoletes) — 動 売る

名 xoq — 名 本

動 lan (lanes) — 動 行く

動 lic (lices) — 動 見る

名 nât — 名 花

名 naflat — 名 公園

動 nifet (nifetes) — 動 持って来る

名 monaf — 名 猫

動 hâr (hâres) — 動 笑う

助 a — 助 ～が (主語)

助 e — 助 ～を (目的語)

助 i — 助 ～の

修飾

sôdes a tel e letyem amay.

▶ 私は甘いチョコレートを食べた。

kâkes a ces obâl.

▶ 彼は突然現れた。

feges a tel e loqis axodol ebam.

▶ 私はとても高価な車を買った。

nîpes a tel etut zi cêd.

▶ 私だけがそこから去った。

1 ▶ 形容詞

形容詞とは、「甘い」や「古い」のように、ものの性質や様子を表す単語のことです。したがって、形容詞は名詞に係りますが、このとき係る名詞の後ろに置かれます。例えば、「甘い」を意味する形容詞 **amay** を「チョコレート」を意味する名詞 **letyem** に修飾させたい場合は、**amay** の方を後ろに置いて **letyem amay** とします。

形容詞とそれが修飾する名詞を合わせて1つの名詞として扱える語句ができるので、その前に助詞を置いて文の要素にすることができます。

sôdes a tel e **letyem amay**.

▶ 私は甘いチョコレートを食べた。

この例では、**letyem amay** で「甘いチョコレート」という名詞句ができているので、そこに目的語を表す助詞の **e** を付けています。

同じ名詞を修飾する形容詞が複数ある場合は、それらの形容詞を名詞の後に順に並べます。連結詞を用いる方法もありますが、これは第12課で扱います。

qonoces a tel e **talem aqôl ajudôl**.

▶ 私は古くて汚いタオルを捨てた。

この例文中では、それぞれ「古い」と「汚い」を意味する **aqôl** と **ajudôl** という2つの形容詞が、**talem** という名詞を修飾しています。

形容詞が複数ある場合のその順番は自由です。順番によるニュアンスの変化はほぼありません。ただし、「この」や「その」のような指示形容詞が含まれている場合は、それが最後に置かれます。

kômes a tel e solak afehal afik te tazît.

▶ 私はこのかわいらしい洋服を昨日着た。

この例では、afehal と afik という 2 つの形容詞が solak を修飾していますが、afik は「この」を意味する指示形容詞なので、afehal より後に置かれています。afehal と afik の順番を変えて solak afik afehal とすることはできません。

2 ▶ 副詞

副詞とは、「突然」や「速く」のように、動作の様子を表す単語のことです。そのため、副詞は動詞に係ります。このとき、その副詞は係る動詞の直後に置かれるか、もしくは動詞から離れて文末に置かれます。

kâkes obâl a ces.

▶ 突然彼は現れた。

kâkes a ces obâl.

▶ 彼は突然現れた。

最初の例文では、「突然」を意味する副詞の obâl が動詞の kâkes の直後に置かれています。一方で次の例文では、obâl は文末に置かれています。どちらも正しい文です。

動詞を修飾する副詞が 2 つ以上ある場合、全てを動詞の直後に並べたり、全てを文末に並べたりしても良いですが、一部を動詞の直後に置いて残りを文末に置くこともできます。

vilises a ces vo naflat ocazec ovit.

▶ 彼は公園で真剣に速く走った。

vilises ovit a ces vo naflat ocazec.

▶ 彼は速く公園で真剣に走った。

最初は 2 つの副詞を両方とも文末に置いた例で、次は ovit を動詞の直後に置き ocazec を文末に置いた例です。どちらも正しい文章ですが、多少のニュアンスの違いがあります。これについては、第 10 課で詳しく学びます。

3 ▶ 連述詞

名詞を修飾するのは形容詞で、動詞を修飾するのは副詞でしたが、形容詞や副詞をさらに修飾する単語もあります。シャレイア語では、そのような単語を「連述詞」と呼びます。例えば、「とても」などが連述詞です。

連述詞は、それが修飾する形容詞や副詞の直後に置かれます。

feges a tel e loqis **axodol ebam**.

▶ 私はとても高価な車を買った。

この例では、「とても」を意味する **ebam** が後ろから **axodol** を修飾し、**axodol ebam** という「とても高価な」を意味する形容詞句を作っています。形容詞は名詞の直後に置くのでしたから、この **axodol ebam** を **loqis** の後ろに置くことで、「とても高価な車」という意味の語句ができています。

日本語の「すぎる」に相当する **evêk** も、連述詞に分類されます。

sôdes a tel e tolék **asaret evêk**.

▶ 私はおいしすぎる料理を食べた。

上の例文では、**evêk** が **asaret** を修飾しています。

連述詞は、今述べたように形容詞と副詞を修飾しますが、形容詞的な意味合いがある動詞も修飾できます。この場合、その動詞の直後に置かれます。

debes **ebam** a tel.

▶ 私はとても疲れた。

4 ▶ 特殊詞

他の単語を修飾する単語には、「特殊詞」と呼ばれるものもあります。特殊詞は、これまでに扱った修飾語とは異なり、修飾する単語の種類が決まっておらず、名詞や動詞など様々な単語を修飾します。

特殊詞は、修飾する単語の種類に関わらず、その単語の直後に置かれます。

nîpes a **tel etut** zi cêd.

▶ 私だけがそこから去った。

teres a tel e tirmal **amay etut**.

▶ 私は甘いだけのジュースを飲んだ。

この2つの例では、どちらも「だけ」を意味する **etut** が使われています。最初の文では、**etut** は後ろから名詞の **tel** を修飾し、**tel etut** で「私だけ」という意味の名詞句ができています。次の文では、**etut** が形容詞の **amay** を修飾し、**amay etut** で「甘いだけの」という意味の形容詞句が作られています。

なお、この2つ目の文は、**tirmal amay** という語句全体に **etut** が係っていると解釈することもできます。その場合は、「甘いジュースだけを飲む」の意味になります。このように、単語の並びだけでは構文が曖昧になることもあります。

5 ▶ 語順のまとめ

この課では、形容詞、副詞、連述詞、特殊詞という4つの種類の修飾語について個別に学びましたが、これらの語順は全てまとめて1つの規則で言い表すことができます。それは、「修飾語句は被修飾語の後ろに並べる」という規則です。そのため、使おうとしている修飾語がどの種類なのか分からなくても、とりあえず修飾される単語の後に置いておけば正しい文になります。

ただし、副詞だけは少し例外なので注意してください。「修飾語句は被修飾語の後に並べる」という規則をそのまま当てはめれば、副詞は動詞の直後に置くことになりますが、すでに説明したように文末に置くことも許されています。

新出単語

動 **saret** (asaret) — 形 おいしい

名 **solak** — 名 洋服

名 **talem** — 名 タオル

動 **ter** (teres) — 動 飲む

名 **tirmal** — 名 ジュース

名 **tolék** — 名 料理

特 **tut** (etut) — 特 だけ

動 **deb** (debes) — 動 疲れる

動 **kâk** (kâkes) — 動 現れる

動 **kôm** (kômes) — 動 着る

動 **feg** (feges) — 動 買う

動 **fehal** (afehal) — 形 かわいらしい

動 **fik** (afik) — 形 この

述 **vêk** (evêk) — 述 すぎる

動 **vît** (ovit) — 副 速く 形 速い

動 **vîlis** (vîlises) — 動 走る

動 **bâl** (obâl) — 副 突然 形 突然の

述 **bam** (ebam) — 述 とても

動 **cazec** (ocazec) — 副 真剣に

名 **cêd** — 名 そこ

動 **qôl** (aqôl) — 形 古い

動 **qonoc** (qonoces) — 動 捨てる

動 **xodol** (axodol) — 形 高価な

動 **judôl** (ajudôl) — 形 汚い

名 **letyem** — 名 チョコレート

名 **loqis** — 名 車

動 **nîp** (nîpes) — 動 去る

動 **may** (amay) — 形 甘い

語彙的品詞と文法的品詞

1 ▶ 語彙的品詞と文法的品詞

シャレイア語には「品詞」と呼ばれるものが2種類あります。「語彙的品詞」と「文法的品詞」です。

語彙的品詞は、各単語にちょうど1つずつ割り当てられている品詞です。1つの単語が複数の語彙的品詞に分類されるということはありません。語彙的品詞は、全て「～辞」という名前になっており、以下の通り全部で8個あります。

- | | |
|-----------|-------|
| ▶ 動詞型不定辞 | ▶ 助接辞 |
| ▶ 名詞型不定辞 | ▶ 連結辞 |
| ▶ 連述詞型不定辞 | ▶ 間投辞 |
| ▶ 特殊詞型不定辞 | ▶ 機能辞 |

文法的品詞は、文中で使われている単語に対して、その使われ方に応じて割り当てられるものです。これは、他の言語では単に「品詞」と呼ばれることが多い概念です。文法的品詞は、全て「～詞」という名前になっており、以下の通り全部で11個あります。

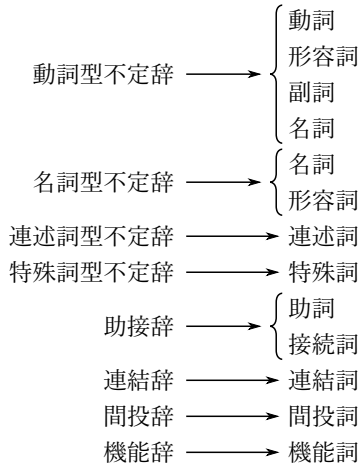
- | | | |
|-------|-------|-------|
| ▶ 動詞 | ▶ 連述詞 | ▶ 連結詞 |
| ▶ 形容詞 | ▶ 特殊詞 | ▶ 間投詞 |
| ▶ 副詞 | ▶ 助詞 | ▶ 機能詞 |
| ▶ 名詞 | ▶ 接続詞 | |

語彙的品詞は、各単語に1つだけ割り当てられる分類なので、例えば「**tel** は名詞型不定辞である」や「**zi** は助接辞である」のように言及することができます。一方で文法的品詞は、単語そのものの分類ではなく、文中での単語の使われ方の分類なので、文なしで「**tel** は名詞である」のように言及できず、「この文の中の **tel** は名詞として使われている」などのように言及することしかできません。ただし、これまでそうだったように、あたかも文法的品詞が単語そのものの分類であるかのように「名詞 **tel** は～」と述べることがあります。これは、「この文中で名詞として使われている **tel** は～」もしくは「**tel** を文中で名詞として使った場合は～」を省略して言ったものだと考えてください。文法的品詞は、あくまで何らかの文の中に出てくる単語の分類です。

動詞、形容詞、副詞、名詞、連述詞、特殊詞、助詞としての単語の使い方については、第2課と第3課で述べた通りです。それ以外の文法的品詞については、これ以降の課で説明します。

2 ▶ 2種類の品詞の関係

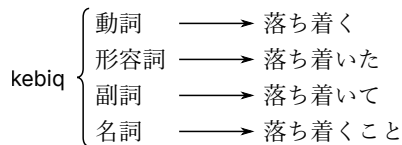
ある単語の語彙的品詞によって、その単語が文中でとることのできる文法的品詞は決まっています。このような品詞の関係を次の図に示します。



例えば、動詞型不定辞に分類される単語は、文中では動詞、形容詞、副詞、名詞の4つの文法的品詞しかとることができず、助詞や連結詞などとしては用いることができません。

3 ▶ 文法的品詞と意味の違い

単語が文中でとっている文法的品詞によって、その意味は変わります。例えば、動詞型不定辞の *kebiq* は、上の図の通り動詞、形容詞、副詞、名詞の4通りに使えますが、そのときの意味は以下のようになります。



動詞型不定辞、名詞型不定辞、助接辞は、文中で複数の文法的品詞をとることができます。しかし、それはあくまで一般論であって、可能な全ての文法的品詞が同じ頻度で使われるわけではありません。例えば、上に挙げた動詞型不定辞の *kebiq* は、形容詞や副詞として使われることがほとんどで、動詞として使われることはあまりありません。一方で、同じく動詞型不定辞の *sôd* は、動詞として使われることが多く、形容詞や副詞としてはめったに使われません。

4 ▶ 文法的品詞と活用

不定辞か助接辞に分類される単語は、文中での文法的品詞やその他の用法によって形を変えた状態で現れます。この変化は「活用」と呼ばれます。例えば、上で挙げた kebiq は、以下のように活用します。

kebiq	動詞	→ kebiqes, kebiqat など
	形容詞	→ akebiq
	副詞	→ okebiq
	名詞	→ kebiq (不変化)

文中での用例を挙げます。

kebiqes a tel.

▶ 私は落ち着いた。

paleves a ces e tific akebiq.

▶ 彼は落ち着いた子供を探した。

hites okebiq a ces.

▶ 彼は落ち着いたて立ち上がった。

cipases a tel ca ces e kebiq.

▶ 私は彼に落ち着くことを頼んだ。

不定辞の活用については第5課と第6課で詳しく学びます。

助接辞は、語幹そのままの形と接頭辞が付いた形の2種類の活用形をもち、それぞれで個別の用法があります。活用接頭辞が付いた形の用法については、第21課以降で詳しく学びます。それまでは、語幹をそのまま使った場合の助接辞の用法のみを扱うので、まずは助接辞は変化しないものだと考えてください。

5 ▶ 新出単語の表記について

この本では、各課の最後にその課で初めて出てきた単語のリストを掲載してあります。このリストでは、次のような形で語彙的品詞と文法的品詞を表示しています。

動 kebiq — 動 落ち着く 形 落ち着いた
 名 tific — 名 子供
 助 te — 助 〜に(時刻) 接 〜するとき

まず、単語の綴りの前には、その単語の語彙的品詞を漢字1字で示しました。単語の綴りの後には、その単語でよく使われる文法的品詞を漢字1字で示し、その

後にその文法的品詞としての意味を日本語で列挙しました。よく使われる文法的品詞が2つ以上ある場合は、2つとも記してあります。

新出単語

名 tific — 名 子供

動 kebiq — 動 落ち着く 形 落ち着いた

動 palev (paleves) — 動 探す

動 cipas (cipases) — 動 頼む

動 hit (hites) — 動 立つ, 立ち上がる

不定辞の活用 I

1 ▶ 活用の形態

不定辞か助接辞に分類される単語は、文中で形を変えて現れることがあり、これを「活用」というのでした。シャレイア語での活用は全て、変化する前の形に何らかの接頭辞や接尾辞を付けることで行われます。変化する前の形は「語幹」といい、辞書の見出し語になります。語幹そのものは変化しません。

この課と次の課で、まず4種類の不定辞の活用について学びます。助接辞も活用しますが、それについては第21課で扱います。

2 ▶ 動詞型不定辞の動詞の活用

動詞型不定辞が動詞として用いられるときは、時制, 相, 態という3つの要素に応じてその形が変わります。このときの活用は、時制を表す接尾辞および相と態を表す接尾辞を、この順で語幹の後に付けることで行われます。

シャレイア語には4種類の時制があり、それぞれ以下の表に示す活用接尾辞によって標示されます。

時制	接辞
現在時制	a
過去時制	e
未来時制	i
通時時制	o

さらに、シャレイア語には5種類の相があります。相はもう1つの活用接尾辞によって標示されますが、態によってその接尾辞が変わります。それを以下の表に示します。

相	接辞	
	通常態	補助態
開始相	f	v
経過相	c	q
完了相	k	g
継続相	t	d
無相	s	z

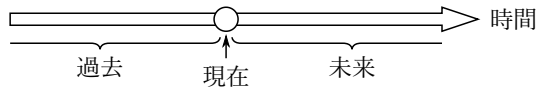
補助態のときに使う接尾辞は、通常態のときに使う接尾辞の有声音(濁った音)になっています。したがって、覚えるのは片方だけでも十分です。

例えば、動詞型不定辞の **ter** を現在時制経過相通常態として使いたければ、現在時制を表す **a** と経過相通常態を表す **c** を語幹の後に付けて、**terac** とすれば良いことになります。

ちなみに、ここまでに出てきた全ての動詞は過去時制無相通常態として用いられています。過去時制を表す **e** と無相通常態を表す **s** が語幹に付けられているのが分かるかと思います。

3 ▶ 時制

さて、シャレイア語には4種類の時制があることはすでに学びました。以下は、それを図にまとめたものです。



現在時制は、動詞が表す動作が時間軸上の現在という1点で成立していることを表します。

terac a ces e rix.

▶ 彼が水を飲んでいる。

この例では **ter** が現在時制で使われているので、現在の時点で「飲んでいる」という状態が成立していることになります。

過去時制は、動詞の行為が時間軸上の現在より前の時間で成立したことを示します。また未来時制は、行為が現在より後の時間で成立することを示します。

lôqes a tel e qixov ca refet.

▶ 私はパソコンを友達に貸した。

qorasis a tel ca 'nagoyas te tacál.

▶ 私は名古屋に明日旅行する。

この最初の例文では過去時制が用いられているので、「パソコンを貸した」という行為が過去のことだということになります。次の例文は未来時制になっているので、「名古屋に旅行する」というのは今後の予定で、それが未来に行われるだろうということを述べています。

通時時制は少し特殊な時制で、2つの用法があります。1つ目の用法として、時間に関わらず成り立つことを表すのに用いられます。

vahixos okôk a laxol.

▶ 人間は必ず死ぬ。

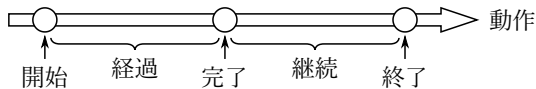
この例文では通時時制が用いられています。その理由は、「人間は死ぬ」というのが、過去のある時点で死んだというわけでも、未来のある時点で死ぬだろうというわけでもなく、時間には関係なく常に成り立つ事実であるためです。「人間は死ぬ」の代わりに「人間とは死ぬものだ」のように訳せば、通時時制のニュアンスがより分かりやすく出るかもしれません。

通時時制の2つ目の用法として、行為が行われる時間を特に指定しない場合に用いるというものがあります。これについては、第14課以降で用例が出てきます。

4 ▶ 相

相とは、動作がどの段階にあるのかを示す概念です。例えば、日本語の「食べている」は「食べる」という動作の途中の段階を表します。また、「飲み始める」ならば「飲む」という動作を始めようとする段階を表します。このような動作の段階を表すのが相です。

すでに表で示したように、シャレイア語は5つの相をもちます。そのうち無相を除く4つの相は、以下の図のようにまとめられます。

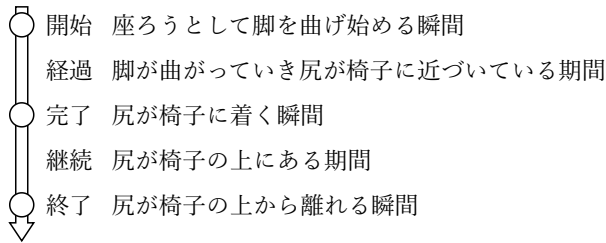


ここで、前の表にはなかった「終了相」という相が含まれています。これは、今後の説明をしやすくするために追加した仮想の相です。シャレイア語の活用で明示する方法はないので注意してください。

開始相, 完了相, 終了相の3つは、動作の段階の中のある1点を指します。開始相は動作が始まった瞬間を表し、完了相は動作が完了した瞬間を指し、終了相は動作が完了した後の状態すら終わった瞬間を表します。これらの3つの相は、まとめて「瞬間相」とも呼ばれます。

残りの経過相, 継続相の2つは、瞬間相で表される点の間の期間を表します。上の図が示すように、経過相は開始相と完了相の間を表します。すなわち、動作が始まってから完了するまでの期間です。また、継続相は完了相と終了相の間を表し、これは動作が完了してからその状態が終了するまでの期間になります。これらの2つの相は、まとめて「期間相」と呼ばれます。

具体例を見てみましょう。「椅子に座る」という行為について、それぞれの相が何を表すかを具体的に示したのが以下の図です。



いくつか用例を挙げます。

déqac a ces ca dezet.

▶ 彼は椅子に座る途中だ。

déqat a ces ca dezet.

▶ 彼は椅子に座っている。

さて、最後に無相についてですが、これには2つの用法があります。まず1つ目として、動作が開始してから完了するまでの一連の動作の全体を表します。

qiniles a ces e zeqil ca kosax.

▶ 彼は机を学校に運んだ。

この例では過去時制無相の形が用いられているので、過去のある時点で、「机を運ぶ」という行為を始めてから終わるまでが行われたことを表しています。

注意点として、無相は現在時制と用いられることはありません。これは、無相は一連の動作全体を表すので時間的な幅をもちますが、現在時制は時間軸上の幅のない1点を表すためです。ただし、これは第14課や第20課で学ぶ内容ですが、kin節や限定節の中では、時制が表す時間が主節と相対的に決まるため、現在時制無相が例外的にあり得ます。

無相の残りの用法は、段階を特に指定せずに動作そのものを表したいときに使うというものです。この用法の具体例は、第14課以降で出てきます。

5 ▶ 経過相と継続相

経過相と継続相は、ともに日本語の「～している」に対応し非常に紛らわしいので、特に注意してください。経過相は動作の完了より前の状態を表し、継続相は動作の完了より後の状態を表します。

いくつか例を挙げて違いを詳しく説明します。

kômat a ces e lâfas azaf.

▶ 彼女は赤いワンピースを着ている。

日本語の「着ている」は、普通「着る」という動作が終わった後の服を身に着けている状態を表します。つまり「着る」という動作が完了した後の状態なので、シャレイア語では継続相で表されます。

これが経過相で使われていた場合、「着る」という動作が全て完了する前の状態を表します。つまり、シャツなら頭や腕を通して期間で、ズボンやスカートなら脚を通して期間です。

zamekac a ces e tomek te sot.

▶ 彼は今肉を焼いている。

今度は日本語の「焼いている」ですが、これは普通「焼く」という動作が終わった後ではなく動作の途中を表します。したがって、対応するシャレイア語の相は経過相になります。

sâfat a tel e lesit.

▶ 私はミカンが好きだ。

sâf は動詞としての意味が「好む」という意味の単語です。上の例文では現在時制継続相で用いられているので、現在の時点で「好む」という動作が完了した後の状態、すなわち「好き」という状態であることを表しています。

仮に継続相ではなく経過相で用いられていたとすると、「好む」という行為を始めてから完了するまでの期間を表すので、好きそうだと思い始めて実際に好きになるまでの間を表してしまいます。

6 ▶ 態

日本語の「着せる」は、「着る」という動作を相手が行えるように手助けするという意味があります。このような、相手が何らかの行為をするのを手伝うという形の動作を、シャレイア語では「補助態」と呼んでいます。それに対して、もとなる動作を表す動詞は「通常態」と呼びます。

例えば、「着せる」は補助態で、「着る」はそれに対応する通常態です。また、「寝かせる」は補助態で「寝る」は通常態です。

シャレイア語では、通常態と補助態は同じ単語を用い、どちらの意味なのかは活用によって明示します。

すでに説明したように、補助態は相手が何らかの動作をするのを手助けするという意味になります。このとき、補助する主体は *li* という助詞で表し、補助の相手の方は *a* で表します。

déxes a yaf.

▶ 妹は寝た。

déxez **li tel** a yaf.

▶ 私は妹を寝かせた。

動詞が通常態か補助態かによって、日本語の「～が」や「～は」に対応する助詞が変わることには注意してください。これについては、通常態か補助態に関わらず、動詞が表す動作を結果的に行うことになる側が常に *a* 句だと捉えるのが良いでしょう。「妹は寝た」でも「私は妹を寝かせた」でも結果的に寝ることになるのは妹ですが、上の例文を見るとこの妹がともに *a* 句で表されています。

補助態の相手は人であるとは限りません。例えば *tòlec* は、通常態としては「自分自身が転がる」を表し、補助態としては「何かが転がるのを手助けする」すなわち「何かを転がす」を表します。

tòlecez **li tel** a soqal.

▶ 私はボールを転がした。

新出単語

動 *sâf* — 動 好む
 名 *sot* — 名 今
 名 *soqal* — 名 ボール
 動 *zaf* — 形 赤い
 動 *zamek* — 動 焼く 形 焼かれた
 名 *zeqil* — 名 机
 名 *tacál* — 名 明日
 動 *tòlec* — 動 転がる
 名 *tomek* — 名 肉
 名 *dezet* — 名 椅子
 動 *déq* — 動 座る
 動 *déx* — 動 寝る
 名 *kosax* — 名 学校

動 *kôk* — 副 必ず
 動 *vahix* — 動 死ぬ
 名 *qixov* — 名 パソコン
 動 *qinil* — 動 運ぶ
 動 *qoras* — 動 旅行する
 名 *lâfas* — 名 ワンピース
 名 *laxol* — 名 人間
 名 *lesit* — 名 ミカン
 助 *li* — 助 ～が (補助態主語)
 動 *lôq* — 動 貸す
 名 *refet* — 名 友達
 名 *rix* — 名 名詞
 名 *yaf* — 名 妹

不定辞の活用 II

1 ▶ 動詞型不定辞の動詞以外の活用

動詞型不定辞は動詞、形容詞、副詞、名詞の4種類の文法的品詞をとることができるのでした。動詞としての活用については、第5課で学んだ通りです。

動詞型不定辞を形容詞として使うときは、語幹の前に活用接頭辞の **a** を付けます。例えば、動詞型不定辞の **bik** を形容詞として使うときは **abik** という形になります。

lekutet a ces ca loqis **abik**.

▶ 彼は青い車に乗っていた。

動詞型不定辞を副詞として使うときは、活用接頭辞の **o** を付けます。例えば、動詞型不定辞の **dalaz** を副詞として使うときは **odalaz** となります。

sitayes **odalaz** a qasot i ces.

▶ 彼の息子が元気に挨拶した。

動詞型不定辞を名詞として使うときは、語幹をそのまま文中に置き、接頭辞や接尾辞は付けません。

2 ▶ 連述詞型不定辞と特殊詞型不定辞の活用

連述詞型不定辞は連述詞としてしか使うことはできませんが、このとき活用接頭辞の **e** が付きます。したがって、連述詞型不定辞が語幹のままで使われることはありません。例えば、連述詞型不定辞の **tim** は、形容詞や副詞を修飾して「少し」などの意味で使われますが、このとき常に **etim** という形になります。

xolacac a hinof i tel vo teqiv aqon **etim**.

▶ 私の姉は少し遠い町で暮らしている。

特殊詞型不定辞も特殊詞としてしか使えませんが、常に活用接頭辞の **e** が付きます。例えば、特殊詞型不定辞の **voc** は、主に名詞などを修飾して「～もまた」の意味で使われますが、常に **evoc** という形になります。

cákes a ces **evoc** ca sod i tel.

▶ 彼も私の家に来た。

3 ▶ 名詞型不定辞の活用

名詞型不定辞は名詞か形容詞のどちらかとして使うことができました。

名詞型不定辞を名詞として使うときは、語幹をそのまま用い、接頭辞や接尾辞は付けません。

名詞型不定辞を形容詞として使うときは、動詞型不定辞を形容詞として使うときと同じく、活用接頭辞の **a** を付けます。ただし、名詞型不定辞が形容詞として使われる場面は非常に限られており、通常の文章や会話においてはほぼ見られないので、名詞型不定辞は活用しないと考えてしまっても構いません。

新出単語

動 sitay — 動 挨拶する

名 teqiv — 名 町

述 tim — 述 少し

動 dalaz — 形 元気な 副 元気に

特 voc — 特 も

動 bik — 形 青い

動 cák — 動 来る

名 qasot — 名 息子

動 qon — 形 遠い 動 遠ざかる

動 xolac — 動 暮らす

動 lekut — 動 乗る

名 hinof — 名 姉

演習問題 1

1. 次の単語を指定された文法的品詞として使える形に活用させなさい。

- (1) lic → 動詞, 現在時制経過相通常態
- (2) qôl → 形容詞
- (3) bâl → 副詞
- (4) ter → 動詞, 過去時制無相補助態
- (5) voc → 特殊詞

2. 次の活用した単語の文法的品詞を答えなさい。動詞の場合は、その時制と相と態も併せて答えなさい。

- (1) amay
- (2) kômet
- (3) etim
- (4) otudkol
- (5) vilisiq
- (6) ebam

3. 次の動詞型不定辞を指定された日本語訳に合うように活用させなさい。

- (1) lic → 見ている
- (2) sôd → 食べさせた
- (3) hit → 立っていた (直立した状態)
- (4) hizel → (今後) 勝つだろう
- (5) déx → 寝ている (意識がない状態)
- (6) líd → 読んでいた

4. 次の文中にある囲まれた単語を適切な形に活用させ、指定された意味になるような文を作りなさい。

- (1) sôdes a tel e sakil may.
▶ 私は甘いリンゴを食べた。
- (2) déqes kebiq a ces.
▶ 彼は落ち着いて座った。
- (3) debat tim a tel.
▶ 私は少し疲れている。
- (4) lîdes a tel e xoq fik voc.
▶ 私はこの本も読んだ。

5. 次の語句を並び替えて、指定された意味になるような文を作りなさい。

- (1) odalaz | zédices | a ces
▶ 彼は元気に運動した。
- (2) déxes | etut | a tel
▶ 私だけが寝た。
- (3) a ces | fegis | e zeqil
▶ 彼は机を買うだろう。
- (4) axodol | séqes | tel | a | e | qixov | afik
▶ 私はこの高価なパソコンをあげた。
- (5) aqon | vo | xolacac | qasot | teqiv | a | ebam
▶ 息子はとても遠い場所で暮らしている。
- (6) a | catac | hinof | tel | i
▶ 私の姉は歩いている。
- (7) solak | a | kômet | tel | e | ces | yaf | i | i
▶ 彼の妹は私の服を着ていた。
- (8) li | fay | terez | e | tel | a | lefom
▶ 私は娘に牛乳を飲ませた。

6. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) zédicac a tel.
- (2) teres a ces e rix abigit.
- (3) zavagac a fakel vo naflat.
- (4) qoletes a ces e qixov te tazît.
- (5) cåkak a ces ca sod i tel te sot.
- (6) nifetis a tel e sokiç azaf ca fêd okôk.
- (7) déqez li tel a refet ca dezet.
- (8) zazez eham li ces a tel.
- (9) cipases ocazec a tel ca qasot e déx.
- (10) feges a yaf i tel e sakil amay etim vo vosis afik.

7. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 猫が現れた。
- (2) 彼はミカンを食べている。
- (3) 私は今座っている。
- (4) 彼女は鍵を家を探している。
- (5) 私はおいしいチョコレートを彼にあげた。
- (6) 私の息子は公園に明日行く。
- (7) 私は彼の古い腕時計を見た。
- (8) 私は車がとても好きだ。
- (9) 彼女は私を笑わせた。
- (10) 彼は今妹にワンピースを着せているところだ。

新出単語

動 zaz — 動 驚く
 動 zavag — 動 叫ぶ
 動 tudkol — 副 急に 形 急な
 名 fakel — 名 女性
 名 fay — 名 娘
 名 fokeq — 名 鍵
 名 vosis — 名 店

動 bigit — 形 冷たい
 動 cat — 動 歩く
 名 lefom — 名 牛乳
 動 lid — 動 読む
 動 rez — 動 笑う
 動 hizel — 動 勝つ

特殊な動詞

salat a tel e cossác.

▶ 私は教師だ。

salat a cèr afik e azâg.

▶ このお茶は熱い。

kavat a tel e nîl.

▶ 私には兄がいる。

1 ▶ sal

「AはBである」ということを述べたい場合は、動詞型不定辞 **sal** を動詞として使い、〈sal の活用形 + a A e B〉という形にします。この **sal** は英語の **be** 動詞に相当する単語です。

salat a tel e cossác.

▶ 私は教師だ。

sal が動詞として用いられるときは、常に継続相通常態として用いられます。時制は4種類全てとることができます。したがって、活用形は **salat**, **salet**, **salit**, **salot** の4種類のみになります。

salet a kedet aquk e kosben.

▶ あの建物は病院だった。

上の例のように **sal** を過去形で用いれば、過去のことを表すことができます。

2 ▶ 形容詞をとる助詞

sal は少し特殊で、動詞として使ったときの **e** 句に名詞だけでなく形容詞も置くことができます。

salat a cèr afik **e azâg**.

▶ このお茶は熱い。

この例文では、〈sal の活用形 + a A e B〉という構文において、**e** 句の **B** の位置

に **azâg** という形容詞が置かれ、「お茶が熱い」ということを表しています。

このような助詞句の中身として形容詞が置かれる例は、**sal** の他にも **nis** でも見られます。〈**nis** の活用形 + **a A zi B ca C**〉という形で「**A** が **B** という状態から **C** という状態に変わった」という意味になるのですが、このときの **B** と **C** の位置に形容詞が置かれることがあります。

nises a hîx **zi akesel** **ca alevac**.

▶ 空が水色からオレンジ色に変わった。

なお、変化前の状態に言及する必要がない場合は、**zi** 句を省略して 〈**nis** の活用形 + **a A ca C**〉の形にすることもできます。

3 ▶ **kav** と **qet**

動詞型不定辞の **kav** は、動詞としてはたいてい継続相通常態で用いられ、〈**kav** の活用形 + **a A e B**〉という形で「**A** に関して **B** がある」という意味になります。英語の **have** に相当すると考えればイメージが湧きやすいでしょう。

kavat **a tel e nîl**.

▶ 私には兄がいる。

日本語の「いる」や「存在する」に相当する単語には、**kav** の他にも **qet** があります。こちらは、誰かに関係して存在するというよりは、存在する場所に焦点を当てる単語です。このとき、存在する場所は **ca** 句で表すので、〈**qet** の活用形 + **a A ca B**〉という形になります。

qetat **a nîl ca qôd**.

▶ 兄があそこにいる。

新出単語

動 **sal** — 動 である
 動 **zâg** — 形 熱い
 動 **kav** — 動 もつ
 動 **kesel** — 形 水色の
 名 **kedet** — 名 建物
 名 **kosben** — 名 病院
 名 **cêr** — 名 お茶
 名 **cossác** — 名 教師、先生

動 **qet** — 動 いる、ある
 名 **qôd** — 名 あそこ
 動 **quk** — 形 あの
 動 **levac** — 形 オレンジ色の
 動 **nis** — 動 なる、変わる
 名 **nîl** — 名 兄
 名 **hîx** — 名 空

否定表現

dusokat a ces e yét.

▶ 彼は真実を知らない。

kûtat a ces e zat adusokes avôl.

▶ 彼はたくさんの必要でないものを所持している。

salat a tel e dutific.

▶ 私は子供ではない。

keqilac a dus e sod afik te sot.

▶ 今は誰もこの家に住んでいない。

fexasat a lef adak i tel.

▶ 私の知人は誰も結婚していない。

1 ▶ 動詞の否定形

動詞型不定辞が動詞として用いられているとき、その活用形の前に **du** を付けることで、その意味を否定することができます。**du** を付けた動詞は、通常の動詞と同じように文中で用いることができます。

dusokat a ces e yét.

▶ 彼は真実を知らない。

sokat は「知っている」という意味の動詞ですが、**du** を付けて **dusokat** とすると、その否定の「知らない」を意味するようになります。上の文は、その **dusokat** が用いられている例です。

なお、**du** は独立した単語ではなく接頭辞なので、**du** の後にスペースは入れられません。

2 ▶ 修飾語の否定形

形容詞や副詞などの修飾語として用いられている単語は、活用接頭辞の **a, o, e** が付いた形で文中に現れますが、このような単語を否定するときは、すでに付けられている活用接頭辞と語幹の間に **du** を入れます。例えば、**sokes** の形容詞としての活用形 **asokes** の否定形は **adusokes** になります。

kûtat a ces e zat **adusokes** avôl.

▶ 彼はたくさんの必要でないものを所持している。

salat a qasot i ces e **adusiref**.

▶ 彼の息子はおとなしくない。

yepeles **oducazec** a tel.

▶ 私は真剣でなく歌った。

3 ▶ 名詞の否定形

名詞の前に **du** を付けることで、その名詞も否定することができます。このときは「～ではないもの」という意味になります。

salat a tel e **dutific**.

▶ 私は子供ではない。

この例では、「子供」を意味する **tific** が否定され、「子供ではないもの」という意味で使われています。

これと同じ意味の文章は、以下のように動詞の **salat** を否定しても作ることができます。

dusalat a tel e tific.

▶ 私は子供ではない。

ただし、この文が単に「子供ではない」ということを主張するだけなのに対し、**dutific** を用いた前の文では動詞は否定されていないので、「子供ではない何かである」すなわち「大人である」というニュアンスが含まれます。

また、動詞を否定する場合とは違い、名詞を否定することで否定の意味の単語を文末側に配置することができます。第10課で学びますが、文末に近い要素ほど相手に伝えたい内容になるので、これによって否定の意味を少し強調することができます。

4 ▶ 否定相当語

シャレイア語には、それ自体で否定の意味をもつ単語がいくつかあります。このような単語は「否定相当語」と呼ばれます。

以下の表に、主な否定相当語を示します。これらの単語は、常に1つの文法的品

詞でしか用いられないため、それも併記します。

単語	意味	品詞
dus	誰も～しない	名詞
dat	何も～しない	名詞
dol	どんなことも～しない	名詞
dak	どんな～も～しない	形容詞
dûg	決して～しない	副詞
dum	全く～しない	副詞

例えば、**dak** は動詞型不定辞なので、理論上は動詞や副詞としても用いることができますが、実際には動詞や副詞としては用いられず、常に形容詞になります。

いくつか否定相当語を用いた例を挙げます。

keqilac a **dus** e sod afik te sot.

▶ 今は誰もこの家に住んでいない。

この例文では **dus** が用いられています。**dus** は英語の **nobody** に相当する単語です。単体で「0 人の人が～する」もしくは「誰も～しない」という意味になるので、上の文は「0 人の人が住んでいる」すなわち「誰も住んでいない」という意味になっています。

déqitis a ces e loc **odûg**.

▶ 彼は決してあなたを馬鹿にしないだろう。

この文では **dûg** が用いられています。**dûg** は英語の **never** に相当する単語で、副詞として「0% の確率で～」や「絶対に～しない」のような意味をもちます。そのため、上の文は「絶対に馬鹿にしないだろう」という意味になります。

dat と **dol** は明確に使い分けられるので注意してください。**dat** は物体や概念などが存在しないときに、**dol** は行為や出来事などが存在しないときに用います。

beqomes a ces e **dat** zi tel.

▶ 彼は何も私から盗んでいなかった。

leses a tel e **dol** abûd.

▶ 私は悪いことを何もしなかった。

最初の例文では **dat** が用いられていますが、これは盗むのが財布などの物体であるためです。次の例文には **dol** が含まれていますが、こちらは内容のある出来事

であるためです。英語ではどちらも **nothing** で表現しますが、シャレイア語では物体か出来事かを区別して、別の単語で表現します。

dak は形容詞として用いられて「0 人の」や「0 個の」などを意味し、修飾する単語が存在しないことを表します。

fexasat a lef **adak i tel.**

▶ 私の知人は誰も結婚していない。

この例文は、**lef **adak**** で「0 人の知人」を表すので、全体で「私の 0 人の知人が結婚している」すなわち「私の知人は誰も結婚していない」の意味になっています。

新出単語

動 **siref** — 形 おとなしい 副 おとなしく
 動 **sok** — 動 知る
 動 **sokes** — 形 必要な 動 必要とする
 名 **zat** — 名 もの
 名 **dat** — 名 何も～しない
 動 **dak** — 形 どんな～も～しない
 動 **déqit** — 動 馬鹿にする
 名 **dol** — 名 どんなことも～しない
 名 **dus** — 名 誰も～しない
 動 **dûg** — 副 決して～しない
 動 **dum** — 副 全く～しない

動 **keqil** — 動 住む
 動 **kût** — 動 所持する
 動 **fexas** — 動 結婚する
 動 **vôi** — 形 たくさんの, 多い
 動 **beqom** — 動 盗む
 動 **bûd** — 形 悪い
 動 **les** — 動 する
 名 **lef** — 名 知人
 名 **loc** — 名 あなた
 名 **yét** — 名 真実
 動 **yepel** — 動 歌う

疑問表現

pa folanes ovip a ces?

▶ 彼はもう出かけましたか?

pa cazes a pas e rát acik ca loc?

▶ 誰がその話をあなたに伝えたのですか?

pa bozetes a loc e ces vade pil?

▶ なぜあなたは彼を殴ったのですか?

1 ▶ 諾否疑問文

普通の文の動詞の前に **pa** を置くことで、その文の内容の真偽を問う疑問文を作ることができます。**pa** を置く以外の語順や構文の変化はありません。なお、**pa** があるとその文は疑問文になるので、文末にデックではなくパデックを置きます。読むときは文末を上昇気味にします。

pa folanes ovip a ces?

▶ 彼はもう出かけましたか?

2 ▶ 諾否疑問文への答え方

諾否疑問文は文の内容の真偽を問う疑問文なので、回答は「はい」か「いいえ」になります。シャレイア語では、それぞれ **ya** と **du** を用います。

pa folanes ovip a ces?

▶ 彼はもう出かけましたか?

du.

▶ いいえ。

この例では、「いいえ」に相当する **du** で答えています。すなわち、尋ねられた「彼はもう出かけた」という内容が誤りであると言っています。

動詞が否定形になっている諾否疑問文に答えるときは、少し注意が必要です。**ya** は尋ねられた疑問文から **pa** を除いた文が正しいときに用い、**du** はそうでないときに用います。英語の **yes** と **no** とは違い、**ya** と **du** は回答が肯定文か否定

文かで使い分けるわけではありません。

pa **duniciqez** li loc a deset aquk te saq?

▶ あなたはあのベッドを今日動かしませんでしたか?

ya.

▶ はい。

この例文では ya と答えているので、疑問文から pa を除いた文の内容である「あなたはあのベッドを動かさなかった」が正しいと述べています。

3 ▶ 疑問詞疑問文

尋ねたい箇所を疑問詞に変え、疑問文であることを表す pa を動詞の前に置くことで、疑問詞を用いた疑問文を作ることができます。

シャレイア語の疑問詞には、以下のようなものがあります。これらの単語は、実際に文中で使われる文法的品詞が定まっているので、それも併記します。

単語	意味	品詞
pas	誰	名詞
pet	何	名詞
pil	どんなこと	名詞
pâd	どこ	名詞
pek	どの	形容詞
péf	どのような	形容詞

疑問詞は、普通の単語と同じように用いられます。語順の変化はありません。

pa cazes a **pas** e rát acik ca loc?

▶ 誰がその話をあなたに伝えたのですか?

pek は、それが修飾する名詞で表されるもののうちのどれであるかを尋ねる疑問詞です。一方で péf は、それが修飾する名詞の様子や性質を尋ねる疑問詞です。ともに日本語の「どんな」に対応するので、使い分けには注意してください。

pa sâfat a loc e velex **apek**?

▶ あなたはどんな色が好きですか?

pa sâfat a loc e velex **apéf**?

▶ あなたはどんな色が好きですか?

最初の文は **pek** が用いられています。この疑問文が尋ねているのは、様々な色のうちどれが好きなのかということなので、回答は「赤」や「青」などの具体的な色になります。一方、次の文は **péf** が用いられています。この場合、好きな色の様子が尋ねられているので、回答は「明るい色」や「濃い色」のような色の形容になります。

4 ▶ 助詞と作る疑問句

「いつ」や「なぜ」などの副詞的な疑問表現に対応する単語は、シャレイア語にはありません。その代わりに、このような疑問表現は、上に挙げた疑問詞と助詞を組み合わせて作ります。例えば、時間を表す助詞の **te** と物を尋ねる疑問詞の **pet** を組み合わせて **te pet** とすれば、「いつ」の意味になります。

このようにして作られる疑問表現には、以下のようなものがあります。

表現	意味
te pet	いつ
qi pil	どうやって
vade pil	なぜ

qi は道具や方法を表す助詞で、**vade** は理由を表す助詞です。

これらの疑問表現は、普通の助詞句と同じように文中で使うことができます。

pa bozetes a loc e ces vade pil?

▶ なぜあなたは彼を殴ったのですか？

5 ▶ 疑問詞疑問文への答え方

用いられている疑問詞が **pas, pet, pâd, pek** の場合は、回答が名詞になります。この場合、回答となる名詞の前に疑問詞とともに用いられている助詞を置くことで助詞句を作り、この助詞句を単独で用いて疑問文に答えます。

pa qetet a loc te lon i tazît vo pâd?

▶ あなたは昨日の夜どこにいましたか？

vo naflat.

▶ 公園です。

疑問詞が **péf** の場合は、ものの様子が尋ねられているので、回答は形容詞になります。このような場合、**péf** が含まれている助詞句において、**péf** を回答とな

る形容詞に置き換えたものを答えます。形容詞のみで答えることはしません。

pa kômec a ces **e solak apéf**?

▶ 彼はどんな洋服を着ていましたか?

e solak axalket.

▶ かっこいい洋服です。

疑問詞が pil の場合、これは内容のあるコトを尋ねる疑問詞なので、回答は基本的に文になります。このような疑問文に答える場合、回答となる文をそのまま答えます。

pa lesec a loc **e pil** te tazîthil?

▶ あなたは一昨日何をしていましたか?

yepelec a tel vo sod.

▶ 家で歌っていました。

なお、このときに用いられている助詞が qi や vade のような接続詞の用法をもつものであれば、その接続詞を文の前に付け、1つの独立した接続詞節として答えることがあります。助接辞の接続詞としての用法については、第13課で学ぶ予定です。

新出単語

名 saq — 名 今日
 名 tazîthil — 名 一昨日
 名 deset — 名 ベッド
 問 du — 問 いいえ
 動 folan — 動 出かける
 助 vade — 接 〜するので
 名 velex — 名 色
 動 vip — 副 もう
 機 pa — 機 へか (疑問)
 名 pas — 名 誰
 名 pâd — 名 どこ
 名 pet — 名 何

動 pek — 形 どの
 動 péf — 形 どのような
 名 pil — 名 どんなこと
 動 bozet — 動 殴る
 動 caz — 動 伝える
 動 cik — 形 その
 助 qi — 助 〜で (道具) 接 〜することで
 動 xalket — 形 かっこいい, オシャレな
 名 lon — 名 夜
 名 rát — 名 話
 動 niciq — 動 動く
 問 ya — 問 はい

助詞句の順序

1 ▶ 話題と新情報

第2課で学んだように、動詞の後に置く助詞句の順番に文法的制約はありません。しかし、助詞句の順番を変えると文のニュアンスが少し変わります。

シャレイア語では、文の最初にある助詞句はその文の話題を表していると捉えられます。そして、残りの助詞句は、その話題に対する聞き手もしくは読み手にとっての新しい情報になります。特に、文末に近い助詞句ほど、話し手もしくは書き手がその文で言いたかったことだと考えられます。

例文を1つ挙げて具体的に見てみましょう。

lôqes a tel ca ces e kisol.

▶ 私は彼にお金を貸した。

この文における一番最初の助詞句は **a tel** です。したがって、この文の話題は「私」であるということになります。別の言い方をすれば、この文は相手に対して「今から私のことについて話しますよ」ということを暗に伝えます。さらに、この文は **ca ces e kisol** と続いているので、話題として提示した「私」に対して「彼にお金を貸した」という新しい情報を与えています。特に、最後の助詞句が **e kisol** なので、「貸したのがお金である」ということが強調されます。

では、この文の助詞句の順番を変えてみましょう。前の文で動詞の直後にあった **a tel** を文末に移動させてみます。

lôqes ca ces e kisol a tel.

▶ 彼にお金を貸したのは私だ。

今度は最初の助詞句が **ca ces** になったので、この文が言いたいのは「彼」についてであるということになります。そして、残りの助詞句が **e kisol a tel** なので、その「彼」に対して「私がお金を貸した」という情報を与え、特に「貸したのが他の誰でもなく私である」ということを強調しています。

文末に近いほど新情報として強調されるというのは、助詞句だけではなく副詞にも当てはまります。第3課で副詞は動詞の直後か文末に並べることを学びましたが、文末に置かれた副詞は「それがこの文で言いたかった内容である」というニュアンスで強調されます。

2 ▶ 文章の流れ

シャレイア語の文章では、文頭側が話題で文末側が新情報だということをふまえて、相手がスムーズに理解できるように助詞句が配置されます。

以下の2つの文を考えてみましょう。1つ目の文の後に2つ目の文が続いていると考えてください。

paqofes a tel **e lofyet ahafas**.

▶ 私はピンクのリボンをなくした。

séqes **e cit** ca tel a refet.

▶ それは私に友達がくれたものだ。

この2つの連続する文を今読んでいとしましょう。1つ目の文を読んでいくと、まず最初に **a tel** という助詞句があるので、これからこの文章を書いた人について述べるのだと分かります。この文は **e lofyet ahafas** で終わるので、この時点で「リボンをなくした」という情報が得られます。続けて2つ目の文に差し掛かると、まず **e cit** という助詞句が見つかります。この時点では、前の文の新情報であった「リボンをなくした」という内容が頭に残っているので、すんなりと **cit** が「前の文でなくしたと述べられたリボン」を指していると分かり、さらにこの文でリボンについて何か述べられるということも分かります。そして **a refet** まで読むと、「さっきのリボンは友達がくれたものだ」という新しい情報がさらに得られます。

さて、ここで2つ目の文の助詞句の順番を以下のように変えてみましょう。

séqes a refet ca tel **e cit**.

▶ 友達が私にそれをくれた。

こうすると、1つ目の文を読み終わって「リボンをなくした」という情報が頭に残っている状態で、最初に **a refet** という助詞句を読むことになります。これにより、「さっきのリボンは置いておいて今度は友達について何か述べる」と解釈することになるので、別の話が始まったと勘違いしてしまうでしょう。この文が前の文に続いてリボンについて話していると気づくのは、文末の **e cit** まで読んだ時点です。これでは、話の流れが掴みにくいのが分かるでしょうか。

以上のように、文章をスムーズに読んでもらうためには、助詞句の順序が非常に重要です。助詞句の順序を決めるときに最も大事なものは、前の文の新情報が次の文の話題になるようにすることです。助詞句はどのように並べても文法的に

間違いにはなりませんが、文章の読みやすさに直結するので、シャレイア語で文章を書くときは気をつけるようにしてください。

3 ▶ 助詞句の省略

シャレイア語では、文中に存在しない助詞句については、普通は「何らかの人」や「何らかのもの」が省略されていると解釈されます。

qopates a tel ca kùd i hinad.

▶ 私は山奥に隠した。

この文には **e** 句がありません。したがって、**e** 句として「何らかのもの」を補って、「私は何らかのものを山奥に隠した」という意味だと捉えられます。もっと言えば、この文には **te** 句がないので、**te** 句として「何らかの時間」を補い、「私は何らかのものを何らかの時間に山奥に隠した」とも解釈されます。このように、文中に存在しないあらゆる助詞句について、「何らかの～」が省略されていると見なされます。

日本語では「私」などの主語がよく省略されますが、シャレイア語では存在しない助詞句については今述べたような意味で解釈されるので、このことに注意して助詞句を省略しなければなりません。

例えば、以下のような文を考えてみましょう。

lanes **a tel** ca kosrahit acik te vác azîť.

▶ 私はその遊園地に去年行った。

日本語でしばしば行われるように、主語を表す **a tel** を省略してみます。

lanes ca kosrahit acik te vác azîť.

▶ その遊園地に去年行った。

存在しない助詞句については「何らかの人」などが省略されていると見なされるので、この文は「誰かが遊園地に行った」のような意味で解釈され、遊園地に行ったのが「私」だというニュアンスはほぼありません。したがって、「私が遊園地に行った」ということを伝えるには、**a tel** は省略できません。

第2課で主語は基本的に省略しないと説明したのは、このような解釈の規則があるためです。主語は常に省略されないというわけではないので注意してください。主語が明示されない文の例は第11課などで出てきます。

4 ▶ 日本語と対応しない助詞

第2課で学んだように、**zi**は日本語の「～から」に対応する助詞です。しかし、一部の動詞と一緒に使われたときに、「～から」とはかけ離れた意味になることがあります。その良い例が **hikut** です。

hikutes a tel e sakil **zi ficot**.

▶ 私はリンゴを布で覆った。

hikut は、動詞として用いると「覆う」という意味になります。この動詞は、**zi** 句で覆うのに用いたものを表すので、この **zi** は日本語の「～から」というより「～で」に相当します。

同じように、**ca** は「～に」や「～へ」に相当する助詞ですが、そのように訳せない場合もあります。典型的なのが **liteq** に対して使われた場合です。

liteqes a tel **ca naflat**.

▶ 私は公園を通過した。

liteq は、動詞として「通過する」という意味をもちます。このとき、通過した場所は **ca** 句で表すことになっています。日本語では普通「～を通過する」のようになるので、この文では **ca** が「～を」と対応していることになります。

以上のように、シャレイア語の助詞と日本語の助詞はぴったり対応するわけではありません。辞書で動詞型不定辞を引くと、動詞として使われたときに助詞がどのような意味になるかが必ず書かれているので、ときどき確認するようにしましょう。

新出単語

動 **zīt** — 形 前の
 名 **kisol** — 名 お金
 名 **kosrahit** — 名 遊園地
 名 **kùd** — 名 奥
 名 **ficot** — 名 布
 名 **vác** — 名 年
 動 **paqof** — 動 なくす

名 **cit** — 名 それ
 動 **qopat** — 動 隠す
 動 **liteq** — 動 通過する
 名 **lofyet** — 名 リボン
 動 **hafas** — 形 ピンク色の
 動 **hikut** — 動 覆う
 名 **hinad** — 名 山

受動相当表現

selbutes ca tel a fax.

▶ 私は母親に叱られた。

ziltises ca tel.

▶ 私はからかわれた。

1 ▶ 受動相当表現

「叱られる」のような「～される」という受け身を表す構文は、シャレイア語にはありません。代わりに、第10課で学んだ助詞句の位置による意味合いの違いをうまく活かして、受け身のようなニュアンスを作ります。

受け身の表現を使う理由には様々ありますが、その理由の1つに、目的語を主語にすることで、それを文の主題にするというものがあります。例えば、「母親は私を叱る」と「私は母親に叱られる」では同じ出来事を表現していますが、最初の表現では動作の主体である「母親」が主題になっているのに対し、次の表現では動作の目的語である「私」が主題になっており、これを実現するために受け身の「叱られる」が用いられています。

第10課で学んだように、シャレイア語の文の主題が何になるかは、主語なのか目的語なのかとは関係なく、文の最初にどの助詞句があるかで決まります。そこで、動作の目的語を主題とした「私は母親に叱られる」をシャレイア語で表現するには、「母親は私を叱る」という普通の文を書き、目的語である「私」を動詞の直後に置けば良いのです。

selbutes ca tel a fax.

▶ 私は母親に叱られた。

このように助詞句を入れ替えて受け身のニュアンスを出す表現を、他の受動態のある言語と比較して、「受動相当表現」と呼ぶことがあります。大層な名前ですが、単なる助詞句の入れ替えなので、特別な構文ではありません。

2 ▶ 主語がない受動相当表現

主語がない文も受け身のような意味合いになります。

ziltises ca tel.

▶ 私はからかわれた。

第10課では、存在しない助詞句は「何らかのもの」などが置かれていたと解釈されることを学びました。そのことをふまえると、上の文は「何らかの人が私をからかった」という意味で、最初の助詞句である「私」が主題として提示されている文となるため、日本語の「私はからかわれた」に近いニュアンスになります。

新出単語

動 selbut — **動** 叱る
動 ziltis — **動** からかう

名 fax — **名** 母親

演習問題 2

1. 次の2つの語句を **sal** で繋げて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) cit, dev

▶ それはペンだ。

(2) ces, cosyepel

▶ 彼は (将来) 歌手だろう。

(3) tirmal afik, asaret

▶ このジュースはおいしい。

(4) yaf i tel, adalaz

▶ 私の妹は元気だった。

2. 次の2つの語句に加えて **kav** または **qet** を使うことで、指定された意味の文を作りなさい。

(1) qasot i tel, sod

▶ 私の息子は家にいた。

(2) ces, qaled

▶ 彼女には弟がいる。

(3) xoq afik, qinat

▶ この本には絵がない。

(4) tel, sokul i ces

▶ 私は彼の部屋にはいなかった。

3. 次の活用した単語を文法的品詞を変えずに否定形にしないさい。

(1) ebam

(2) tòlecis

(3) ahafas

(4) lef

4. 次の文の空欄に否定相当語を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

- (1) yepelac a .
- ▶ 誰も歌っていない。
- (2) leses a tel e te saq.
- ▶ 私は今日何もしなかった。
- (3) qetat a ca sokul afik.
- ▶ この部屋には何もない。
- (4) salat a refet i tel e axalket.
- ▶ 私の友達是谁もかっこよくない。
- (5) nozejis a ces .
- ▶ 彼は決して失敗しないだろう。

5. 次の2つの文が自然な受け答えになるように、空欄に **ya** もしくは **du** を入れなさい。

- (1) pa dudebat a loc? / , dudebat a tel.
- (2) pa dukûtat a loc e qixov? / , kûtat a tel e qixov.
- (3) pa qetat a dus ca naflat? / , qetat a lef i tel ca cêd.

6. 次の文の下線部を適切な疑問詞に置き換えて、指定された意味の疑問文を作りなさい。

- (1) lanes a loc ca kosrahî.
- ▶ あなたはどこに行きましたか?
- (2) selbutac a ces ca qasot te sot.
- ▶ 彼は誰を今叱っているのですか?
- (3) fexasas a qaled i tel te tazît.
- ▶ 私の弟はいつ結婚したのですか?
- (4) salat a hinof i loc e ahâl.
- ▶ あなたの姉はどんな感じですか?

7. 次の疑問文に指定された単語を用いて回答する文を作りなさい。

- (1) pa kotikes a loc e monaf vo pād? → naflat
- (2) pa folanis a loc te pet? → lon i saq
- (3) pa keqilac a loc e sod apéf? → avaf

8. 次の語句を入れ替えて、指定された日本語のニュアンスに最も近い文を作りなさい。特に助詞句の順番に注意しなさい。

- (1) a qaled | déqites | e tel
▶ 私は弟に馬鹿にされた。
- (2) e ces | a zissác | yamefes
▶ 彼は先生に褒められた。
- (3) e ledis | a ces | kômaq | li solov
▶ 彼女は親にズボンを着せられている。

9. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) salet a tel te cal e tífic.
- (2) dukavat a tel e hinof.
- (3) séqes a ces e tosol abik ca duqazrêy.
- (4) féves a tel te vác azît zi dus e kisol.
- (5) pa qonoces a loc e solak aqôl aquk?
- (6) pa qetît a ces te tacál ca koskalad?
- (7) pa kûtat a loc e sòlaq apéf?
- (8) pa beqomes a loc e soki q i pas?
- (9) duqidokat omez e qixov afik.
- (10) pa selbutac vade pil e loc etut a ces?

10. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) これは私のペンだ。
- (2) このボールはオレンジ色だ。
- (3) 私は昨日は図書館にいた。
- (4) 私は腕時計をなくしていない。
- (5) あなたは私の本を隠しましたか?
- (6) あなたはどこからここに来たのですか?
- (7) 私の家を通りかかっているのは誰ですか?
- (8) 彼はどうやってその真実を知ったのでしょうか?
- (9) このリンゴは食べられた。
- (10) 私のスマートフォンは壊れている。

新出単語

名 sokul — 名 部屋
 名 sòlaq — 名 スマートフォン
 名 solov — 名 親
 名 zissác — 名 先生, 教師
 名 tosol — 名 帽子
 名 dev — 名 ペン
 名 koskalad — 名 オフィス
 名 kosxoq — 名 図書館
 動 kotik — 動 見つける
 動 fév — 動 借りる
 名 fit — 名 これ
 動 vaf — 形 大きい

名 cal — 名 そのこと
 名 cosyepel — 名 歌手
 名 qazrêy — 名 ボーイフレンド
 名 qaled — 名 弟
 動 qidok — 動 修理する
 名 qinat — 名 絵
 名 ledis — 名 ズボン
 動 nozej — 動 失敗する
 動 mez — 副 まだ
 動 medel — 動 壊す
 動 yamef — 動 褒める
 名 hâl — 名 スカート

第 2 部

第2部では、主に複数の文を1つの文にまとめる方法を学びます。単純に2つの文を並列したり、片方の文を名詞にしてもう一方の文で使ったり、片方の文をもう一方の文の名詞に修飾させたり、文のまとめ方には様々あります。それぞれの場合で構文は異なりますが、これができるようになると一気に表現の幅が広がります。

連結詞

milcitic a tel e dales o monaf.

- ▶ 私は犬と猫を飼っている。

liqetes a tel te tazît e ces, dà dulicanes a ces zi cit.

- ▶ 私は昨日彼に電話したが、彼はそれに応答しなかった。

pa sâfat a loc e zef á bak?

- ▶ あなたは赤と青のどちらが好きですか？

1 ▶ 語句の連結

複数の語句の間に **o** や **ò** を入れることで、それらの語句を連結して1つのまとまりを作ることができます。これらはそれぞれ日本語の「と」や「かつ」に当たる単語です。例えば、dales と monaf を **o** で繋げると dales o monaf となります。

o は基本的に名詞を繋げるのに使い、**ò** は形容詞や副詞や節を繋げるのに使います。どちらの場合でも、繋がれる語句は文法的品詞が同じでなければなりません。例えば、形容詞と動詞は繋げられません。

連結された語句は、全体で1つの単語のように用いることができます。

milcitic a tel e **dales o monaf**.

- ▶ 私は犬と猫を飼っている。

salot a ces e hay **asafey ò akelzef**.

- ▶ 彼女は優しくて頼もしい女の子だ。

最初の例では、名詞の dales と monaf が連結されているので、dales o monaf 全体で1つの名詞として扱われ、e 句を形成しています。次の例では、形容詞の asafey と akelzef が連結され、asafey ò akelzef 全体で1つの形容詞として hay を修飾しています。

3つ以上の語句を繋げたい場合は、それぞれの語句の全ての間に **o** や **ò** を挿入します。タデックなどの記号で代用することはできません。

qikes a ces e tirmal zi **sakil o cilît o márec**.

- ▶ 彼はリンゴとレモンと桃からジュースを作った。

2 ▶ 連結詞

o や ò は連結辞に分類され、文中では連結詞として用いられます。連結辞に分類される単語は、常に連結詞として用いられ、同じ役割の複数の語句を繋げてより大きなまとまりを作る機能をもちます。

シャレイア語の連結辞は以下の表に示すようにちょうど5個あり、o 以外は「別形」と呼ばれる別の語形をもっています。この別形については後述します。

単語	別形	意味	
o		と	並列
ò	lo	かつ	論理積
é	lé	または	論理和
à	dà	しかし	反意
á	lá	または	選択疑問

使い方は全て同様です。ただし、à が3つ以上の語句を繋げることはありません。例文をいくつか挙げておきます。

fesalat a tel e **qinat é keteq** i nát.

▶ 私は花の絵か写真が欲しい。

kiges a ces e naved **okosiz à otív**.

▶ 彼は野菜を丁寧だが素早く切った。

á は選択疑問文を作るときに使います。詳しい用法については後述します。

3 ▶ 文の連結

連結詞は、語句と語句を繋げるだけでなく、文と文を繋げることもできます。このとき、連結詞の直前にタデックを置きます。ただし、連結される2つの文がともに短いときは、このタデックを置かないこともあります。

rezes a tel, **ò** rédes a ces.

▶ 私は笑い、そして彼は泣いた。

この例文では、rezes a tel と rédes a ces という2つの文をòが繋いでいます。ここではòの直前にタデックを置けていますが、連結されている2つの文はどちらも比較的短いので、タデックがなくても自然でしょう。

連結詞が文と文を繋いでいる場合に限り、通常の形の代わりに別形が使われることが多いです。どちらを用いても意味に違いはありません。連結詞が語句と語

句を繋げている場合は、別形が使われることはなく、常に通常の形が用いられます。

liqetes a tel te tazît e ces, **dà** dulicanes a ces zi cit.

▶ 私は昨日彼に電話したが、彼はそれに応答しなかった。

4 ▶ á による選択疑問文

á は疑問文における選択枝を表し、常に疑問文で用いられます。このような疑問文に回答する側は、á で繋がれた選択枝から 1 つを選んで答えることになるので、第 9 課で学んだ疑問詞疑問文への答え方に準じて、助詞句によって回答します。

pa sâfat a loc e **zef á bak**?

▶ あなたは赤と青のどちらが好きですか？

e bak.

▶ 青です。

この文の **zef á bak** の部分が「赤または青のどちらか」という選択枝を表す名詞句になっていて、「赤と青のどちらが好きか」という選択枝を提示する形の疑問文を作っています。

珍しいケースですが、á が動詞を繋いでいる場合は、回答が動詞になります。この場合は、回答となる動詞に加えて、文中にある助詞句のうちいくつか必要なものも合わせて答えるのが自然です。動詞だけを単独で答えることはあまりしません。

pa **rahaset á tigumet** te tazît a loc?

▶ あなたは楽しかったか苦しかったかどちらですか？

rahaset a tel.

▶ 楽しかったです。

á が文を繋いでいる場合は、繋がれた文のうちのどれが正しいかを選択させる疑問文を作ります。このとき、繋がれる両方の文の動詞の前に、疑問を表す **pa** が必要になります。回答する側は、選択枝となっている文のいずれかをそのまま答えます。ただし、そのままでは文が長すぎる場合は、不要な助詞句が省略されることがあります。

pa lanes a loc ca kosax, lá pa qetet a loc vo sod?

▶ あなたは学校に行きましたか、それとも家にいましたか?

5 ▶ á と é の違い

á と é は混同されやすいので注意してください。é は単に語句を「それらのうちのどれか」という意味で繋げるだけなので、é を使って疑問文を作ると諸否疑問文になります。

少し前に作った例文中の á を、以下のように é に変えてみましょう。

pa sâfat a loc e zef é bak?

▶ あなたは赤または青が好きですか?

ya.

▶ はい。

こうなると、「赤または青」が好きかどうかを尋ねているので、赤が好きであるか青が好きであるならば ya と答え、どちらも好きでなければ du と答えることになります。これは選択疑問文ではありません。

新出単語

動 safey — 形 優しい

名 zef — 名 赤

動 tigung — 動 苦しむ

動 tiv — 副 素早く

結 dà — 結 しかし

名 dales — 名 犬

名 keteq — 名 写真

動 kelzef — 形 頼もしい 副 頼もしそうに

動 kig — 動 切る

動 kosiz — 副 丁寧に

動 fesal — 動 欲する

名 bak — 名 青

名 cilit — 名 レモン

動 qik — 動 作る

結 lá — 結 または

結 lé — 結 または

動 lican — 動 応答する

動 liqet — 動 電話する

結 lo — 結 かつ

動 rahas — 動 楽しむ

動 réd — 動 泣く

名 naved — 名 野菜

名 márec — 名 桃

動 milcit — 動 飼う

名 hay — 名 女の子

結 á — 結 または

結 à — 結 しかし

結 é — 結 または

結 o — 結 と

結 ò — 結 かつ

接続詞

nîpet a loqiv ovip, te zêfek a tel ca kolot.

▶ 私が駅に着いたとき、電車はすでに行っていました。

ri kûtit a tel e kisol avosfom, fegis a tel e taqòd.

▶ もし私が膨大な量のお金を持っていたら、島を買うだろう。

kômot a ces e levlis, te edificamos a ces vo riy.

▶ 彼は海で泳ぐときでさえ、眼鏡をかけている。

lanes a ces ca naflat. ce, paleves a ces e tîlirsítpiv.

▶ 彼女は公園に行った。そして、四つ葉のクローバーを探した。

1 ▶ 接続詞

第4課で学んだように、一般に助接辞は文中で助詞としても接続詞としても使うことができます。助詞としての用法は、第2課で学んだ通りです。復習しておくと、名詞の前に置かれて、主語や時間などのその名詞の文中での意味的役割を示すのでした。また、第7課で学んだように、一部の動詞とともに使われる場合は、助詞の後に形容詞が置かれることもあったのでした。

この課では、助接辞を接続詞として使った場合の用法を学びます。助接辞を接続詞として使うと、第12課で学んだ連結詞と似て、文と文を接続する役割を果たします。

ただし、一部の助接辞には接続詞としての用法がありません。ここまで出てきた助接辞の中では、**a** や **e** などがこれに該当します。以下に、接続詞として使うことができる主な助接辞を挙げておきます。

単語	意味
te	～するとき 時間
qi	～することで 手段
vade	～なので 理由
ri	もし～ 条件
so	～するために 目的
cife	～しながら 同時
ce	そして～ 後続

なお、この課で扱う範囲では、接続詞として扱う場合でも、助接辞は活用せず語幹がそのまま用いられます。活用した助接辞の用法については、第 21 課などで学びます。

2 ▶ 接続詞の用法

接続詞の使い方は以下の通りです。まず、接続詞の意味を付け加えたい方の文の前に、その接続詞を置きます。例えば、**te** は接続詞として「～するとき」のように時間を表すので、時間を表している文の前に **te** を置きます。この接続詞を付けた文を別の文の後に置き、接続詞の前にタデックを置けば、2 つの文を繋げることができます。

nîpet a loqiv ovip, te zêfek a tel ca kolot.

▶ 私が駅に着いたとき、電車はすでに行ってしまっていた。

この例では、**nîpet a loqiv ovip** と **zêfek a tel ca kolot** という 2 つの文を **te** が繋げています。**te** が付けられているのは **zêfek** から始まる文の方なので、**zêfek** から始まる文が **nîpet** から始まる文の時間を表すことになります。

接続詞が付けられた方の文を「接続詞節」といい、そうでない方の文を「主節」といいます。

なお、連結詞の場合と同様、接続詞の前のタデックは省略することができます。接続されている 2 つの文がともに短い場合に、タデックが省略されやすい傾向があります。

他の接続詞を使った例もいくつか挙げておきます。

dusâfat a tel e micés afik, vade salat a cit e asîtet ebam.

▶ とても酸っぱいので、私はこのイチゴが好きではない。

semisez li tel a qazek acik, qî tepites a tel e lôcet ca kutaf.

▶ 口にテープを貼り付けることで、私はその男を黙らせた。

接続詞が 2 つの文を繋げているとき、その文が疑問文になっているならば、主節の方の動詞の前にのみ **pa** を置きます。連結詞が疑問文を繋げている場合とは **pa** の扱いが異なることに注意してください。

pa lîdec a loc e xoq apek, te qetet a loc vo sokxoq?

▶ 図書室にいたとき、あなたは何の本を読んでいたのですか?

3 ▶ 接続詞節の位置

ここまでの文では主節の後に接続詞節が置かれていましたが、主節の前に接続詞節を置くこともできます。その場合、主節の直前に必ずタデックを置きます。このタデックは省略できません。

ri kûtit a tel e kisol avosfom, fegis a tel e taqòd.

▶ もし私が膨大な量のお金を持っていたら、島を買うだろう。

連結詞も文を繋ぐことができましたが、連結詞が付いた節をこのように主節の前に置くことはできません。この構文にすることができるのは接続詞のみです。

4 ▶ 接続詞節を修飾する特殊詞

特殊詞は接続詞節全体を修飾することができ、少し例外的ではありますが、その特殊詞は接続詞の直後に置かれます。これ以外の場所に特殊詞を置くことはできません。

kômot a ces e levlis, te edif ricamos a ces vo riy.

▶ 彼は海で泳ぐときでさえ、眼鏡をかけている。

この例では、「彼が海で泳ぐとき」という意味の **te** 節全体を「さえ」という意味の **edif** が修飾し、全体で「彼が海で泳ぐときでさえ」という意味の節を作っています。

5 ▶ 接続詞の副詞的用法

接続詞節が主節の後に置かれている文において、接続詞の前のタデックをデッキを変えて一度文を切ることができます。このようにした場合、さらに接続詞の直後にタデックを置きます。

例えば以下の文を考えてみましょう。

lanes a ces ca naflat, ce paleves a ces e tîlirsîpiv.

▶ 彼女は公園に行き、そして四つ葉のクローバーを探した。

この文で使われている接続詞 **ce** の直前のタデックをデッキに変え、**ce** の直後にタデックを置くと以下ようになります。

lanes a ces ca naflat. ce, paleves a ces e tîlirsîpiv.

▶ 彼女は公園に行った。そして、四つ葉のクローバーを探した。

このようにすると文が一度区切られるので、接続詞が文を繋げているというよりは、接続詞によって前後の文の意味的な関係が明示されていると考える方が自然です。そこで、このような用法は「接続詞の副詞的用法」と呼ばれています。

なお、連結詞も同様の形にすることができます。

déxez li tel a qasot o fay. **dà**, feketes a ces ofev.

▶ 私は息子と娘を寝かせた。しかし、すぐに起きてしまった。

新出単語

動 semis — 動 黙る
 動 sitet — 形 酸っぱい
 助 so — 接 ～するために
 名 sokxoq — 名 図書室
 動 zêf — 動 着く, 到着する
 名 taqòd — 名 島
 動 tepit — 動 貼る
 名 tilirstpiv — 名 四つ葉のクローバー
 特 dif — 特 さえ
 名 kolot — 名 駅
 名 kutaf — 名 口
 動 feket — 動 起きる

動 fev — 副 すぐに
 動 vosfom — 形 膨大な
 助 ce — 接 そして～
 助 cife — 接 ～しながら
 名 qazek — 名 男
 名 levlis — 名 眼鏡
 名 lôcet — 名 テープ
 名 loqiv — 名 電車
 助 ri — 接 もし～
 動 ricam — 動 泳ぐ
 名 riy — 名 海
 名 micés — 名 イチゴ

kin 節

rafat a tel e kin lohis a tel vo hivas.

▶ 私は空を飛ぶたい。

haros e tel a kin etut qeritos a tel e yepil i ces.

▶ 彼の歌を聴くことだけが私の気分を良くさせる。

1 ▶ kin 節

kin の後に通常の文を続けると、「～ということ」という意味になって全体が名詞化されます。例えば、vilisos a tel は「私が走る」という意味の文なので、これの前に kin を置けば「私が走る」という 1 つの名詞として扱える節ができます。

kin とその後に続く文のまとまりを「kin 節」と呼びます。また、kin 節を中身にもつ助詞句を「kin 節句」と呼びます。

kin 節は全体で名詞のように振る舞うので、その直前に助詞を置いて助詞句を作り、文の一部として用いることができます。

sâfat a tel e kin vilisos a tel.

▶ 私は走ることが好きだ。

このように、kin 節は英語の to 不定詞や that 節と似たような役割を果たします。しかし、英語の to 不定詞では主語が取り除かれる一方で、kin の後には通常の文が置かれるので、kin 節内での助詞句の省略は第 10 課で扱った通りに解釈されます。例えば上の文で kin 節内の a tel を省略すると、「誰かが走ることを私は好きだ」という意味になり、「自分が走ることを好きだ」という本来の意味から離れてしまいます。

なお、上の文で kin 節内の動詞が通時時制無相で用いられているのは、「過去に走る」とや「今走る」が好きなのではなく、「走る」という行為の中の特定の段階が好きというわけでもないためです。第 5 課で、行為の時間や段階を特に指定せずに行為そのものを表したいときは、通時時制や無相が使われると学んだことを思い出してください。このような通時時制や無相は、kin 節ではよく用いられます。

2 ▶ kin 節とよく使われる動詞

前の例文で使った **sâf** は、動詞として使ったときに kin 節とともに使われることが多いです。他にも kin 節とともによく使われる動詞があるので、ここでいくつか紹介しておきます。

raf は、動詞として「(e 句の内容を) 望む」という意味です。raf を継続相通常態として使い e 句に kin 節を置けば、「～を望んでいる」すなわち「～したい」という願望を表すことができます。なお、望んでいる内容が実際に起こり得るのは未来なので、kin 節内の動詞は未来時制にするのが普通です。

rafat a tel e kin lohisis a tel vo hivas.

▶ 私は空を飛びたい。

次に **deq** は、動詞として「(e 句の内容を ca 句の相手に) 行わせる」という意味になります。これによって使役を表現することができます。

deqes a tel ca sotis e kin tayelis a ces e nasfek.

▶ 私は子供に庭を掃除させた。

さらに **kéc** は、動詞として「(e 句の内容を ca 句の相手に) 言う」という意味になります。

kéces a ces e kin poqosec a ces te tazît vo sod e hîxlon.

▶ 昨日は家で夜空を眺めていたと彼は言った。

また、感情を表す動詞を補助態にして使い、li 句に kin 節を置くことで、「kin 節の内容がその感情を感じさせる」すなわち「kin 節の内容のせいでその感情を感じる」という意味になります。感情をもった理由は **vade** を用いても表現できますが、このように補助態を用ると原因がより直接的であることが強調されます。例えば、「彼が突然呼んだので私は驚いた」を表現したい場合は、「彼が突然呼んだことが私を驚かせた」と考えて以下のようにします。

zazez a tel li kin qôcases a ces e tel obâl.

▶ 彼が私を突然呼んだので私は驚いた。

3 ▶ kin 節句の位置

kin 節句は文末に置かれることがほとんどです。この一番の理由は、kin 節のような長い要素は文の新情報になっていることが多いからです。しかし、それ以外に

も、助詞句がどの動詞に係っているのかが曖昧になるのを防ぐためという理由もあります。

例えば、以下の文を考えてみましょう。

kéces a ces te tazît **e kin câses a ces e qâz i tel**.

▶ 私の父親に会ったと彼は昨日言った。

この文では kin 節句が文末に置かれていますが、以下のように kin 節句と te 句を交換したとしましょう。

kéces a ces **e kin câses a ces e qâz i tel** te tazît.

▶ 昨日私の父親に会ったと彼は言った。

こうすると、文末の te tazît は主節の kéces に係っているとも解釈できますし、kin 節の câses に係っているとも解釈できてしまうので、文の意味が曖昧になります。言い方を変えれば、父親に会ったのが昨日なのか、そのことを言ったのが昨日なのかが、明確には分かりません。このような曖昧性を避けるために、kin 節を文末に置くことが多いわけです。

特定の助詞句を文末で強調したいなどの理由で kin 節句を文末に置きたくない場合は、上で述べた曖昧性を避けるため、kin 節の終わりの位置にタデックを置くことがあります。例えば、上の文に対しては以下のようにタデックを置くこととなります。

kéces a ces **e kin câses a ces e qâz i tel**, te tazît.

▶ 昨日、私の父親に会ったと彼は言った。

ただし、このようなタデックを使うのは、文の新情報として何らかの助詞句をどうしても文末に置きたい場合のみです。あまり頻繁には使われません。

4 ▶ kin 節を修飾する特殊詞

特殊詞は kin 節全体を修飾することができ、このときその特殊詞は kin の直後に置かれます。特殊詞が接続詞節全体を修飾する場合と同様です。

haroz a tel li kin **etut** qeritos a tel e yepil i ces.

▶ 彼の歌を聴くことだけが私の気分を良くさせる。

5 ▶ kin 節の時制

kin 節内の動詞の時制が示す時間は、主節の動詞が表す行為が行われている時間を基準にして決まります。

例文を1つ挙げて説明します。会話などでこの文が話されたとしましょう。

fedakes a ces e kin **terac** a 'xastil e cêrzaf vo vocik.

▶ シャスティルがテラスで紅茶を飲んでいることに彼は気づいた。

kin 節内の動詞 **terac** は現在時制で用いられています。この現在時制が表す時間は、この文が話された瞬間ではなく、主節の **fedakes** が表す行為が成立した時間と同じになります。つまり、彼が気づいた時間とシャスティルが紅茶を飲んでいた時間が同じだということです。

仮に kin 節内の動詞が過去時制だったとします。

fedakes a ces e kin **terec** a 'xastil e cêrzaf vo vocik.

▶ シャスティルがテラスで紅茶を飲んでいたことに彼は気づいた。

この場合、kin 節の **terec** の過去時制が表す時間は、主節の **fedakes** が成立した時間より前になります。すなわち、彼が気づいた時間より前にシャスティルが紅茶を飲んでいたことになります。言い方を変えれば、昔シャスティルがテラスで紅茶を飲んでいたことに後になって気づいたわけです。

なお、接続詞節の時制は、通常通りその文が話されたか書かれた時間から見た現在や過去などを表します。

新出単語

名 sotis — 名 子供
動 tayel — 動 掃除する
動 deq — 動 させる
動 kéc — 動 言う
機 kin — 機 〜ということ
動 fedak — 動 気づく
名 vocik — 名 テラス
動 poqos — 動 眺める
動 câs — 動 会う
名 cêrzaf — 名 紅茶

名 qâs — 名 父親
動 qerit — 動 聴く
動 qôcas — 動 呼ぶ
動 lohis — 動 飛ぶ
動 raf — 動 望む
名 nasfek — 名 庭
名 yepil — 名 歌
動 har — 動 気分が良くなる
名 hivas — 名 空
名 hîxlon — 名 夜空

動詞の助動詞的用法

dozat caliqaf a loc zi fêd te sot.

- ▶ あなたは今ここを出発しなければならない。

kilat qivlatos oyesac a tel e loqis.

- ▶ 私は上手に車を運転できる。

1 ▶ 動詞の助動詞的用法 I

doz は動詞として使うと「(e 句の内容を) しなければならない」という意味になり、継続相通常態で使うことで「～しなければならない」という義務を表すことができます。この動詞は少し特殊で、主語をとりません。

dozat e kin caliqaf a loc zi fêd te sot.

- ▶ あなたは今ここを出発することをしなければならない。

ここで、この文で動詞として使われている doz は、kin 節を中身とする e 句だけをとっています。つまり、以下の条件が成り立っています。

- ▶ その動詞に係る助詞句が kin 節句のみである

一部の動詞に関しては、この条件が成り立っているとき、kin 節句を形成している助詞と kin そのものを省略することができます。

上の例文であれば、kin 節句を形成している助詞である e と kin そのものを省略し、以下のような形にすることができます。

dozat caliqaf a loc zi fêd te sot.

- ▶ あなたは今ここを出発しなければならない。

このように省略すると、主節の動詞の直後にもともと kin 節内にあった動詞が置かれることになります。この形が英語の *must leave* のような助動詞と動詞が連続した形に似ていることから、この表現は「動詞の助動詞的用法」と呼ばれます。

2 ▶ 助動詞的用法 I の例

助動詞的用法にできる動詞は限られていて、条件が満たされているからといって常に助動詞的に用いることができるわけではありません。

助動詞的用法で使われる動詞の例としては、doz の他に qif があります。qif は動詞として「(e 句の内容を) できるようになる」という意味です。doz と同様に、qif は主語をとりません。以下に、qif を助動詞的用法にする前とした後の例を載せます。

qifes e kin xasakas a tel e sodcat asokos afik.

▶ 私はこの価値のある企画を成功させることができた。

qifes xasakas a tel e sodcat asokos afik.

▶ 私はこの価値のある企画を成功させられた。

fêz も助動詞的用法をとることができます。この fêz は、動詞として「(e 句の内容で) あるかのように思われる」のような意味をもち、英語の seem のような意味合いが出せます。

fêzat pâmat a ces e kofet i tel.

▶ 彼は私の名前を忘れているようだ。

3 ▶ 動詞の助動詞的用法 II

助動詞的用法にできるパターンはもう 1 つあります。例を挙げて説明します。

kil は動詞として使うと「(a 句の人が e 句の内容を) できるようになる」という意味になり、継続相通常態で使うことで「～することができる」という可能や能力を表すことができます。

kilat a tel e kin qivlatos oyesac a tel e loqis.

▶ 私は上手に車を運転することができる。

この文は、以下の 2 つの条件を満たしていることに注目してください。

- ▶ その動詞に係る kin 節句以外の助詞句が a 句のみである
- ▶ その a 句と中身が同じ助詞句が kin 節内の動詞にも係っている

実際、主節の動詞 kilat に係る kin 節句以外の助詞句は a tel のみですし、この a tel は kin 節内の動詞 qivlatos にも係っているので、上の 2 つの条件は両方とも成立しています。

一部の動詞に関しては、この 2 つの条件が両方とも満たされているとき、それに係る a 句と kin 節句を形成している助詞と kin そのものを全て省略することができます。

上の例文であれば、動詞の *kilat* に係る *a* 句は *a tel* なので、まずこれを省略できます。さらに、*kin* 節句を形成している助詞は *e* なのでこれも省略でき、*kin* そのものも省略できるので、最終的に以下のような形になります。

kilat qivlatos oyesac a tel e loqis.

▶ 私は上手に車を運転できる。

このパターンも、動詞が2つ連続して1つ目の動詞が助動詞のように見えるので、「動詞の助動詞的用法」と呼ばれます。

4 ▶ 助動詞的用法 II の例

2つ目のパターンで助動詞的に用いられる単語としては、*raf* も挙げられます。*raf* は動詞として使うと「(a 句の人が e 句の内容を) 望む」という意味になり、継続相態で使うことで「～したい」という願望を表せます。

rafat a tel e kin keqilic a tel vo zîd axedfet.

▶ 私は静かな場所に住むことを望んでいる。

rafat keqilic a tel vo zîd axedfet.

▶ 私は静かな場所に住みたい。

また、*zed* も助動詞的に用いることができます。*zed* の動詞としての意味は「(a 句の人が e 句の内容を) しようと思う」であり、意志を表すのに使われます。

zedat sohizis a tel e qilxaléh.

▶ 私はシャレイア語を勉強しようと思っている。

5 ▶ *kil* と *qif*

さて、日本語の「～できる」を表す単語として *kil* と *qif* の2つが出てきたことに気づいたでしょうか。対応する日本語は同じですが、この2つの単語には明確な使い分けがあります。

kil は、より正確にその意味を述べると「動作を行うだけの能力を身につける」のようになり、行為者に能力があったためにその行為を行うことができたことを表します。一方で *qif* は、周りの状況が良かったためにその行為を行うことができたことを表します。

簡単な具体例を挙げます。

kilet ricamos a tel.

▶ 私は泳ぐことができた。

qifet ricamas a tel.

▶ 私は泳ぐことができた。

最初の例文では kil が使われているので、泳ぐ練習をしたことがあるなどで水泳の能力をもっており、その能力のおかげで泳ぐことができたことを表しています。次の例文では qif が使われているので、例えば水深が浅かったなど、そのときの状況が偶然良かったために、そのときに限っては泳ぐことができたことを表しています。したがって、状況が変われば泳げない可能性があるわけです。

また、能力を身につけていれば、基本的にはその時点でもこれから先でもその行為を行うことができるので、kil に続く動詞の時制は通時時制になることがほとんどです。ただし、述べている能力が限定的で、それを発揮する場面がその場しかほとんどないような場合は、kil の後の動詞が現在時制になることもあります。一方、状況が良くて何かがうまくいった場合は、別の時間ではうまくいかない可能性があるので、その時点ではできたという意味を込めて、qif に続く動詞の時制は現在時制になるのが普通です。qif の後の動詞が通時時制で用いられることはありません。

新出単語

名 sodcat — **名** 企画

動 sokos — **形** 価値のある

動 sohiz — **動** 勉強する

動 zed — **動** しようと思う

名 zîd — **名** 場所

動 doz — **動** しなければならなくなる

動 kil — **動** できるようになる

名 kofet — **名** 名前

動 fêz — **動** そう思われる

動 pâm — **動** 忘れる

動 caliq — **動** 出発する

動 qif — **動** できるようになる

動 qivlat — **動** 運転する

名 qilxaléh — **名** シャレイア語

動 xasak — **動** 成功する

動 xedfet — **形** 静かな

動 yesac — **副** 上手に **形** 上手な

反復表現

vomac kâkos a hitál aquk ca fêd otêl.

▶ あの鳥はここにときどき現れる。

1 ▶ 反復表現

vom という単語は、動詞として用いると「(e 句の内容を) 繰り返し行う」や「(e 句の内容を) 何度か行う」という意味になり、動作の反復を表現することができます。e 句には反復する動作を kin 節にして置くのですが、助動詞的用法にすることが多いです。また、このときの kin 節内の動詞は通時時制にするのが普通です。

vomes vîticos a tel e xiflohis.

▶ 私は流れ星を何度か見かけた。

「ときどき」のような頻度を表す副詞は、頻度というものが動作の繰り返しの間隔がどの程度なのかを示すものなので、必然的に反復を表す vom とともに用いられることになります。ただし、「常に」の意味がある vâk と dum は動作の繰り返しを意味しないことがあるので、必ずしも反復表現にする必要はありません。

vomac kâkos a hitál aquk ca fêd otêl.

▶ あの鳥はここにときどき現れる。

日本語ではわざわざ「繰り返す」などと言わない場合でも、複数回行われることが想定されている場合には vom が用いられます。

deqiges ca tel a yéf e kin vomic maritos a tel e loqis.

▶ 私は妻に車を洗うよう命じられた。

vomac dulanos a ces zite ben azît ca kosdes.

▶ 彼は先月から大学に行っていない。

1つ目の例では、命じられた内容である e 句の中で vom が使われているので、1 回ではなく複数回車を洗うよう命じられたことになります。すなわち、今後習慣的に車を洗うよう命じられたわけです。このように、習慣的に何かを行うことを表すのにも vom が使われます。

また、上の2つ目の例でも **vom** が使われていますが、これは以下のように説明できます。本来、大学には1回ではなく何度も行くことが想定されています。したがって、この場合の「大学に行っていない」というのは、何度も大学に行くべきときはあったのに一度も行かなかったことを表していると捉えられます。そこで、「大学に行かない」が繰り返されていると考えて、**vomac dulanos** となっているのです。

2 ▶ 反復と相

以上のように、シャレイア語では1回の行為なのか複数回の反復された行為なのかを明確にします。1回限りの行為の実行と何回かの行為の反復を混同しないよう注意してください。

具体例を見てみましょう。

lîdak a tel e lacat afik.

▶ 私はこの小説を読み終わった。

vomak lîdos a tel e lacat afik.

▶ 私はこの小説を読み終わった。

最初の文は、単に **lîd** を完了相で用いているだけなので、「小説を読む」という1回の行為が完了したことを表しているにすぎません。小説の一部分だけを読んだ場合でも「読む」という行為をしたことになるので、この文だけでは、小説を最後まで読み切ったのかは分かりません。一方次の文は、**vom** を完了相で用いて反復が完了したことを表しているので、何度か「小説を読む」という行為を繰り返す中の最後の1回が終わったことになります。つまり、これ以上の反復がないということなので、「小説を最後まで読み切った」というニュアンスが含まれます。

新出単語

助 zite — **助** 〜から **接** 〜するときから
動 têt — **動** ときどき
動 deqig — **動** 命じる
名 kosdes — **名** 大学
動 vîtic — **動** 見かける, 一瞥する
動 vom — **動** 繰り返す

名 ben — **名** 月
名 xîflohîs — **名** 流れ星
名 lacat — **名** 小説
動 marit — **動** 洗う
名 yéf — **名** 妻
名 hitál — **名** 鳥

演習問題 3

1. 次の文の空欄に連結詞で繋がれた語句を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) fesalat a tel e .

▶ 私はリンゴかミカンが欲しい。

(2) salat a xoq afik e .

▶ この本は古いのだが価値がある。

(3) pa sâfat a loc e .

▶ あなたは犬と猫ではどちらが好きですか？

(4) kômat a ces e .

▶ 彼女はシャツとスカートとコートを着ている。

(5) pa qetat a loc te sot ca .

▶ あなたが今いるのは家ですか、それとも学校ですか？

2. 次の2つの文を連結詞か接続詞で繋げて、指定された意味になる1つの文を作りなさい。

(1) vilisac a tel. catac a ces.

▶ 私は走っていて、彼は歩いている。

(2) fegis a ces e sod. beqomes a ces zi tel e kisol.

▶ 彼は家を買うために、私からお金を盗んだ。

(3) déxet a ces. zêfes a tel ca kosben.

▶ 私が病院に着いたとき、彼は寝ていた。

3. 次の文の下線部を副詞的用法にして、意味を変えずに文を分けなさい。

(1) rezec a ces, dà dodet a ces.

(2) sâfat a tel e dales, lò sâfat a yaf i tel e monaf.

(3) vade benaget a tel, dulanet a tel ca kosax.

4. 次の語句を並び替えて、指定された意味になるような文を作りなさい。

(1) kin | ricamos | sâfat | a tel | a tel | e

▶ 私は泳ぐことが好きだ。

(2) kin | sokat | folanes | a tel | a ces | e | ovip

▶ 私がもう出かけたということを彼は知っている。

(3) kin | harez | tòdes | e | li | vo | refet | kûzteqiv | a tel | a tel

▶ 私は街角で友達に会って嬉しかった。

5. 1つ目の文を **kin** 節にしたものを2つ目の文の下線部と置き換えることで、同じような意味になる1つの文にまとめなさい。特に時制に注意すること。

(1) déxet a ces. fedakak a tel e çal.

(2) rahitec a tiqat vo fòn. lices a tel e çal.

(3) pâmet a ces e kozis. bâgez a tel li çal.

6. 次の文の下線部の動詞を助動詞的用法にして、同じ意味の文に書き換えなさい。

(1) rafat a tel e kin yepelis a tel.

(2) dozat e kin lakac a loc vo fêd qi qilxaléh.

(3) kilat a ces e kin qikos a ces e tolék asaret ebam.

(4) nibites a tel e kin lidas a tel e xoq.

7. 次の文には反復を表す表現があるため、本来なら **vom** を用いた反復表現にする必要があります。正しい文に直しなさい。

(1) terac otêl a tel e cêrzaf.

(2) licac a tel e lasav otulit.

(3) dufetekac a refet e tel zite tazîthil.

8. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) sôdes a tel e nalið o tomeqxol.
- (2) pa salat a qos e hinof á yaf á fay i loc?
- (3) kebiqes a tel, qi qerites a tel e rifiv.
- (4) hites obâl a ces. ce, fovaless otív a ces zi sokul.
- (5) cipases a fax ca tel e kin fegis a tel e látac.
- (6) devez a tel li kin lîdes a tel e xoq te lôk avôl.
- (7) zedat kotikis okôk a tel e qazek aquk.
- (8) fêzat salat a kíc i ces e aduyát.
- (9) vomec lanos olof a tel ca sod i qâzhil i tel.
- (10) vomac ducâsos a tel e ces te fêz.

9. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) そのワンピースはピンク色でかわいらしい。
- (2) あなたがこの帽子を買ったのは今日ですか昨日ですか?
- (3) あなたは赤か青か黄色の花を見ましたか?
- (4) 母が扉を叩いたとき、私は寝ていた。
- (5) 彼女はスマートフォンを見ながら昼食を食べていた。
- (6) 彼の祖母は病院にいと彼は言った。
- (7) 彼女は私に挨拶するのを躊躇した。
- (8) 私が彼に電話したことさえも彼を驚かせた。
- (9) 私は友達と一緒に海に行きたい。
- (10) 彼はたまにこの部屋でギターを演奏する。

新出単語

名 solricam — 名 水着

動 zitol — 動 躊躇する

名 téd — 名 扉

動 telef — 動 叩く

名 tiqat — 名 男の子

動 tòd — 動 出会う

名 tonasxav — 名 昼食

名 tonaslon — 名 夕食

名 tomekxol — 名 ハンバーグ

動 tulit — 副 たまに

動 dod — 動 悲しむ

名 kíc — 名 話, 発言

名 kozis — 名 約束

名 kûzteqiv — 名 街角

名 gitàs — 名 ギター

名 faxhil — 名 祖母

名 fèz — 名 最近

動 fetek — 動 連絡する

名 fozâl — 名 コート

動 foval — 動 出る

名 fòn — 名 外

名 voston — 名 レストラン

動 bâg — 動 怒る

動 benag — 動 病気になる, 患う

動 cikek — 動 持つ, 携帯する

名 colis — 名 シャツ

名 qâzhil — 名 祖父

名 qos — 名 あの人

名 lasav — 名 アニメ

名 látac — 名 卵

動 lak — 動 話す, 会話する

名 lôk — 名 時間

動 lof — 副 よく, しばしば

動 rahit — 動 遊ぶ

動 rifev — 動 演奏する

名 rifiv — 名 音楽, 曲

動 nav — 形 黄色い

名 nalid — 名 サラダ

動 nibit — 動 中断する

名 nodom — 名 嘘

動 yát — 形 本当の 副 本当に

名 amerikas — 名 アメリカ

命令表現

ditat fôvis a loc e téd.

▶ 扉を開けてください。

duqetanis a loc!

▶ 動くな!

1 ▶ 命令表現

シャレイア語には命令を表す特別な構文はなく、代わりに **dit** という単語を使います。**dit** を動詞として用いて〈ditat e kin+節〉という形にすると、これで「～してください」という命令や依頼の意味が出ます。ただし、**dit** は助動詞的に用いられることがほとんどなので、結果的に **ditat** の直後に命令内容が置かれた形でよく出てきます。「**ditat** を文頭に置くと命令になる」と覚えてしまっても良いでしょう。

この **dit** そのものには意味はなく、命令文であることを示すためのマーカーのような働きがあるだけです。また、**dit** は常に動詞として用いられ、さらに常に現在時制継続相通常態の **ditat** の形になり、他の活用形にはなりません。

命令された内容が実際に行われるのは命令より後の時間なので、命令内容を表す動詞は未来時制で使われるのが普通です。もしくは、「今すぐやってください」という意味合いを込めて、命令内容の動詞を現在時制開始相にすることもあります。

命令は話している相手にするものなので、命令内容には「あなた」を意味する **loc** が含まれるはずですが、この **loc** を省略することはしません。通常の **kin** 節で省略しないのと同様です。

ditat fôvis a loc e téd.

▶ 扉を開けてください。

ditat に続く動詞を否定形にすることで、「～しないことをしてください」すなわち「～しないでください」という禁止を表すことができます。**dit** を否定形にするわけではないので注意してください。

ditat **dudovekis** a loc e likis anav.

▶ 黄色い線を踏まないでください。

命令内容の中に「私たち」を意味する **zál** が loc の代わりに含まれている場合は、「～しましょう」のような勧誘の意味になります。

ditat **sôdis ofelaz** a **zál** e tonasxav vo vocik aquk.

▶ あのテラスで一緒に昼食を食べましょう。

2 ▶ dit のない命令表現

命令表現では dit を使うと説明しましたが、口語ではこの dit が省略されることがあります。dit を省略した場合、少し乱暴な命令という印象になります。緊急時などで少しでも短く命令内容を言いたいときにも使われます。

duqetanis a loc!

▶ 動くな!

新出単語

名 **zál** — 名 私たち

動 **dit** — 動 してください

動 **dovek** — 動 踏む

動 **felaz** — 副 一緒に

動 **fôv** — 動 開ける

動 **qetan** — 動 動く

名 **likis** — 名 線

縮約

foqones a tel e kin kufis a'l e celvir atufil aquk.

▶ 私はあの珍しいワインを手に入れるのを諦めた。

meloses a tel e'n lekutis a'l ca hilvit.

▶ 私は飛行機に乗るのに遅れた。

di'cafosis a'c ca tel e keteq acik.

▶ 私にその写真を見せて。

1 ▶ 名詞の縮約形

tel, zál, loc, ces, cit の5つの単語は文中で頻繁に出てくるので、文が冗長になるのを防ぐため、最後の1文字だけを取ってそれぞれ 'l, 'l, 'c, 's, 't になる場合があります。この短くした形を「縮約形」といいます。これらの縮約形の前にはスペースを入れません。

tel と zál は縮約されるとどちらも 'l になります。したがって、tel と zál は縮約されると形だけでは区別できなくなりますが、文脈からどちらなのか分かることがほとんどです。

これら5つの縮約形は、もとの単語が同じ文の中で2回目以降に現れた箇所で、その単語の代わりに使われます。文中の最初の出現箇所で縮約形を使うことはあまりありません。

foqones a tel e kin kufis a' l e celvir atufil aquk.

▶ 私はあの珍しいワインを手に入れるのを諦めた。

te kécós a ces e nodom, mafetos okôk a' s e nemok.

▶ 彼は嘘をつくときに必ず鼻を触る。

1つ目の例文では tel の縮約形の 'l が用いられていて、2つ目では ces の縮約形の 's が用いられています。どちらも、最初に出てくる tel や ces に対しては縮約形が使われていないことに注目してください。

例外的に、命令文での loc に対しては、文中で最初に出てきたものに対しても縮約形の 'c が用いられることがあり、さらにほとんどの場合に縮約形の方が使われます。

ditat hanotis a **c** ca tel e soqal acik.

▶ そのボールを私に放り投げてください。

話し言葉では縮約形が多用される傾向にあり、tel, zál, loc, ces, cit の全てについて、文中での最初の出現箇所においても縮約形が用いられることがあります。また、詩や歌詞などリズムを重んじる文章でも、音節の個数を調節するために、文の最初の出現箇所でも縮約形が用いられることがあります。

2 ▶ kin の縮約形

kin もしばしば 'n に縮約されます。この縮約形は、文中での何番目の出現かに関係なく使われます。

meloses a tel e **n** lekutis a'l ca hilvit.

▶ 私は飛行機に乗るのに遅れた。

3 ▶ ditat の縮約形

命令文を作る ditat も di' という縮約形をもっています。di' に縮約された場合は、di' の次の単語との間のスペースがなくなります。

di'cafosis a'c ca tel e keteq acik.

▶ 私にその写真を見せて。

ditat を di' に縮約した場合、命令の丁寧度が下がります。縮約せずに ditat を用いた場合は、日本語の「～してください」のような比較的丁寧な依頼になりますが、縮約して di' にすると、日本語の「～しなさい」や「～して」のような言い方になります。

新出単語

縮 's — 縮 ces

縮 't — 縮 cit

動 tufil — 形 珍しい

縮 di' — 縮 ditat

動 kuf — 動 手に入れる

動 foqon — 動 諦める

縮 'c — 縮 loc

動 cafos — 動 見せる

名 celvir — 名 ワイン

縮 'l — 縮 tel, zál

縮 'n — 縮 kin

名 nemok — 名 鼻

動 mafet — 動 触る

動 melos — 動 遅れる

動 hanot — 動 放り投げる

名 hilvit — 名 飛行機

繰り返しの回避

vade kômet a ces e hâl acac, rafat fegis a tel e met.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はスカートを買いたい。

buqotat a ces e vafos, lo lat a tel evoc.

▶ 彼は動物が嫌いで、私もそうだ。

1 ▶ met

まずは以下の文を見てください。

vade kômet a ces e **hâl** acac, rafat fegis a tel e **hâl**.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はスカートを買いたい。

この文には hâl という名詞が 2 回出てきています。シャレイア語では、同じ単語や表現が 1 つの文や連続する文の中に複数回出てくるとするのは好まれません。そこで、複数回出てくる名詞のうち、2 回目以降のものを met という単語に置き換えることがあります。この met を日本語に訳すならば「それ」になりますが、日本語はそれほど繰り返しを嫌わないので、met に置き換える前の名詞で訳すのが自然でしょう。

上の文を met を用いた表現に書き直すと以下ようになります。この方がより自然です。

vade kômet a ces e hâl acac, rafat fegis a tel e **met**.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はスカートを買いたい。

日本語の「それ」に当たる単語には cit もありますが、cit と met では明確に意味が違います。英語の it と one の用法が異なるのと同様です。

met は単純にすでに出てきた名詞の代わりとしての役割があるだけです。したがって、例えば上の文においては、met は hâl の代わりをしているだけで、最初に出てくる hâl が指すものととの繋がりはありません。別の言い方をすれば、私が買いたいと思っているスカートと彼女が着ていたスカートは別物です。

一方、cit はそれが指すものと全く同じものを表します。例として、上の文の met を cit に変えてみましょう。

vade kômet a ces e hâl acac, rafat fegis a tel e **cit**.

▶ 彼女が新しいスカートを着ていたので、私はそれを買いたい。

こうすると、cit は前に出てくる hâl と同じものを指すので、私が見たいスカートは彼女が着ていたものであることになってしまい、「彼女が着ていたスカートを買い取りたい」という意味合いになってしまいます。

なお、tel, zâl, loc, ces, cit, cal のような代名詞の働きをもつ名詞に関しては、これらを met で置き換えることはしません。

2 ▶ I

met は名詞の代わりをしますが、動詞とそれに係る助詞句の代わりをする単語もあります。それが I です。

以下の文を考えてみましょう。

buqotat a ces **e vafos**, lo **buqotat** a tel evoc **e vafos**.

▶ 彼は動物が嫌いで、私も動物が嫌いだ。

この文には、動詞 buqotat とそれに係る助詞句 e vafos が繰り返し用いられています。これでは冗長なので、2 回目の buqotat と e vafos をまとめて、動詞型不定辞 I の動詞用法で置き換えることができます。I は動詞として使うので当然活用させる必要がありますが、置き換える前の動詞の活用に合わせて。

実際に書き換えると以下ようになります。

buqotat a ces e vafos, lo **lat** a tel evoc.

▶ 彼は動物が嫌いで、私もそうだ。

この I は、動詞を含む表現の代わりとなることから「代動詞」と呼ばれます。

なお、上の例の I は動詞と助詞句をまとめて代替していますが、動詞だけの代わりとして用いられることもあります。

新出単語

名 vafos — 名 動物

動 buqot — 動 嫌う

動 cac — 形 新しい

動 I — 動 する

名 met — 名 それ

限定節

salat e qâzhil i tel a lanqos raflesac ca a 'keldis.

▶ ケルディスが会話している老人は私の祖父だ。

1 ▶ 限定節

シャレイア語では、ある名詞を文によって説明するための構文があります。以下に、具体例を挙げながらその構文の作り方を説明していきます。

まず、以下の2つの文を考えてみましょう。

salat e qâzhil i tel a **lanqos**.

▶ 老人は私の祖父だ。

raflesac a 'keldis ca **ces**.

▶ ケルディスがその人と会話している。

2文目の ces が1文目の lanqos を指しているとする、2文目全体を lanqos に修飾させて、「ケルディスが会話している老人は私の祖父だ」という1つの文にまとめることができます。このような文を作るには、次のような手順を踏みます。

1. 修飾する側の文の動詞に係る助詞句のうち、被修飾語と同じものを指している名詞を含むものを、動詞の直後に移動させる。
2. 修飾する側の文の中において、被修飾語と同じものを指している名詞を削除する。
3. 修飾する側の文全体を被修飾語の直後に置く。

上の例の場合では、この3つの手順は具体的に以下ようになります。

1. 2文目の ca ces を raflesac の直後に移動させる。
2. 2文目の ces を削除する。
3. 2文目全体を1文目の lanqos の直後に置く。

結果的に、以下の文が完成します。

salat e qâzhil i tel a lanqos **raflesac ca a 'keldis**.

▶ ケルディスが会話している老人は私の祖父だ。

語句を修飾している方の文は「限定節」と呼ばれます。上の例では raflesac ca a

'keldis が限定節で、全体で lanqos を修飾しています。

さて、限定節を用いた他のパターンの例を紹介します。以下の2つの文から限定節を用いた表現を作ってみましょう。

fedàtat a tel e **zis**.

▶ 私は人と知り合いだ。

kilat rifevos a refet i **ces** zi líker.

▶ 彼の友達ピアノを演奏することができる。

この場合で注意すべきなのは、3つの手順のうちの1つ目です。2文目全体を1文目の zis に修飾させて「友達がピアノを演奏できる人と知り合いだ」という文を作りたいので、2文目の ces が被修飾語と同じものを表す名詞です。したがって、ces を含む助詞句を動詞の直後に移動させることになりますが、移動させるのは動詞に係る助詞句なので、i ces ではなく a refet i ces 全体になります。今回の場合、この助詞句はすでに動詞の直後にあるので、そのままにします。

残りの手順も実行して1文にまとめたのが以下の文です。

fedàtat a tel e zis **kilat rifevos a refet i zi líker**.

▶ 私は友達がピアノを演奏することができる人と知り合いだ。

2 ▶ 限定節の例

限定節を用いたいくつかの例文を載せておきます。それぞれの例文について、限定節によって1つの文にまとめられる前の2つの文を想像すると、良い練習になるかもしれません。

pa salat e pet a kofet i kosben **vahixes vo a ces**?

▶ 彼が亡くなった病院の名前は何ですか？

この例文では、限定節内に vo が単独で現れています。これにより、限定節が修飾している kosben と同じものを表す単語が、限定節で vo 句として使われていたことが分かります。vo 句は場所を表すのでしたから、上の文は、限定節の内容が起った場所である kosben について言及しているわけです。

rafat sokis a tel e vadeb **bûdezat vade a ces e tel**.

▶ 彼が私を妬んでいる理由を私は知りたい。

この文では **vade** が単独で現れています。**vade** は理由や原因を表すので、上の文の **vade** は、限定節の内容が起こった理由であることになります。

以上のように、英語では **which, where, why** などの関係代名詞や関係副詞を使い分けるところを、シャレイア語では全て同じ方法で文を作ることができます。

i が単独で残る例も見ましょう。

fovaless a ces zi kedet | salat a taqit i e akesel.

▶ 壁が水色である建物から彼は出てきた。

i の位置に注意してください。すでに説明しましたが、**i** は名詞を修飾する助詞句を作るので、3段階の手順のうちの1段階目で移動させる助詞句は **i** 句ではありません。

3 ▶ 限定節の時制

限定節内の動詞の時制が示す時間は、主節の動詞の動作が行われた時間を基準にして決まります。第14課で学んだ **kin** 節の時制の場合と全く同じです。

第14課で説明した内容の繰り返しにはなりますが、1つ例を見ましょう。

fetekes a tel e fesotqik | valcasis | fe a'l e serin.

▶ 私は一緒に湖を眺めるつもりと同僚に連絡した。

限定節の動詞 **valcasis** は未来時制で用いられていますが、この未来時制が表しているのは、湖を眺めるのが同僚に連絡した時間より後だということです。したがって、この文が述べられた時間と湖を眺める時間との関係は分かりません。

主節の動作の時間を基準にして決まるのは、従属節の時制だけではありません。従属節内にある **te** 句などの時間表現もそうなります。このことは、限定節だけでなく **kin** 節でも同じです。

以下の例を使って詳しく説明します。

tikoses a zál e solkut qorasis ca a zál | te ciqid acál.

▶ 私たちは来週旅行する国を決めた。

限定節内で **te ciqid acál** という時間を表す表現が用いられています。これは「来週」という意味ですが、旅行する国を決めた日から見て次の週を指すのであって、上の文が話された日から見て次の週を指すではありません。

以上のように、限定節と kin 節では、その節の中にある時制と時間表現が、主節の動作の時間から見て相対的に解釈されます。一方で接続詞節では、その節の中にある時制も時間表現も、主節にある場合と同じように、文が話された時間を基準にして定まるのでした。節の種類によって解釈が異なるので、混同しないように注意してください。

新出単語

名 serin — 名 湖
名 solkut — 名 国
名 zis — 名 人
名 taqit — 名 壁
動 tikos — 動 決める
助 fe — 助 〜と一緒に
名 fesotqik — 名 同僚
動 fedàt — 動 知り合いになる

名 vadeŋ — 名 理由
動 valcas — 動 眺める
動 bûdez — 動 妬む
動 cáł — 形 次の
名 ciqid — 名 週
名 langos — 名 老人
名 liker — 名 ビアノ
動 rafles — 動 会話する

演習問題 4

1. 次の文の内容する命令表現を **dit** を用いて作りなさい。

- (1) sohizis a loc.
- (2) dufovalis a loc zi sokul afik.
- (3) teris a zál te tacál e celvir.

2. 次の文中の単語のうち縮約できるものをできるだけ縮約しなさい。ただし、これらの文は書き言葉であって口語や詩歌ではないとします。

- (1) te fetekes a ces e tel, qetet a tel vo kolot.
- (2) buqotet a ces e dales, dà mafetes a ces e cit.
- (3) dibulat a tel e kin medeles a tel e qiliv.
- (4) nibites a zál ca ces e kin feracis a ces ca zál.
- (5) ditat yelesis a loc e sotis.

3. 次の文の中で繰り返されている語句を **met** を用いて書き換えなさい。

- (1) sokesat a tel e dev, dà ducikekat a'l e dev.
- (2) kûtat a tel e loqis azaf, lo zedat fegis a ces e loqis abik.
- (3) pa sâfat a loc e monaf? / ya, milcitac a tel e monaf avôl.

4. 次の文の中で繰り返されている表現を **I** を用いて書き換えなさい。

- (1) lanes a tel ca kosdes, lo lanes a ces ca sod.
- (2) keqilec a tel vo fosnal, dà keqilac a tel te sot vo sodaq.
- (3) vade qorases a ces ca amerikas, rafat qorasis a tel evoc ca amerikas.
- (4) sohizes a tel e qilferânes, dà dusohizes a tel e qilangel.

5. 次の文の空欄に **met** もしくは **cit** を入れて、指定された意味の自然な流れの文になるようにしなさい。

- (1) paveqat a tel e qiqcop. palevac a tel e .
▶ 私は消しゴムをなくしてしまった。私はそれを探している。
- (2) pâziqat a tel e qiqcop. pa cikekat a loc e ?
▶ 私は消しゴムを忘れてきてしまった。あなたは持っていますか?
- (3) sâfat a tel e lacat afik. rafat lîdis a tel e akâf evoc.
▶ 私はこの小説が好きだ。似たようなのも読みたい。
- (4) sâfat a tel e lacat afik. rafat lîdis a tel e ovop.
▶ 私はこの小説が好きだ。もう一度読みたい。

6. 次の2つの文の下線部は同じものを指しているとして、限定節を用いて文を1つにまとめなさい。

- (1) salat e refet i tel a zîs. hitat a çes vo qôd.
- (2) pa salat e pet a yafos? sâfat a loc e çit.
- (3) zêfak a zâl ca zîd. xâfes e ces vo çêd.
- (4) kocaqat a hitâl. dusokat a tel e kofet i çit.

7. 次の語句を並び替えて、指定された意味になるような文を作りなさい。

- (1) a tel | a fit | salat | feges | e | e dev
▶ これは私が買ったペンだ。
- (2) békes | déqat | a ces | a tel | e dezet | ca
▶ 彼女は私が座っていた椅子にぶつかった。
- (3) a fax | salat | e tiqat | a tel | i | câses | e cosrasâl
▶ 私は母親が医者である男の子に会った。
- (4) e hidal | i | e sod | zi yekal | a tel | lices | hikutat
▶ 私は屋根が雪で覆われている家を見た。

8. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) ditat kezisit a'c ca fêd te lôk atuf.
- (2) di'duqîlis okôk a'c e qixov afik.
- (3) keqilec a tel vo jêmanis, dà dulac te sot.
- (4) vade ducikeket a tel e tir, feges a'l e met.
- (5) beqomes a ces e yelicsiloz i loc, dà pa les vade pil?
- (6) pa fedàtat a loc e zis cadzesac a ca kalad aquk?
- (7) duqifat pafikas a tel e kofcaf i yepil yepelac e a ces.
- (8) salat e ayerif ebam a riy ricames vo a tel te tazîthil.
- (9) qòcases e tel a fax te lôk avév déqek te a'l ca dezet.
- (10) feraces a tel e qazek medelat e loqis i vo solol.

9. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) キッチンを掃除してください。
- (2) そのボタンを触るな。
- (3) 来週一緒に遊園地に行きましょう。
- (4) 彼は赤い洋服を売って、青いのを買った。
- (5) 私は辛い食べ物が好きで、彼女もそうである。
- (6) 彼は私に電話すると約束したが、そうしなかった。
- (7) 私の飼っている猫が部屋に入ってきた。
- (8) あなたが昨日会った女性は有名なアイドルです。
- (9) この絵がある美術館を知っていますか?
- (10) 私には姉がとても優しい友人がいる。

新出単語

名 sodaq — 名 都市
 名 solol — 名 肩
 名 sūd — 名 食べ物
 名 zīdtolék — 名 キッチン
 名 tadel — 名 ボタン
 名 tir — 名 飲み物
 動 tuf — 形 少ない
 動 ditil — 形 辛い
 動 dibul — 動 反省する
 動 kàf — 形 似ている 動 似る
 名 kalad — 名 会社
 動 kezis — 動 留まる
 名 kosxolàl — 名 美術館
 動 kozes — 動 約束する
 名 kofcaf — 名 題名
 動 kocaq — 動 存在する
 動 kûv — 動 入る
 動 ferac — 動 手伝う, 手助けする
 名 fosnal — 名 村
 動 valát — 形 有名な
 動 vév — 形 同じ

動 vop — 副 再び
 動 pâziq — 動 置き忘れる
 動 pafik — 動 思い出す
 動 paveq — 動 なくす
 動 bék — 動 ぶつかる
 動 cadzes — 動 勤める
 名 cosrasál — 名 医者
 名 qiqcop — 名 消しゴム
 動 qîl — 動 使う
 名 qilferânes — 名 フランス語
 名 qilangel — 名 英語
 名 qiliv — 名 テレビ
 動 xáf — 動 産む
 名 jêmanis — 名 ドイツ
 名 yetih — 名 アイドル
 名 yekal — 名 雪
 動 yeles — 動 世話をする
 名 yelicsiloz — 名 指輪
 動 yerif — 形 綺麗な
 名 hidal — 名 屋根

助接辞の非動詞修飾形

vomac catos olof a tel vo fecil ica kedxovas afik.

▶ 私はよくこの神社の周辺を歩く。

salet e axalket a qazek ivo vosis afik.

▶ この店の男性はオシャレだった。

hilefat a tel e hisez ie hinad.

▶ 私は山登りが大好きだ。

1▶ 助接辞の種類

助接辞は、「一般助接辞」と呼ばれるものと「例外助接辞」と呼ばれるものの2種類に分けられます。これまで **a, ca, te, vade** など様々な助接辞が出てきましたが、これらは全て一般助接辞です。ただし **i** のみは例外で、これは例外助接辞に分類されます。

全ての助接辞は、一般助接辞か例外助接辞かに関わらず、「原形」と呼ばれる形と「非動詞修飾形」と呼ばれる形の2種類の活用形をもちます。原形は、名前の通り語幹そのままの形です。非動詞修飾形は、語幹の前に活用接頭辞の **i** が付けられた形です。例えば、**zi** の非動詞修飾形は **izi** になります。ただし、**i** だけは少し例外で、これの非動詞修飾形は **i** のままです。

さらに、第4課で学んだように、助接辞は文中で助詞もしくは接続詞として使うことができます。

以上のことから、文中での助接辞は、2通りの種類(一般か例外か)と2通りの活用形と2通りの文法的品詞が考えられ、合計で8通りに分類できます。この8通りのうちのどれなのかによって、助接辞の文法的な用法は変わってきます。

一般助接辞の原形が助詞として用いられている場合の用法は、第2課で学んだ通りです。また、一般助接辞の原形が接続詞として用いられている場合の用法は、第13課で学びました。一般助接辞の非動詞修飾形についてはまだ扱っていませんが、その用法をこの課で学びます。

例外助接辞の用法は単語によって異なるので、個別に覚えていく必要があります。この本では、例外助接辞については出てきた箇所でも個別に用法を説明していますが、いくつかの頻出の例外助接辞は第22課でまとめて触れます。

2 ▶ 非動詞修飾形をとる名詞や形容詞

一部の名詞や形容詞は、それを説明する語句として、一般助接辞の非動詞修飾形が作る助詞句を要求します。このとき、その非動詞修飾形は助詞として用いることになり、後ろに名詞を伴います。例えば、名詞としての意味が「周辺」という意味の *fecil* は、何の周辺かを表すのに *ca* の非動詞修飾形である *ica* を用いることが決められています。つまり、「A の周辺」は *fecil ica A* と表現することになります。

vomac catos olof a tel vo ***fecil*** ***ica kedxovas afik***.

▶ 私はよくこの神社の周辺を歩く。

「～の」に相当する助詞には *i* がありますが、この場合 *ica* を使うことが決められているので、*ica* の方が好まれます。

このような単語は名詞だけではなく形容詞にもあります。形容詞の意味が「近い」である *fêc* がその例です。この単語は、何から近いのかを表すのに *ica* 句を用いることになっているので、「A から近い」は *afêc ica A* となります。

sôdes a tel e tonaslon vo voston ***afêc*** ***ica sod i tel***.

▶ 私は私の家から近いレストランで夕食を食べた。

名詞や形容詞を何らかの語句で説明したいとき、その被修飾語が特定の非動詞修飾形をとると決まっている場合は、その通りの非動詞修飾形を用いなければなりません。被修飾語としてどんな非動詞修飾形を要求するのかを、辞書で確認するようにしましょう。

3 ▶ 限定節の省略で現れる非動詞修飾形

限定節の内容が複雑でないとき、その限定節の動詞などを省略することができます。このときに、一般助接辞の非動詞修飾形が現れます。

具体例を用いて説明します。

salet e anisxok a xoq ***lîdas e a tel te tazît***.

▶ 私が昨日読んだ本はおもしろかった。

この文は、適切な文脈があれば、「私が昨日読んだ本」の代わりに「昨日の本」とだけ言っても意味が通ると考えられます。このような場合、以下の手順によって文を短くすることができます。

1. 限定節の動詞を消去する。
2. 限定節の動詞に係っている単独の助詞を消去し、さらに省略しても問題ないと考えられる助詞句も消去する。
3. 限定節内の残したい助詞句や接続詞節に使われている助接辞を非動詞修飾形にする。

上の例では **te tazît** を残したいので、この3つの手順を実行すると以下のようになります。

salet e anisxok a xoq ite tazît.

▶ 昨日の本はおもしろかった。

もともと原形で使われていた **te** が非動詞修飾形の **ite** になっていることに注目してください。

もう1つ例を挙げます。

dukocaqat a lisid qîlis e a tel so sôdis a tel e macak afik.

▶ 私がこのケーキを食べるために私が使うフォークがない。

この例では **qîlis** や **a tel** などを省略して「このケーキを食べるためのフォーク」としても意味が十分に伝わります。そこで、上の3つの手順をこの文に対して施して、以下のように文を短くすることができます。

duqetat a lisid iso sôdis a tel e macak afik.

▶ 私がこのケーキを食べるためのフォークがない。

次の文のように限定節が〈qetat ca＋場所〉の形の場合は、少し例外的です。

salet e axalket a qazek qetat a ca vosis afik.

▶ この店にいた男性はとてもオシャレだった。

このような文から **qetat** が省略されると、**ca** が **vo** に変わって〈ivo＋場所〉の形になります。これは、**ca** が一般的すぎる助詞であり場所の意味が薄いので、より場所であることがはっきりする **vo** が好まれるためです。したがって、上の文を短くすると下のようになります。

salet e axalket a qazek ivo vosis afik.

▶ この店の男性はとてもオシャレだった。

4 ▶ 動名詞を修飾する非動詞修飾形

第4課で、動詞型不定辞は名詞としても用いることができると学びました。名詞として使うと、動詞として用いた場合に表す行為そのものを表すようになり、英語の動名詞のような役割を果たします。例えば、hisez は動詞としての意味が「登る」である動詞型不定辞ですが、名詞としては「登ること」になります。

以下の手順を順に踏むことで、kin 節を動詞型不定辞の名詞用法に置き換えることができます。

1. kin を削除する。
2. kin 節内の動詞を名詞形に変える。
3. kin 節内の動詞に係っていた助詞句のうち、省略しても問題ないと考えられるものを消去する。
4. kin 節内の残りの助詞句や接続詞節に使われている助接辞を非動詞修飾形にする。

以下の例文を使って、実際に名詞用法に書き換えてみましょう。

hilefat a tel e **kin hisezos a'l e hinad**.

▶ 私は山に登ることが大好きだ。

この文の kin 節の動詞は hisezos で、名詞としての形は語幹そのままの hisez です。また、kin 節内の a'l は省略しても意味が通りそうなので、これは削除しましょう。最終的に、以下のようになります。

hilefat a tel e **hisez ie hinad**.

▶ 私は山登りが大好きだ。

hisez ie hinad という形ができました。hisez が「登ること」を意味していて、ie hinad は「山を」という意味で hisez を修飾しています。したがって、全体で「山に登ること」という意味になり、もとの kin 節と同じ意味が出せるわけです。

新出単語

名 kedxovas — 名 神社, 寺
動 fêc — 形 近い 動 近づく
名 fecil — 名 周辺
名 lisid — 名 フォーク

動 nixsok — 形 おもしろい
名 macak — 名 ケーキ
動 hisez — 動 登る
動 hilef — 動 大好きになる

例外助接辞

pa sokat a loc e socad ike'n kâkes a bés ca fosnal afik?

▶ この村に熊が現れたという事件を知っていますか？

dusalat a tel e asafey iti feracis a'l e loc.

▶ 私はあなたの手伝いをするほど優しくない。

sâfat a tel e korac, ti vomac teros a'l e met te taq atov.

▶ 私は毎日飲んでいるくらいお酒が好きだ。

déxat ifeli qisec a tiris vo qôd.

▶ まるで人形のように赤ちゃんがあそこで眠っている。

1 ▶ 例外助接辞の用法

例外助接辞の用法は単語によって異なるので、それらを包括して説明できる一般論があるわけではありませんが、いくつか共通の法則があります。

まず、例外助接辞は原則として非動詞修飾形のみが用いられます。ただし、これについては後述しますが、一部の場合において原形を用いた言い換えをすることができ、このときに限って原形が現れます。

また、一般助接辞の場合と同様に、例外助接辞が助詞として用いられるときは後ろに名詞を伴い、接続詞として用いられるときは後ろに節を伴います。このようにして作られた例外助接辞による助詞句や接続詞節は、名詞や形容詞などの他の単語を修飾します。このときは、通常の修飾の語順に従って、助詞句や接続詞節が被修飾語の直後に置かれます。

なお、i は例外助接辞ですが、この用法については第 2 課で説明した通りなので、ここで改めて扱うことはしません。

2 ▶ ke

例外助接辞の ke は、常に非動詞修飾形の助詞として用いられます。このとき、ike の後ろに kin 節を伴って ike とその kin 節全体で名詞を修飾し、その名詞の内容を表します。日本語の「～という」に相当すると考えてください。

具体例を見てみましょう。

pa sokat a loc e socad ike'n kâkes a bés ca fosnal afik?

▶ この村に熊が現れたという事件を知っていますか？

なお、ike の後は常に kin が置かれるので、上の例文のように kin が縮約されて ike'n という形になることがほとんどです。ke に接続詞の用法はないので、kin を省略することはできません。

3 ▶ ti

例外助接辞の ti は、原則として非動詞修飾形の接続詞として用いられます。iti の後ろに節を直接伴って iti 節全体で形容詞や副詞や動詞を修飾し、その程度を表します。

dusalat a tel e asafey iti feracis a'l e loc.

▶ 私はあなたの手伝いをするほど優しい。

上の例では、iti 節が asafey を修飾し、「優しい」というのが「あなたの手伝いをする程度の優しさ」くらいであることを表しています。

ti のように例外助接辞が接続詞として用いられているとき、後ろに置かれる節の時制の意味は、kin 節や限定節と同じように主節の時間を基準に決まります。第 14 課と第 20 課で学んだことを思い出しましょう。

vilises a ces ovit iti dukilat zêfzizas a'l ca ces.

▶ 私が彼に追いつけないほど彼は速く走った。

この例では、iti 節の動詞 dukilat の現在時制は、主節の動詞 vilises と同じ時間に起こったことを意味しています。vilises は過去時制なので、彼が走ったのと私が追いつけなかったのは、ともに過去の同じ時間に起こった出来事だということになります。

4 ▶ 例外助接辞の言い換え

ti の使い方は基本的に上に述べた通りです。ただし、上で説明した通りに文を作った後で、以下のような手順で原形を用いた形に言い換えることが可能です。

1. 非動詞修飾形の iti を原形の ti に変える。
2. ti 節全体を文末に移動させる。
3. ti 節の直前にタデックを置く。このタデックは省略しても良い。

例えば、前の例文をこの手順に従って言い換えると以下ようになります。

dusalat a tel e asafey, **ti feracis a'l e loc**.

▶ 私はあなたの手伝いをするほど優しくない。

iti 節が動詞を修飾する場合は、基本的にこの言い換えられた形になります。例えば、sâfat a tel e korac という文の sâfat に iti 節を修飾させようとすると、その iti 節は sâfat の直後に置くことになるので、次のようになるでしょう。

sâfat **iti vomac teros a tel e korac te taq atov**, a tel e korac.

▶ 私は毎日お酒を飲んでいるくらいお酒が好きだ。

しかし、これでは sâfat に係る a tel や e korac が長い iti 節の後に置かれてしまい、文の構造を把握するのが難しくなってしまいます。そのため、上記の手順に従って、以下のように言い換えた形が使われます。

sâfat a tel e korac, **ti vomac teros a tel e korac te taq atov**.

▶ 私は毎日お酒を飲んでいるくらいお酒が好きだ。

この言い換えをした後では、一般助接辞を接続詞として使った場合と同じような見た目になります。ただし、一般助接辞の場合は副詞的用法をとることができましたが、例外助接辞は副詞的用法にはできません。

また、この言い換えをすると、例外助接辞の後ろに置かれる節の時制の意味が、その文が発話もしくは記述された時間基準になります。これは、一般助接辞が接続詞として用いられた場合と同じです。言い換える前と言い換えた後で時制の基準となる時間が変わるので、時制を間違えないよう注意してください。

なお、この言い換えは、ti 以外の例外助接辞でも、それが形容詞や副詞や動詞を修飾する接続詞として用いられていればいつでも可能です。ti 以外の例としては、以下に取り上げる feli や、第 23 課で扱う ni などがあります。

5 ▶ feli と tace

例外助接辞の feli と tace は、ともに日本語の「～のように」に相当します。

まず feli は、非動詞修飾形の助詞として用いられると、形容詞や副詞や動詞を修飾して、その意味の度合いを比喻によって表します。日本語の「まるで～のように」という表現をイメージすると分かりやすいでしょう。

gisives ca ces e zat agilit **ifeli ginet**.

▶ 彼は針のように尖ったものを刺された。

déxat **ifeli qisec** a tiris vo qôd.

▶ まるで人形のように赤ちゃんがあそいで眠っている。

非動詞修飾形の **feli** は、後ろに節を伴って接続詞としても用いることができます。このとき、**ti** と同様の言い換えも可能です。

pehorat a ces **feli paqofat a's e xasol**.

▶ 彼は魂をなくしてしまっているかのように上の空だ。

一方で **tace** は、非動詞修飾形の助詞として名詞を修飾し、その名詞の代表例を提示します。英語では **such as** などに相当します。

dulîdis a tel e xoq aqonef **itace fit**.

▶ 私はこのようなつまらない本は読まないだろう。

この例では、**xoq aqonef** という名詞の塊を **itace fit** が修飾し、「つまらない本」の代表例として「これ」を提示しています。

なお、**tace** には接続詞の用法はありません。

新出単語

名 **socad** — 名 事件

動 **zêfziz** — 動 追いつく

助 **tace** — 助 〜のような

名 **taq** — 名 日

助 **ti** — 接 〜するほど

名 **tiris** — 名 赤ちゃん

動 **tov** — 形 各

助 **ke** — 助 〜という

名 **korac** — 名 お酒

動 **gisiv** — 動 刺す

動 **gilit** — 形 尖った

名 **ginet** — 名 針

助 **feli** — 助 〜のように 接 〜するように

動 **pehor** — 動 上の空になる

名 **bés** — 名 熊

名 **qisec** — 名 人形

動 **qonef** — 形 つまらない

名 **xasol** — 名 魂

比較表現 I

salat a ces e axòc emic ini tel.

- ▶ 彼は私より賢い。

salet a kedet acik e ahiq emic ini pafisec a tel e'n lat.

- ▶ その建物は私が想像していたよりも高かった。

sokesat a tel e soxal asivel emic ini met afik.

- ▶ 私にはこの参考書よりも詳しいものが必要だ。

1 ▶ 優劣表現の作り方 (名詞と比較)

ここでは、「 A は B より X だ」のような2つものの性質の優劣を比較する文の作り方を説明します。

例として、「彼は私より賢い」という文を作ってみましょう。まず、比較対象を取り除いた「彼は賢い」という文を作ります。

salat a ces e axòc.

- ▶ 彼は賢い。

次に、比較する性質を表す単語に、連述詞型不定辞の mic を連述詞にして修飾させます。この mic は日本語の「より」に相当します。さらに、例外助接辞の ni を非動詞修飾形の ini にして、その直後に比較対象の名詞を置き、できた ini 句全体を emic の直後に置きます。この ini は助詞として用いられることになります。

今回の例では、以下のようになります。

salat a ces e axòc emic ini tel.

- ▶ 彼は私より賢い。

emic が英語の more に対応していて、ini が英語の than に対応していると考えれば、構文が分かりやすいでしょう。

2 ▶ 優劣表現の作り方 (節と比較)

上と同じ意味の表現は、これから説明する別の方法でも作ることができます。

まず、「 A は X だ」 と 「 B は X だ」 という2つの文を両方作ります。このとき、

両方の文に同じ文構造が含まれるようにします。

salat a ces e axòc.

▶ 彼は賢い。

salat a tel e axòc.

▶ 私は賢い。

次に、比較される方について言及している文 (A を含む文) で比較する性質を表している単語を **emic** で修飾します。続いて、比較対象に言及している文 (B を含む文) を **ini** の直後に置いて、できた **ini** 節を **emic** の直後に移動させ、文を1つにします。この場合の **ini** は接続詞です。

今回の例では、以下のようになります。

salat a ces e axòc **emic** **ini** salat a tel e axòc.

▶ 私が賢いのよりも彼は賢い。

「彼は私より賢い」というのは、「彼が賢い」と「私は賢い」という2つの文にあるそれぞれの「賢い」の度合いを比較して、「彼が賢い」の方がその程度が大きいことを述べていると捉えられます。上で作った表現は、この考え方をもとに成り立っています。

なお、上の文で優劣表現は完成していますが、繰り返されている箇所が多く冗長なので、第19課で学んだ回避方法を用いて、文を簡略化するのが普通です。この文の場合は、**salat e axòc** を代動詞の **i** に置き換えて以下のようにするのが自然でしょう。

salat a ces e axòc **emic** **ini** lat a tel.

▶ 私がそうなのよりも彼は賢い。

3 ▶ 名詞との比較で表せない優劣表現

最初に述べた **ni** を助詞として使う表現の方が文構造が簡単なので、**ni** を助詞として使う構文で表現ができるなら、そちらの方が好まれます。しかし、**ni** を助詞として用いた構文では表現できない場合もあります。その典型的な例として「その建物は私が想像していたのよりも高かった」という文を考えてみましょう。これは、「その建物が高かった」と「私がその建物は高いと想像していた」という2つの文における「高い」の度合いを比較して、前者の方が甚だしかったと述べる文です。

この文をシャレイア語に翻訳するには、ni を接続詞として使うしかありません。上で述べた作り方に則って、まず2つの文を作ります。

salet a kedet acik e ahiq.

▶ その建物は高かった。

pafisec a tel e'n salat a kedet acik e ahiq.

▶ 私はその建物が高いと想像していた。

ni を使ってこれを1文にまとめ、繰り返し部分を代動詞に置き換えたのが、以下の文です。2文目の kin 節の中身である salat 以下全体が、繰り返しを避けるために lat に置き換えられていることに注意してください。

salet a kedet acik e ahiq **emic** **ini pafisec a tel e'n lat**.

▶ その建物は私が想像していたよりも高かった。

ここで、例外助接辞が接続詞として使われているので、第22課で学んだ原形による言い換えによって、以下のように述べることも可能です。

salet a kedet acik e ahiq emic, **ni pafisec a tel e'n lat**.

▶ その建物は私が想像していたよりも高かった。

4 ▶ ni がない優劣表現

名詞と比較する場合でも節と比較する場合でも、比較対象を表す ini 句もしくは ini 節は省略することができます。その場合は、文脈から想定される対象との比較であると解釈されるか、もしくは平均よりは優れているなどの漠然とした比較であると解釈されます。

salot a zecel afik e avituf **emic**.

▶ この問題はより単純だ。

この文は、それまで話していた他の問題と比べて単純であることを表すか、もしくは世の中にある様々な問題の中でどちらかというと単純な方であることを表します。

5 ▶ 形容詞句としての優劣表現

一番最初に作った「彼は私より賢い」という文を思い出してください。ここでは最終的に axòc emic ini tel という表現が作られていますが、axòc が「賢い」を

意味していて、emic ini tel が「私より」という比較対象を表す表現なので、この部分だけで「私より賢い」という形容詞句になっています。そのため、以下のようこれを名詞に修飾させて文中で用いることができます。

rafat fedàtis a tel e zis axòc emic ini tel.

▶ 私は私より賢い人と知り合いたい。

この例では、axòc emic ini tel が zis を修飾し、「私より賢い人」という表現を作っています。

他の例も見ましょう。

sokesat a tel e soxal asivel emic ini met afik.

▶ 私にはこの参考書よりも詳しいものが必要だ。

denites a filed acik e nitez omêl emic ini ris.

▶ そのおばあさんは誰よりもゆっくりと坂を下った。

2つ目の文で出てくる ris は、「誰でも」や「どの人も」のような意味で、関係している全ての人に当てはまることを述べるときに使う単語です。英語では anyone に相当します。

新出単語

動 sivel — 形 詳しい
名 soxal — 名 参考書, 教科書
名 zecel — 名 問題
動 denit — 動 下りる
名 filed — 名 おばあさん
動 vituf — 形 単純な
動 pafis — 動 想像する

動 xòc — 形 賢い
名 ris — 名 誰でも
助 ni — 助 〜より 接 〜するより
名 nitez — 名 坂
動 mêt — 副 ゆっくりと
述 mic — 述 より
動 hiq — 形 高い

比較表現 II

di'nîpis a'c zi fêd ofev evêl ini qifat las.

▶ できるだけすぐにここから去れ。

salot a ces e azécak ehiv ive lef i tel.

▶ 彼は私の知人の中で最も勇敢だ。

zêhises a ces e sâlak acasat ehiv ica gulilsoz.

▶ 彼は最も頭痛に効果的な薬を作り上げた。

salet a lasav afik e aniscadey edès, ni revet a'l e'n lat.

▶ このアニメは思っていたほど感動的でなかった。

1 ▶ 同等表現

第23課で学んだ優劣表現と全く同様の方法で、「*A*は*B*と同じくらい*X*だ」のような、2つのものの性質を比較してそれが同程度だということを述べる文を作ることができます。違いは、「より」を意味する *mic* の代わりに「同じくらい」を意味する *vêl* を使うという点だけです。

優劣表現と構文は同じなので、いくつか例文を挙げるだけに留めておきます。

salat a cekul i loc e avaf **evêl** **ini** elefanet.

▶ あなたの鞆はゾウと同じくらい大きい。

pa kocaqat a laxol kavat a e nelas alot **evêl** **ini** met i jirâf?

▶ キリンの首と同じくらい長い首をもつ人間は存在しますか？

di'nîpis a'c zi fêd ofev **evêl** **ini** qifat las.

▶ できるだけすぐにここから去れ。

1つ目の文は通常の比較表現の構文の例で、2つ目の文は *alot evêl ini met i jirâf* という形容詞句として比較表現を用いた例です。

3つ目の例文は、「すぐにここから去る」と「すぐにここから去ることが可能である」という2つの文の「すぐに」の度合いを比較して、それが同じくらいであることを命令しています。そのため、「できるだけすぐに」の意味になるわけです。*evêl ini qifat las* もしくは *evêl ini kilat las* は、「できるだけ」を意味する定形表現なので、このまま覚えてしまっても良いでしょう。

2 ▶ 最上表現

最後に3つ目のパターンの比較表現として、「AはBの中で最もXだ」のような、特定の範囲の中で最もある性質を顕著にもっていることを表す文の作り方を説明します。

「彼は私の知人の中で最も勇敢だ」という文を例として作ってみましょう。まず、比較の範囲を表す部分を取り除いて「彼は勇敢だ」という文を作ります。

salot a ces e azécak.

▶ 彼は勇敢だ。

次に、比較する性質を表す形容詞か副詞に、連述詞型不定辞の *hiv* を連述詞にして修飾させます。この *hiv* は「最も」のような意味をもちます。続いて、例外助接辞の *ve* を非動詞修飾形にし、その直後に比較の範囲を表す名詞を置き、*ive* 句全体を *ehiv* の直後に置きます。

今回の場合、以下のようになります。

salot a ces e azécak ehiv ive lef i tel.

▶ 彼は私の知人の中で最も勇敢だ。

3 ▶ *ve* がない最上表現

比較範囲を表す *ive* 句はなくても構いません。その場合は、文脈から想定される範囲での比較であると解釈されるか、もしくは他の同じ種類の全てのものとの比較であると解釈されます。

pa salat e pet a reláf ayalíf ehiv?

▶ 最も人気のある曲は何ですか？

例えば、CD ショップでとある客が店員に対してこの文を言ったのであれば、比較範囲はその店でCDとして売られている曲になるでしょう。もし特に文脈がないならば、比較範囲はこの世界に存在するあらゆる楽曲になります。

4 ▶ 形容詞句としての最上表現

優劣表現の場合と同様に、〈形容詞+*ehiv*+*ive* 句〉の全体で「最もXであるような」という形容詞句になっているので、これを他の名詞に修飾させることができます。例えば、上で作った文に *azécak ehiv ive lef i tel* という表現が出てきますが、この部分を「私の知人の中で最も勇敢な」という意味の形容詞句として

使うことができます。

pîted li fobôs a zis **azécak ehiv ive lef i tel**.

▶ 私の知人の中で最も勇敢な人がお化けを怖がっていた。

以下は ehiv のみが修飾語として利用されている例です。

zêhises a ces e sálak **acasat ehiv ica gulilsoz**.

▶ 彼は最も頭痛に効果的な薬を作り上げた。

この例では、「頭痛に効果的だ」という性質が最も顕著である薬を作ったことを述べています。したがって、「頭痛に効果的だ」という意味の **acasat ica gulilsoz** 全体を ehiv が修飾することになるので、本来ならば **acasat ica gulilsoz ehiv** という語順になるはずですが、ここでは ehiv が **gulilsoz** を修飾しているように見えてしまうため、ehiv が **acasat** の直後に置かれています。少し例外的ですが、助詞句のような複数単語から成る語句から修飾を受けている部分全体を別の 1 単語で修飾したい場合に、このような語句の入れ替えが起こることがあります。

5 ▶ dès と doqhiv

第 23 課では、mic という単語を使うことで、「A は B より X だ」のように、A と B のそれぞれの X の度合いを比較して A の方が顕著であることを表せると学びました。逆に、mic の対義語に当たる dès を代わりに用いることで、「A は B ほど X でない」のように、A の X の度合いの方が小さいことも表せます。この dès は英語の less に当たる単語です。

dès の使い方は mic と全く同じです。

salet a lasav afik e aniscadey **edès**, ni revet a'l e'n lat.

▶ このアニメは思っていたほど感動的でなかった。

この文は、アニメの実際の感動的程度と事前に思っていた感動的程度を比較して、dès が修飾している方、すなわち実際の感動的さの程度の方が低いことを表しています。

同様に、hiv の対義語として doqhiv という単語もあります。hiv を用いると、「A は最も X だ」のように、A が X の度合いに関して最も顕著であることを表せますが、代わりに doqhiv を用いることで、A が最も顕著でないことを表せます。英語の least に相当する単語です。

salat a saq e taq anistecaf **edoqhiv** itazi tel.

▶ 今日には私にとって最も幸運でない日だ。

この文は、幸運さの程度について今日が最も低いことを表すので、「最も幸運でない」もしくは「最も不運だ」という意味になります。

なお、ここに出てくる **itazi** は例外助接辞である **tazi** の非動詞修飾形です。**tazi** は、非動詞修飾形の助詞として用いられ、形容詞や副詞を修飾し、判断の視点を表します。日本語の「～にとって」に相当する単語です。

新出単語

名 **sálak** — 名 薬
 動 **zécak** — 形 勇敢な
 動 **zêhis** — 動 作り上げる
 助 **tazi** — 助 ～にとって
 述 **dès** — 述 より～ない
 述 **doqhiv** — 述 最も～ない
 名 **gulilsoz** — 名 頭痛
 名 **fobôs** — 名 お化け
 助 **ve** — 助 ～の中で
 述 **vêl** — 述 同じくらい
 動 **pît** — 動 怖がる
 動 **casat** — 形 効果的な

名 **cekul** — 名 靴
 名 **jirâf** — 名 キリン
 動 **lot** — 形 長い
 名 **rev** — 名 思う
 名 **reláf** — 名 曲
 名 **nelas** — 名 首
 動 **nistecaf** — 形 幸運な
 動 **niscadey** — 動 感動的な
 動 **yalif** — 形 人気のある
 述 **hiv** — 述 最も
 名 **elefanet** — 名 ゾウ

演習問題 5

1. 次の文の空欄にすでに書かれている一般助接辞の非動詞修飾形が成す助詞句を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) qetat a voston acik ca zîd afêc ca.

▶ そのレストランはここから近い場所にある。

(2) salat a ces e cossâc e.

▶ 彼女は数学の教師だ。

2. 助接辞の非動詞修飾形を用いることで、次の文中の限定節に含まれている下線部を消去しつつ、意味を変えずに文を書き換えなさい。

(1) pa salat e pas a fakil câşes e a loç te tazît?

(2) fêkat a tel e qazek qetet a ca naflat aquk.

(3) feges a tel e likok qîloş a tel so teros a'l e cêr.

3. 次の文中の下線部の **kin** 節を、動詞型不定辞の名詞形と助接辞の非動詞修飾形を用いた形に変えて、意味を変えずに文を書き換えなさい。

(1) sâfat a tel e kin liços a'l e laşav.

(2) bâgez a tel li kin belsetes a qasot.

4. 次の文の空欄にすでに書かれている例外助接辞の非動詞修飾形を用いた表現を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) sokat a tel e rát ke.

▶ 兄が結婚したという話を私は知っている。

(2) salat a celvir afik e asaret ti.

▶ このワインは私が泣いているほどおいしい。

(3) rafat qorasis a tel fe zis akelzef tace.

▶ 私は彼のような頼もしい人と一緒に旅行したい。

5. 次の文の空欄にすでに書かれている例外助接辞の原形を用いた表現を入れ、指定された意味の文を作りなさい。

(1) debet a tel ti.

▶ 私はすぐに眠ってしまうほど疲れていた。

(2) lîdqeles a ces e xoq acik feli.

▶ 彼はまるで歌うかのようにその本を朗読した。

6. 次の文の空欄に比較表現を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) salat a qaled i tel e asafey .

▶ 私の弟は私より優しい。

(2) teres a tel e korac amay .

▶ 私はイチゴと同じくらい甘いお酒を飲んだ。

(3) salat a ces e asiref .

▶ 彼女は私の友達の中で最もおとなしい。

(4) sôdes a tel e retat avôl .

▶ 私は彼ほどたくさんのお菓子は食べなかった。

(5) qîlac a ces e cekul axodol .

▶ 彼は私たちの中で最も高価でない鞆を使っている。

7. 次の2つの文の下線部を比較した比較表現を作ること、指定された意味の1つの文にしなさい。

(1) salat a ces e azîsqom. salet a ces e azîsqom te zîk.

▶ 彼は昔よりも消極的だ。

(2) ricames a tel ovît. kilet ricamos a ces ovît.

▶ 私は彼が泳げるよりも速く泳いだ。

(3) câkes a ces odomet. revet a tel e'n cakis a ces odomet.

▶ 彼女は私が思っていたよりも遅く来た。

(4) kocaqat te saq vo fêd a zis avôl. kocaqat te tazît vo fêd a zis avôl.

▶ 今日はここに昨日ほど多くの人がいない。

8. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) vomac qiketos a ces vo zîd aqon izi lidvalox.
- (2) ditat sodis ohaves a'c e malac ivo fêd.
- (3) salat e agipik a ricam ivo risis afik.
- (4) feges a tel e soxal iso vomis sohizos a'l e qilangel.
- (5) pa pâmat a ces e kozis ike'n zicatis a's ca tel e xoq?
- (6) ricamac ifeli ritif a yaf i tel vo qôd.
- (7) vomac kévelos a tel e felâl olof edès ini ces.
- (8) yisat e loc a zis avôl emic ini sokat a'c e'n lat.
- (9) kocaqat a dus kûtat a e qîsec avêq evêl ini tel.
- (10) salat e laztad a zat anisxok edoqhiv itazi tel.

9. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) この駅の周辺にはたくさんの神社がある。
- (2) 私は友達に昨日の映画を勧めた。
- (3) 彼女は旅行の計画がとても好きだ。
- (4) 彼がフランスに引っ越しするという噂は本当だ。
- (5) 私たちが泣いてしまうほどこの小説は感動的だった。
- (6) 私は将来彼のような医者になりたい。
- (7) その腕時計は私が想像していたよりも高価だ。
- (8) 彼はガラスと同じくらい透明な石を見つけた。
- (9) 彼はできるだけ速く部屋を掃除した。
- (10) あなたの家族の中で誰が最も身長が高いですか？

新出単語

名 seklac — 名 映画, ドラマ

名 sofez — 名 家族

動 zisqom — 形 弱気な

名 zik — 名 昔, 以前

動 zicat — 動 返す

名 dessotàk — 名 数学

動 domet — 副 遅く

名 kadeg — 名 石

動 kével — 動 参加する

動 gipik — 形 危険な

動 fèk — 動 知る

名 felâl — 名 パーティー

名 ferânes — 名 フランス

動 vêq — 形 多様な, いろいろな

名 parec — 名 将来

動 belset — 動 いたずらする

動 cedeq — 動 計画する

動 qiket — 動 働く

名 laztad — 名 スポーツ

名 levkit — 名 ガラス

名 lidvalox — 名 故郷

動 lîdqel — 動 朗読する

動 lidòc — 動 勧める

名 likok — 名 コップ

名 rátris — 名 噂

動 ratel — 形 透明な

名 retat — 名 お菓子

名 risis — 名 川

名 ritif — 名 魚

動 niselsod — 動 引越す

名 malac — 名 フルーツ

動 yis — 動 好む

動 haves — 副 自由に 形 自由な

第 3 部

第1部と第2部で、シャレイア語のほとんどの文法は学び終わりました。第3部では、さらに表現力を高めるための発展的な構文を学びます。全ておさえてしまえば、シャレイア語で表現できないことはもうないでしょう。

否定表現発展

salat a likok adak e adutulaf.

▶ 空でないコップはない。

cákis a ces ca fêd odukôk.

▶ 彼がここに必ず来るとは限らない。

dilec rahitas a tel e rakal fe ces.

▶ 私は彼と一緒にゲームで遊んでいたわけではない。

1 ▶ 二重否定

第8課では、単語に **du** を付けると否定の意味になることや、それ自身で否定の意味になる否定相当語という単語があることを学びました。これらの否定の意味をもつ表現を同じ文の中で2つ使うと、常に強い肯定を意味するようになります。

まず、否定相当語の **dak** と形容詞の否定形が同時に使われた例を見てみましょう。

salat a likok **adak** e **adutulaf**.

▶ 空でないコップはない。

この文は、直訳すると「0個のコップが空ではない」となるので、全てのコップが空であることを意味しています。したがって、意味的には **salat a likok aves e atulaf** と言うのと同じですが、上の例文の方が「全て空なのだ」ということが強調されます。

次に、2種類の否定相当語が同時に使われている例を見てみます。

soxoc **odum** a tel e **dol**.

▶ 私は何も考えていないということは全くない。

この文では、**soxoc a tel e dol** すなわち「私は何も考えていない」ということの頻度が0%であることを意味しています。したがって、「常に何か考えている」ということを強調して述べていることになります。

最後に、次の文は1つの文の中で否定形を2つ使っている例です。

dukilat zehavos e dud afik a zis **aduzêr**.

▶ 強くない人はこの悲しみを乗り越えられない。

この文は、「強い人だけがこの悲しみを乗り越えられる」という内容の強調になっています。

2 ▶ 全部否定と部分否定

否定を表す du は、それが付けられた単語の意味だけを否定します。

ducákis a ces ca fêd okôk.

▶ 彼はここに必ず来ない。

この文では、「来る」という意味の cákis に du が付けられ、「来ない」という意味の ducákis という表現ができています。これを okôk が修飾しているので、文全体は「来ない」という状態が必ず起こるだろうということを表し、「必ず来ない」もしくは「来ることは絶対にない」のような意味になります。

ここで注意すべきなのは、cákis に付いている du は、cákis のみを否定しているのであって、cákis a ces ca fêd okôk という文全体を否定しているわけではないという点です。もし du が文全体を否定するなら、「必ず来る」という内容が否定されるわけなので、「必ず来るとは限らない」もしくは「来ないかもしれない」のような意味になるでしょう。

「必ず来るとは限らない」のような表現は「部分否定」と呼ばれます。これをシャレイア語で表現するには、「必ず」のような全体の意味をもつ単語を否定形にします。今回の場合は kôk を否定します。

cákis a ces ca fêd **odukôk**.

▶ 彼がここに必ず来るとは限らない。

これが部分否定の意味になる理由は以下の通りです。okôk は日本語の「必ず」に相当し、もう少し厳密に言えば「起こる確率が100%で」のような意味を持ちます。そのため、これを否定するには、確率が100%でなければ良いことになります。したがって、odukôk は「起こる確率が100%より少ない」のような意味合いになります。これを cákis に修飾させれば、「来る確率が100%より少ない」もしくは「来ない確率が少しある」という意味になるので、まさに「必ず来るとは限らない」が表現できるわけです。

この方法で作れる部分否定の表現を以下にまとめます。

表現	意味
oduvák	いつも～するとは限らない
odukôk	必ず～するとは限らない
oduvop	再び～するとは限らない
aduves	全て～するとは限らない

実際にこれらが使われている例文をいくつか挙げておきます。

zedat lanis a tel e vosras aquk **oduvop**.

▶ 私は二度はあのカフェに行かない。

kavat a qilox **aduves** e lakad alik ica cit.

▶ 全ての言語にそれ固有の文字があるとは限らない。

部分否定の文を作るときに上で述べたような理屈を考えても良いですが、この表をそのまま覚えてしまう方が実用的かもしれません。

3 ▶ dil による部分否定

「彼がここに必ず来るとは限らない」という文は、「彼はここに必ず来る」という文全体の否定とも考えられます。シャレイア語には文全体を否定する構文があるので、それを用いても部分否定を表現することができます。

そのためには、まず否定したい文を作ります。

cákis a ces ca fêd okôk.

▶ 彼はここに必ず来る。

作った文を〈dil の活用形 + e kin〉の後に続けることで、文全体を否定できます。このとき、dil の時制と相を kin に続ける動詞のもともとの時制と相に変え、kin に続ける動詞の方は常に現在時制無相にします。ただし、態についてはそのままにします。

今回の例では、cák がもともとの文で未来時制無相の形で使われているので、代わりに dil を未来時制無相にし、cák は現在時制無相に変えます。

dilis e kin cákas a ces ca fêd okôk.

▶ 彼はここに必ず来るわけではない。

e kin の部分が省略されて、dil が助動詞的に使われることも多いです。

dīlis cákas a ces ca fêd okôk.

▶ 彼はここに必ず来るわけではない。

この構文は複雑な否定を表現したいときによく使われます。この構文を用いた文と単に動詞を否定形にただけの文を比べてみましょう。

dīlec rahitas a tel e rakal fe ces.

▶ 私は彼と一緒にゲームで遊んでいたわけではない。

durahitec a tel e rakal fe ces.

▶ 私は彼と一緒にゲームで遊んでいなかった。

1つ目の例文では、「私は彼と一緒にゲームで遊んでいた」という内容全体が否定されるので、ゲームを一緒にした人が彼ではないのか、そもそも1人でゲームをしていたのか、もしくは彼と一緒に遊んでいたものがゲーム以外なのか、様々な可能性があります。一方で2つ目の例文では、否定形の動詞が表す「遊んでいなかった」という内容に「私は彼と一緒にゲームで」が係るので、彼と一緒にゲームで遊ぶ以外のことをしていたと述べることになります。

新出単語

動 sox — **動** 考える
動 zêr — **形** 強い
動 zehav — **動** 乗り越える
動 tulaf — **形** 空の
動 dil — **動** でない
名 dud — **名** 悲しみ
動 vâk — **副** いつも

動 ves — **形** 全ての
名 vosras — **名** カフェ
名 qilox — **名** 言語
名 lakad — **名** 文字
動 lik — **形** 固有の
名 rakal — **名** ゲーム

疑問表現発展

pa rafat lanis a loc ca pet ive hinad o riy?

▶ あなたは山と海ではどちらに行きたいですか？

paces a tel ca qâz e kin zifimis a fax te pet.

▶ 私は母がいつ帰ってくるのか父に尋ねた。

medeles e qiliv afik a duloc, pa dules?

▶ このテレビを壊したのはあなたではないのですね？

1 ▶ ve による選択疑問文

第12課では、連結詞の á を用いて選択疑問文を作る方法を学びました。実は選択疑問文を作る方法はいもう1つあり、ここではその方法を説明します。ただし、á は動詞や形容詞なども接続できましたが、ここで説明する方法では選択肢に名詞しか使うことができません。

例として、「あなたは山と海ではどちらに行きたいですか」という文を作ります。まず、選択肢を除いた文を作ります。この例の場合は、「あなたはどちらに行きたいですか」という文を作ることになります。シャレイア語には、英語の which のような「どちら」や「どれ」に当たる選択を表す疑問詞はないので、代わりに「何」や「誰」を意味する pas や pet などの普通の疑問詞を使います。

pa rafat lanis a loc ca pet?

▶ あなたはどちらに行きたいですか？

次に、例外助接辞の ve を非動詞修飾形にし、直後に選択肢を o で繋いで置き、できた ive 句全体を先程作った文の疑問詞の直後に置きます。この ve は、第24課で最上表現を作ったときに使ったものと同じ単語です。

pa rafat lanis a loc ca pet ive hinad o riy?

▶ あなたは山と海ではどちらに行きたいですか？

注意すべき点としては、ive 句の中で選択肢を繋げる連結詞は o だということです。第12課で学んだ選択疑問文の作り方と混同して、á にしないようにしてください。

ve を用いた選択疑問文への答え方は、疑問詞疑問文への答え方に準じます。すなわち、1つの助詞句によって答えます。

pa cákes a loc ca fêd **qi pet ive volâq o loqiv**?

▶ あなたはバスと電車のどちらでここまで来ましたか?

qi volâq.

▶ バスです。

2 ▶ 間接疑問節

第14課では、kin の後に文を置くことで、その文を名詞化できることを学びました。実は kin の後に置く文は疑問文でも構いません。ただし、このとき動詞の前の pa は取り除きます。

例として「私は母がいつ帰ってくるのか父に尋ねた」という文を作ってみましょう。この文は、「母はいつ帰ってくるのか」という疑問文が名詞化されて、「尋ねた」という動詞の目的語になっています。疑問文の部分は、以下のようにシャレイア語に訳せます。

pa zifimis a fax te pet?

▶ 母はいつ帰ってくるのですか?

pa を除いて kin の後に続ければ疑問文を名詞化できるのですから、以下のようにすれば作りたい文が完成します。なお、最終的にできる文そのものが疑問文になっているわけではないので、文末にはパデックではなくデックを置きます。

paces a tel ca qâz e **kin zifimis a fax te pet**.

▶ 私は母がいつ帰ってくるのか父に尋ねた。

疑問文が中に置かれている kin 節は「間接疑問節」とも呼ばれます。

どのような種類の疑問文でも間接疑問節にすることができます。ただし、諾否疑問文を間接疑問節にするには言い換えが必要で、これについては後述します。

salat e apârel a **kin fovaes qi pil a ces zi sokul akulak**.

▶ 彼がどうやって鍵のかかった部屋から出たのかは謎だ。

dukilet decatas a tel e **'n sôdis a'l e telis á matef**.

▶ 私はご飯を食べるかパンを食べるか決められなかった。

3 ▶ 諾否疑問文による間接疑問節

諾否疑問文には **pa** 以外にそれが疑問文であることを表す単語がないので、間接疑問節にするときに **pa** を取り除いてしまうと、普通の **kin** 節なのか間接疑問節なのか分からなくなってしまいます。そこで、諾否疑問文を間接疑問節にするときは、最初に少し言い換えをします。

例えば、「彼は怒っていますか」という疑問文は、彼が怒っているのか怒っていないのかどちらなのかを尋ねています。したがって、「怒っている」と「怒っていない」の2択の選択疑問文とも捉えることができます。この選択疑問文は、**bâgat á dubâgat** のように表現することができます。ただし、これでは同じ動詞が続けて現れてしまうので、後ろの方を代動詞の **I** に置き換えるのが普通です。

pa **bâgat á dulat** **a ces?**

▶ 彼は怒っているのかそうでないのかどちらですか?

諾否疑問文を間接疑問節にするときは、このような選択疑問文に書き換えた後に **kin** 節にします。

duqifet lidesas a tel e **kin bâgat á dulat a ces.**

▶ 私は彼が怒っているのかそうでないのか判断できなかった。

結局は、**pa** を取り除いた後に、動詞の後に〈**á + I**の否定活用形〉を付け足すだけなので、それほど複雑というわけでもありません。

4 ▶ 付加疑問

通常の文の後に〈**pa + I**の否定活用形〉を続けることで、「～ですよ」のような相手に確認や念押しをする表現を作ることができます。**I**の時制と相および態は前の文の動詞と一致させます。

medeles e qiliv afik a duloc. **pa dules?**

▶ このテレビを壊したのはあなたではないのですよね?

〈**pa + I**の否定活用形〉の部分は単独で「そうではないのですか」のような意味になります。通常の文を述べた後に、「今言ったことは正しくないのですか」と問うことで、反語的に「正しいのですよね」と確認しているわけです。

〈**pa + I**の否定活用形〉の代わりに **pa e ayát** を続けることでも、同じような確認を表す疑問文にすることができます。

qetet a loc vo dekél aquk olov. **pa e ayát**?

▶ あなたはあのホテルにずっといたのですね?

yát は形容詞として「本当の」という意味なので、pa e ayát の部分は「今言ったことは本当ですか」のような意味になっており、相手への確認のニュアンスが出るわけです。

新出単語

動 zifim — 動 帰る
 名 telis — 名 ご飯
 名 dekél — 名 ホテル
 動 kulak — 形 鍵のかかった 動 鍵をかける
 名 volák — 名 バス

動 pac — 動 尋ねる
 動 párel — 形 謎の
 動 lides — 動 判断する
 動 lov — 副 ずっと
 名 matef — 名 パン

数の表記と読み

1▶数の表記

シャレイア語では数は10進法で表記します。したがって、私たちが普段0から9までの数字を用いて数を表記しているのと同じように表記します。ただし、細かい点が多少異なるので、その違いについて述べておきます。

まず、日本やアメリカでは3桁ごとにコンマで区切って数を読みやすくすることがありますが、シャレイア語で桁を区切る場合は3桁ごとではなく4桁ごとに区切ります。区切り位置には、15342 や 4648 3860 7037 のように小さめのスペースを入れ、他の記号を挿入することはしません。

整数部分と小数部分の間には点を打ちますが、この点はデックやタデックとは違って文字の高さの中央の位置に書きます。この小数点の転写にも、似たような記号である中黒を用います。例えば、3.14 や 23.1407 のようになります。

最後に、整数部分が0であるような小数は、整数部分の0を書きません。したがって、0.5は.5と書くことになります。

2 ▶ 整数の読み

0 から 9 までの数字は以下の表の通りに読みます。整数部分を読むときと小数部分を読むときで読みが異なるので注意してください。

数字	読み		数字	読み	
	整数	小数		整数	小数
0	nof	mul	5	xaf	jes
1	tis	daf	6	ric	lam
2	qec	cid	7	sez	ziq
3	yos	hut	8	kaq	get
4	piv	bac	9	von	fus

まずは4桁以下の整数の読み方を説明します。4桁以下の整数を読むときは、各位の数字の整数部分としての読みの後に以下に示す位取りを表す接尾辞を付け、それらを位の大きい方から順に並べます。

位	接辞
10	et
100	il
1000	as

例えば 6236 は、以下の図に示すように ricasqecilyosetric と読みます。

	1000	100	10	1
	6	2	3	6
数辞の読み 位取りの接辞	ric as	qec il	yos et	ric

► ricasqecilyosetric

位が 0 の場合は何も読まずに飛ばすので、203 は qecilyos と読みます。

	100	10	1
	2	0	3
数辞の読み 位取りの接辞	qec il		yos

► qecilyos

5 桁以上の整数を読む場合は、まず下から 4 桁ずつに区切り、それぞれを今説明した方法で読みます。そして、それぞれの 4 桁分の読みの後に以下に示す位取りの接尾辞を付け、位の大きい方から順に並べます。

位	接辞	位	接辞
1 万	otik	1 京	opik
1 億	oqek	1 垓	oxak
1 兆	oyok	1 穰	orik

例えば 1649726236 は、以下の図に示すように読みます。

	1 億	1 万	1
	16	4972	6236
数辞の読み 位取りの接辞	tisetric oqek	pivasvonilsezetqec otik	ricasqecilyosetric

► tisetricoqek-pivasvonilsezetqecotik-ricasqecilyosetric

4 桁ずつ区切ったときにその 4 桁が全て 0 になる箇所は、何も読まずに飛ばします。そのため、600007311 の読みは以下ようになります。

	1 億	1 万	1
	6	0000	7311
数辞の読み 位取りの接辞	ric oqek		sezasyosiltisettis

► ricoqek-sezasyosiltisettis

3 ▶ 小数の読み

初めに整数部分が0であるような小数の読み方を説明します。小数部分が4桁以下の場合は、各位の小数部分としての読みの後に位取りを示す接尾辞を付け、順に並べます。このときの接尾辞ですが、整数を読むときは位が左に行くにつれて *et, il, as* と変わりましたが、小数を読むときは逆に位が右に行くにつれて *et, il, as* とします。なお、小数点自身は読みません。

例えば **・4561** は、以下の図に示すように **bacjesetlamildafas** と読みます。各数字の読みが整数部分の場合と異なることに注意してください。

・	4	5	6	1
数辞の読み 位取りの接辞	bac	jes et	lam il	daf as

▶ bacjesetlamildafas

小数部分が5桁以上の場合は、小数点に近い方から4桁ずつ区切り、まずこの4桁分を読みます。そして、それぞれの4桁分の読み到位取りの接尾辞を付け、順に並べます。このときの接尾辞も整数部分のときとは逆順で、右に行くにつれて *otik, oqek, oyok* と変わります。

・456137733 の読みは以下のようになります。

・	4561	3773	3
数辞の読み 位取りの接辞	bacjesetlamildafas	hutziqetziqilhutas otik	hut oqek

▶ bacjesetlamildafas-hutziqetziqilhutasotik-hutoqek

整数部分も小数部分ももつような数を読む場合は、整数部分をまず読んで、その後に小数部分を読みます。小数点自身は読みません。例えば、**203・4561** は **qecilyos-bacjesetlamildafas** と読むことになります。

4 ▶ 動詞型不定辞と名詞型不定辞の数辞

シャレイア語で数を表す単語は「数辞」と呼ばれます。数辞には、動詞型不定辞のものと名詞型不定辞のものの2種類があります。上に述べた数の読み方は、動詞型不定辞の数辞の語幹の読み方です。

名詞型不定辞の数辞の読み方は、動詞型不定辞のものと少し異なるものの、基本的な構成方法は共通しています。違うのは、各位の数字の読みが変わる点だけです。名詞型不定辞を読むときは、各位の数字の読みとして、母音を *a→e→i→a*

および $o \rightarrow u \rightarrow o$ という規則で変化させたものを使います。

例えば、16 の名詞型不定辞としての読みは、1 と 6 を表す読みとして母音を変化させた *tas* と *rac* を使うことになるので、*tasetrac* となります。

5 ▶ 数辞の表記

数辞は、読みを綴っても数字を用いても表記することができます。比較的小さい数を表記する際には読みを綴ることが多く、大きい数には数字を用いることが多いです。

動詞型不定辞の数辞は、常に形容詞として用いられます。そのため、文中では形容詞を表す接頭辞の *a* をさらに付け加えて読むことになります。したがって、その読みを文中で綴る際も、語幹の前に *a* を付ける必要があります。

名詞型不定辞の数辞は、名詞として語幹そのままの形が使われるので、文中で読みを綴るときは語幹の綴りをそのまま書きます。

一方、数辞を数字で表記する場合は、活用接頭辞は付けずに数字だけを書きます。例えば、動詞型不定辞の 3 の語幹の読みは *yos* なので、文中では *ayos* の形で用いられこの通りに読めますが、数字を用いるときは 3 とだけ書いて *ayos* と読みます。

数辞が数字で書かれている場合、それが動詞型不定辞なのか名詞型不定辞なのかに応じて読みが変わることに注意してください。例えば、単に 16 と書いてあった場合、動詞型不定辞であれば *atisetric* と読みますが、名詞型不定辞であれば *tasetrac* と読むことになります。どちらであるかは文脈から判断する必要があります。

新出単語

動 sez — 形 7

動 ziq — 形 0.7

動 tis — 形 1

動 daf — 形 0.1

動 kaq — 形 8

動 get — 形 0.8

動 fus — 形 0.9

動 von — 形 9

動 piv — 形 4

動 bac — 形 0.4

動 cid — 形 0.2

動 qec — 形 2

動 xal — 形 5

動 jes — 形 0.5

動 lam — 形 0.6

動 ric — 形 6

動 nof — 形 0

動 mul — 形 0.0

動 yos — 形 3

動 hut — 形 0.3

数辞の用法

rescales a tel e seklac iloke dales al'atisiltis.

▶ 私は 101 匹の犬に関する映画を鑑賞した。

vomes qidokos a tel e qixov afik la tal al'ayos.

▶ 私はこのパソコンを 3 回修理した。

salot a hidsol afik e alot ile lôt 4400.

▶ この橋は 4400 m の長さだ。

savat déxis a loc dite tat ile tef 23 meris 30.

▶ あなたは 23 時 30 分までには寝た方がよい。

salot a yus e atûl emic ini xel.

▶ 3 は 5 より小さい。

1 ▶ 基数と序数

動詞型不定辞の数辞の形容詞形の前に al' を付けると、全体で「～個の」や「～人の」のような基数を表す形容詞句ができます。例えば、al'aric で「6 個の」のような意味になります。なお、日本語では修飾する名詞によって「匹」や「冊」など数えるときに使う単語を変えますが、シャレイア語では常に al' を用います。

rescales a tel e seklac iloke dales al'atisiltis.

▶ 私は 101 匹の犬に関する映画を鑑賞した。

al' の代わりに ac' を付けると、「～個目の」や「～番目の」のような序数を表します。

salat a saq e taqxáf ac'45 ica tel.

▶ 今日は私の 45 回目の誕生日です。

al' や ac' は、それぞれ avôl ile lêk と acál ile cav の縮約形です。ただし、この縮約される前の形が用いられることは、第 29 課で学ぶ「以上」や「以下」の表現のときを除いて、非常に稀です。ここに出てくる le については後で扱います。

2 ▶ 回数表現

物事を行った回数を表現するには、「回」を意味する **tal** に基数を付け、全体を **la** 句にします。例えば、「3 回」は **la tal al'ayos** となります。

la は一般助接辞なので、回数を表す **la** 句は **a** 句などのようにそのまま動詞に係ります。また、回数の表現は必然的に反復を表すので、常に **vom** を用いた反復表現とともに用いられます。反復表現に関しては、第 16 課で学んだ通りです。

vomes qidokos a tel e qixov afik **la tal al'ayos**.

▶ 私はこのパソコンを 3 回 修理した。

tal に基数ではなく序数を付けると、その行為が何回目かを表現することができます。例えば、**la tal ac'ayos** で「3 回目に～する」もしくは「～するのは 3 回目だ」のような表現になります。この場合は反復を表しているわけではないので、反復表現にはしません。

lekutes a tel ca tècaq vo kolettèc afik **la tal ac'ayos**.

▶ この港で船に乗るのは 3 回目 だった。

序数の代わりに「最初の」を意味する **cates** の形容詞形を置くことで、「～するのは最初の回だ」すなわち「初めて～する」を表現できます。

lices a tel te tazît e rihic **la tal acates**.

▶ 私は昨日 初めて 虹を見た。

3 ▶ le

例外助接辞の **le** を用いることで、「長い」や「古い」などの形容詞の度合いを「4400 m」や「17 年」のような数値によって具体的に説明することができます。そのためには、単位を表す名詞の直後に動詞型不定辞の数辞の形容詞形を置き、その前に **le** の非動詞修飾形である **ile** を付け、できた **ile** 句全体を形容詞の後に置きます。すなわち、最終的に〈形容詞 + **ile** + 単位名詞 + 数辞〉という形になります。

salot a hidsol afik e **alot ile lôt 4400**.

▶ この橋は 4400 m の長さだ。

注意すべき点は、**ile** 句の中には単位名詞と数辞が置かれるわけですが、このときの数辞としては動詞型不定辞の形容詞形をそのまま用いるということです。

al' や ac' は必要ありません。これは数辞が単位名詞に係る場合のみで、その他の場合では、基数として用いているか序数として用いているかに応じて、必ず al' か ac' を付ける必要があります。

人の年齢や身長も le を用いて表すことができます。例えば、「17 歳」は「17 年分歳をとった」と考えて alosod ile latvác atisetsez とします。「身長が 153 cm」については「153 cm 分長い」と考えて alot ile mulôt 153 となります。英語の tall に相当する単語はシャレイア語にもありますが、人の身長に関しては「長い」の意味の lot を使うことに注意してください。

salot a ces e **alosod ile latvác atisetsez** olôx.

▶ 彼女は永遠に 17 歳だ。

salat a tel e **alot ile mulôt 153** te sot.

▶ 私の今の身長は 153 cm だ。

その他、le は倍数や順位も表すことができますが、それについては第 29 課で学びます。

基数を表す al' は avôl ile lêk の縮約形だと説明しましたが、ここに出てくる le も今説明した le です。lêk は日本語の「個」などに対応する単語で、個数や人数などを数えるときに用いる単位です。avôl は「多い」という意味の形容詞なので、avôl ile lêk は「～個分の多さの」という意味になり、これで基数を表すことができるわけです。また、序数を表す ac' は acál ile cav の縮約形ですが、こちらは直訳で「～番だけ(最初から数えて)次の」という意味になるので、序数を表すことができるわけです。

4 ▶ 日付と時刻の表現

日付の表現には、〈名詞＋名詞型不定辞の数辞〉の形を用います。例えば「7 月 15 日」を表すには、「7 という月の 15 という日」と考えて taq 15 i ben 7 とします。日本語と違い、日→月→年の順番になることに注意してください。日と月の間や月と年の間には i を入れるのが正式ですが、この i に限っては省略されることがしばしばあります。

pariqes a ces te **taq 15 ben 7 vac 2018**.

▶ 彼は 2018 年 7 月 15 日にいなくなった。

シャレイア語には、「日」や「年」を表す単語が 2 種類ずつあります。例えば、「年」に相当する単語には vac と latvac があります。日付を表現する際は vac を

用い、ile 句の中で単位として「1年」を表したい場合は *latvác* を用いるので、混同しないよう注意してください。

時刻を表現するには、*tat ile* の後に〈単位名詞＋動詞型不定辞の数辞の形容詞形〉の塊を続けます。例えば、「23時」は *tat ile tef 23* となります。「23時30分」のように分まで言いたい場合は、〈単位名詞＋数辞〉の形を2つ繋げて *tat ile tef 23 meris 30* とします。このとき、時→分→秒の順で並べます。

savat déxis a loc dite **tat ile tef 23 meris 30**.

▶ あなたは 23時30分 までには寝た方が良い。

日付には名詞型不定辞の数辞を使い、時刻には動詞型不定辞の数辞を使う点に注意してください。数字で表記すると見た目は同じになりますが、読みは異なります。

5 ▶ 名詞型不定辞の数辞の用法

名詞型不定辞の数辞は常に名詞として用いられます。これは、日付の表現で使われる以外に、その数そのものを表したいときにも使われます。

salot a **yus** *e atûl emic ini* **xel**.

▶ 3は5より小さい。

新出単語

動 *sav* — 動 する方が良くなる
 名 *tat* — 名 (時刻表現を作る)
 名 *taqxáf* — 名 誕生日
 名 *tal* — 名 回
 名 *tef* — 名 時
 名 *tècaq* — 名 船
 動 *tûl* — 形 小さい
 助 *dite* — 助 ～までに 接 ～するまでに
 名 *kolettèc* — 名 港
 動 *pariq* — 動 消える, いなくなる
 動 *cates* — 形 最初の
 名 *cav* — 名 番目
 名 *latvác* — 名 年

助 *le* — 助 ～の (数量)
 名 *lèk* — 名 個
 動 *losod* — 形 年をとった
 名 *lôt* — 名 m
 助 *loke* — 助 ～に関して
 動 *lôx* — 副 永遠に 形 永遠の
 動 *rescal* — 動 鑑賞する
 名 *rihic* — 名 虹
 名 *meris* — 名 分
 名 *mulôt* — 名 cm
 名 *hidsol* — 名 橋
 縮 *ac'* — 縮 *acál ile cav*
 縮 *al'* — 縮 *avôi ile lèk*

演習問題 6

1. 次の文の空欄に否定表現を入れて、部分否定の意味をもつ指定された文を作りなさい。

(1) kômot a ces e levlis .

▶ 彼女はいつも眼鏡をかけているわけではない。

(2) lîcis a tel e seklac afik .

▶ 私は二度とこの映画を見ない。

(3) sâfat a zis e sakil.

▶ 全ての人がリンゴを好きなわけではない。

2. 次の文全体を否定する部分否定文を **dil** を用いて作りなさい。

(1) kûtat a tel e kisol avosfom.

(2) kesêtis a ris e zecel afik.

3. 次の文の空欄に **ve** を用いた表現を入れ、指定された意味の選択疑問文を作りなさい。

(1) pa cakis a ca fêd?

▶ 弟と妹のどちらがここに来るのですか?

(2) pa liqetes a loc ca tel te .

▶ あなたは昨日と一昨日のどちらに私に電話しましたか?

4. 1つ目の文を間接疑問節にして下線部と置き換えることで、指定された意味の文を作りなさい。

(1) pa bâgat a ces vade pil? dusokat a tel e ca.

▶ 私はなぜ彼が怒っているのか知らない。

(2) pa lanis a ces ca hinad te tacâl? decatak a ces e ca.

▶ 彼は明日山に行くかどうか決断した。

5. 次の数で表記される動詞型不定辞の数辞の語幹の読みを答えなさい。

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 57 | (4) ·142857 |
| (2) 1080209 | (5) ·006007008 |
| (3) 3000000300 | (6) 3814279·1047602 |

6. 次の文の空欄に基数や序数の表現を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

- (1) milcitac a tel e monaf .
- ▶ 私は2匹の猫を飼っている。
- (2) vomes licos a ces e xiflohis la tal .
- ▶ 彼は5回流れ星を見た。
- (3) lekutes a tel e hilvit la tal .
- ▶ 私は40回目に飛行機に乗った。

7. 次の文の空欄に **le** を用いた表現を入れて、指定された意味の文に作りなさい。形容詞の選択に注意すること。

- (1) salat a loces afik e .
- ▶ この棒は120 cmだ。
- (2) hitazes a ces e gildat .
- ▶ 彼は80 kgの岩を持ち上げた。
- (3) keqilac a ces e sodcav .
- ▶ 彼は築24年のアパートに住んでいる。

8. 次の文の空欄に日時の表現を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

- (1) fodakis a zál e felâl te .
- ▶ 私たちは4月11日にパーティーを開催する。
- (2) ditat fetiqis a'c ca fêd te .
- ▶ 11時にここに集まってください。

9. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) kocaqat vo teqiv afik a dus adusafey.
- (2) sácalis a zis aduves e cakís acik.
- (3) dilat kosatas a tel e vis i kíc i ces.
- (4) pa feglices a loc fe pas ive 'xastil o 'méfis?
- (5) cazes a tel ca ces e'n debat vade pil a tel.
- (6) salat e adudasos a kin dôkes e tédsér a loc á duloc.
- (7) fiqac a ces e loc vo sokul ivo letad ac'atiset.
- (8) zèvofec olov a ces vo sokul afik e líker te lôk avôl ile tef axaf.
- (9) salat a fêd e hilít izi kedsig ahiq ile lôt 634.
- (10) fôcis e sávak acál te tat ile tef 15 meris 10.

10. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 彼は安くない腕時計を持っていない。
- (2) あなたがこの方法で必ず成功できるとは限らない。
- (3) あなたはギターとバイオリンのうちどちらを演奏できますか?
- (4) 私は彼がどうやってこの建物に入ったのか気になっている。
- (5) 私は娘が今学校にいるかどうか知りたい。
- (6) あなたは私に自転車を明日返してくれるのですよね?
- (7) 私の父はスーパーで4つのミカンを買った。
- (8) あなたは初めて日本で電車に乗りましたか?
- (9) 18時までには必ずあの書類を持ってきてください。
- (10) 私には2月29日生まれの友達が2人いる。

新出単語

名 sávak — 名 授業
 動 sácal — 動 賛成する
 名 sodcav — 名 アパート
 名 sòdeq — 名 書類
 動 zèvof — 動 練習する
 名 tédsér — 名 窓
 動 dasos — 形 重要な
 動 decat — 動 決断する
 動 dôz — 形 重い
 名 dok — 名 kg
 動 dôk — 動 壊す, 割る
 動 kesèt — 動 解決する
 名 kedsig — 名 塔
 動 kosat — 動 信じる
 名 gildat — 名 岩
 動 fetiq — 動 集まる
 動 feglic — 動 買い物する

動 fiq — 動 待つ
 動 fodak — 動 開催する
 動 fôc — 動 始める
 名 váolin — 名 バイオリン
 名 vis — 名 全て
 名 vossok — 名 スーパー
 名 cakís — 名 提案
 名 qík — 名 方法
 名 japan — 名 日本
 名 letad — 名 階
 名 loces — 名 棒
 名 loqsif — 名 自転車
 動 retes — 動 気になる
 動 hap — 形 安い
 動 hitaz — 動 持ち上げる
 名 hiift — 名 頂上

比較表現発展

salat a desek afik e ahap emic ile yen 180 ini met aquk.

- ▶ この靴はあの靴より 180 円安い。

salat a ces e adôz evêl ile vâl 1-4 ini tel.

- ▶ 彼の体重は私の 1.4 倍だ。

kilat vilisos a ces ovit ehiv ile cav ayos ive zál.

- ▶彼は私たちの中で3番目に速く走ることができる。

kegilac a zál e sod aqôl ilevo latvác 150.

- ▶ 私たちは築150年以上の家に住んでいる。

1▶ 差異の数値による明示

第 23 課では優劣表現の作り方を学びました。しかし、2 つのものを比較してどちらがより甚だしいかを単に述べるだけではなく、その差が具体的にどのくらいなのかを述べたい場合もあるでしょう。そのような場合は、第 28 課でも出てきた **le** を用います。

le の使い方は第 28 課で説明した通りで、〈ile+単位名詞+数辞〉という形をとります。例として、以下の優劣表現を考えてみましょう。

salat a desek afik e ahap emic ini met aquk.

- ▶ この靴はあの靴より安い。

ile 句を emic に修飾させることで差異を数値で表現することができます。多くの場合で emic にはすでに比較対象を表す ini 句が修飾していますが、この場合は ile 句は emic の直後で ini 句の直前に入れるのが普通です。

salat a desek afik e ahap emic ile yen 180 ini met aquk.

- ▶ この靴はあの靴より 180 円安い。

2 ▶ 倍数

第 24 課で学んだ同等表現において、〈ile vâl + 数辞〉の形を evêl に修飾させると、両者の差異を倍数で表すことができます。vâl は「倍」を表す単位名詞です。

salat a ces e adôz evêl **ile vâl 1·4** ini tel.

▶ 彼の体重は私の 1.4 倍だ。

倍数は1未満になることもあります。

salot a japan e avâc evêl **ile vâl ·04** ini xânas.

▶ 日本は中国の 0.04 倍の広さだ。

3 ▶ 順位

第24課で学んだ最上表現では、何かが特定の範囲の中で最も優れていることしか表せませんでした。しかし、**le** を用いることで2番目や3番目なども表現することができます。具体的には、「番目」などを意味する **cav** を用いて〈**ile cav** + 数辞〉という形を作り、これを **ehiv** に修飾させます。

以下の文を考えてみましょう。

kilat vilisos a ces ovit **ehiv ile cav ayos** ive zâl.

▶ 彼は私たちの中で最も速く走ることができる。

例えば、最も速いのではなく3番目に速いことを表したいとすれば、**ile cav ayos** を **ehiv** に修飾させます。なお、**ehiv** には比較範囲を表す **ive** 句が修飾していることが多いですが、その場合は **ile** 句は **ive** 句の直前に入れるのが普通です。

kilat vilisos a ces ovit **ehiv ile cav ayos** ive zâl.

▶ 彼は私たちの中で 3番目に速く 走ることができる。

hiv ではなく **doqhiv** が用いられている場合に **ile** 句で順位を明示すると、「最も優れていない順に～番目」すなわち「下から～番目」を表すことができます。

citkulat a ces ca takâd avalât **edoqhiv ile cav aqec**.

▶ 彼は下から 2番目に有名なチーム に所属している。

4 ▶ 「以上」と「以下」

第28課において、**le** を用いて形容詞の程度を数値で説明する構文について学びました。例として、以下の文を考えてみましょう。

keqilac a zál e sod aqôl ile latvác 150.

▶ 私たちは築150年の家に住んでいる。

ここでは、家の古さが150年であることを述べていますが、文中で用いられている **le** の代わりに以下の表に示す助接辞を使うことで、「150年ちょうど」ではなく「150年以上」などを表現することができます。

単語	意味
levo	～以上
lehi	～超過
lede	～以下
letu	～未滿

例えば、**levo** を用いると以下ようになります。

keqilac a zál e sod aqôl **ilevo** latvác 150.

▶ 私たちは築150年以上の家に住んでいる。

次に、「3人以上」や「3人未滿」のように、基数について「以上」や「未滿」などを表現したい場合を考えてみましょう。第28課で説明したように、基数を表現するには数辞の前に **al'** を付け、名詞に修飾させます。ここに **le** は出てこないのので、そのままでは上の表に挙げた助接辞を使うことはできません。しかし、**al'** の縮約前の形である **avôl ile lêk** には **le** が使われています。そこで、この縮約前の形における **le** を上の表の助接辞に変えます。

dítat cákis a'c fe refet avôl **iletu** lêk ayos.

▶ 3人未滿の友達と一緒に来てください。

序数の場合も同様に、**ac'** の縮約前の形 **acál ile cav** を用いて、ここに含まれている **le** を上の表の助接辞に変えます。

ilevo lêk ayos は「3個以上の」の意味なので3個を含みますが、**ilehi lêk ayos** は「3個超の」となり3個は含みません。このように、**levo** と **lehi** にはその数を含むか含まないかの違いがあります。しかし、数が大きくなると、その数を含むか含まないかがあまり重要ではなくなる場合があります。例えば、「5000人以上が来た」と言いたい場合、正確な人数を伝えたいという意図がなければ、5000人ぴったりを含むかどうかはあまり重要ではありません。このような場合、**levo** を用いても **lehi** を用いても良いわけですが、**levo** の方を用いることが多いです。

cákes te saq ca kosrahit afik a zis avôl ilevo lêk 5000.

▶ 今日は 5000 人以上の人がこの遊園地に来た。

lede と letu の場合も同様に、どちらを用いても意味がほとんど変わらないなら lede の方を使います。

新出単語

名 takâd — 名 チーム, 団体
 名 desek — 名 靴
 動 vâc — 形 広い
 名 vâl — 名 倍
 動 citkul — 動 所属する
 名 xânas — 名 中国

助 letu — 助 ~未満の
 助 lede — 助 ~以下の
 助 levo — 助 ~以上の
 助 lehi — 助 ~超過の
 名 yen — 名 円

間投詞

sê, pa lesac a loc e pil?

▶ ねえ、何してるの？

hafe e kin yeleses a loc e sotishil.

▶ 孫の世話をしてくれてありがとう。

di'kozesis a'c, yo 'xastil, e'n dukécis okôk a'c e nodom.

▶ 絶対に嘘をつかないと、シャスティル、約束して。

1 ▶ 間投詞

シャレイア語では、「こんにちは」や「さようなら」などの挨拶や「うわっ」などの掛け声のようなものは、全て間投辞に分類されます。間投辞は文中では間投詞としてのみ用いられます。

間投詞は、文中のあらゆる場所に置くことができます。この際、間投詞の前後に必ずタデックを置きます。ただし、間投詞が文頭にある場合はタデックはその直後のみに置き、間投詞が文末にある場合はタデックはその直前のみに置きます。

以下は、呼びかけを意味する sê を用いた例です。日本語では「ねえ」などに相当します。

sê, pa lesac a loc e pil?

▶ ねえ、何してるの？

pa pâmat a loc, sê, e kin bozetes a'c te tazît e tel?

▶ あなたが昨日私を殴ったのを、ねえ、忘れているのですか？

間投詞は、それ単独で文を成すことができます。挨拶がこのような文の良い例です。

sîya.

▶ こんにちは。

kôde!

▶ なるほど!

2 ▶ 主な間投詞

以下に、主な間投詞の一覧を示します。

間投詞	意味	間投詞	意味
sîya	こんにちは	hafe	ありがとう
pésa	おやすみなさい	kôde	なるほど
câvo	さようなら	sê	ねえ
dibe	ごめんなさい	tê	えっと

各間投詞を用いる場面は、横に付記した日本語を用いる場面とほぼ同じです。ただし、少し日本語の用法と異なるものがあるので、それについて補足しておきます。

sîya は人に挨拶するときに用いる間投詞で、時刻を問わず使うことができます。したがって、日本語の「おはようございます」と「こんにちは」と「こんばんは」のどれとしても使うことができます。相手が仲の良い人ならば、短く *yâ* と言うこともあります。

pésa は日本語の「おやすみなさい」に相当する単語ですが、これはまだ起きていようとしている人がこれから寝る人に向かって言う言葉です。これから寝る人は、代わりに「さようなら」に当たる *câvo* と言います。

tê は言い淀んだときに間を繋ぐために発する言葉です。日本語の「えー」や「えっと」や「あのー」などに相当します。繋ぐべき間が長いときは *telê* とも言います。

なお、上の表には載せませんでした。諾否疑問文に答えるときに使う *ya* と *du* も間投詞です。

3 ▶ 助詞句をとる間投詞

一部の間投詞は、特定の助詞句をその直後に続けることで意味の補足を行うことができます。この場合、間投詞と助詞句の全体で1つの間投詞のように扱うことになります。

例えば、「ありがとう」を意味する *hafe* については、感謝している内容を *kin* 節にして *e* 句として *hafe* の直後に置くことができます。

hafe e kin yeleses a loc e sotishil.

▶ 孫の世話をしてくれてありがとう。

4 ▶ yo

日本語では、誰か人を呼びたいときに、その人の名前だけを述べれば呼びかけたことになります。しかしシャレイア語では、名前の前に助詞の **yo** を付ける必要があります。例えば、「シャスティル」という名前の人を呼びたければ、**yo 'xastil** と言います。

yo 句は助詞句ですが、助詞句というよりは1つの間投詞のように用いられます。そのため、間投詞と同じく前後にタデックを置くのが普通です。

di'kozesis a'c, yo 'xastil, e'n dukécis okôk a'c e nodom.

▶ 絶対に嘘をつかないと、シャスティル、約束して。

yo 句の中身は、人名だけでなく「先生」や「兄」などの人を指す一般名詞でも構いません。

yo nîl, pa dufeketat a loc omez?

▶ お兄ちゃん、まだ起きてないの？

5 ▶ 間投詞として用いられる助詞句

yo 句以外の助詞句でも、定型表現としてそれ単体で間投詞のように用いられるものがあります。そのような助詞句の例を以下にいくつか挙げておきます。

表現	意味
te lôk acál	またね
e pér asas	良い夢を
e taqxáf axaslef	誕生日おめでとう
yo loc	すみません

te lôk acál は、直訳とすると「次の時間に」のようになり、また今度会うことを期待しつつ誰かと別れるときに使います。次に会う約束や機会がある場合は、**câvo** より **te lôk acál** の方が好まれます。

e pér asas は、これから寝ようとしている相手に言う言葉です。上で紹介した **pésa** は、実はこの表現を短くして1単語としたものです。

e taqxáf axaslef は、直訳では「素晴らしい誕生日を」となる表現で、相手の誕生日を祝う言葉です。**taqxáf** を別の記念日を表す単語に変えることで、その日を祝う表現にすることができます。例えば、「クリスマス」を意味する **taqsiq** を用いて **e taqsiq axaslef** と言えば、「メリークリスマス」のような意味になります。

yo loc は、道端などで通りがかりの人に声をかけるときに用いる表現です。見知らぬ土地で人に道を聞きたいときや、インタビューで町の人に声をかけるときなどに使います。

ちなみに、第 26 課で出てきた相手への確認を表す **pa e ayát** という表現も、ここに挙げたような間投詞として用いられる助詞句だと考えられます。

新出単語

動 sas — 形 良い
 間 sê — 間 ねえ
 間 siya — 間 こんにちは
 名 sotishil — 名 孫
 名 taqsiq — 名 クリスマス
 間 têt — 間 えっと
 間 telê — 間 えっと
 間 dibe — 間 ごめんなさい

間 kôde — 間 なるほど
 間 pésa — 間 おやすみなさい
 名 pér — 名 夢
 間 câvo — 間 さようなら
 動 xaslef — 形 素晴らしい
 間 yâ — 間 やあ
 助 yo — 助 〜よ (呼びかけ)
 間 hafe — 間 ありがとう

直接話法と間接話法

kéces a ces e «nalsoles e nâd afik a tel.».

▶ 彼は「この木を植えたのは私だ。」と言った。

zavages a tel. «di'dufêcis a'c ca tel!»

▶ 私は叫んだ。「私に近づくな!」

zesqikas a ces la tal al'atis é al'aqec e xoq lîdac e a hinof.

▶ 彼女は1度か2度、お姉さんが読んでいる本を覗き込んだ。

1 ▶ 直接話法と間接話法

kéc のように発言内容を kin 節句としてとる動詞は、kin 節の代わりに発された言葉をそのまま置くこともできます。このような場合、発言された文はラクトットで囲みます。ラクトットの中身は2文以上でも構いません。

kéces a ces e «nalsoles e nâd afik a tel.».

▶ 彼は「この木を植えたのは私だ。」と言った。

この文は、kin 節を用いた以下の文と同じ意味になります。

kéces a ces e kin nalsoles e nâd afik a ces.

▶ 彼はこの木を植えたのが彼だと言った。

最初の例のような発言内容をそのまま述べる方式を「直接話法」と呼び、次の例のような kin 節を用いる方式を「間接話法」と呼びます。

直接話法は、発言の内容だけでなく思考の内容も表すことができます。

reves a ces e «pa delivos vade pil a sakil?».

▶ 彼は「なぜリングは落ちるのだろう?」と思った。

直接話法ではそのときに発言された内容がそのまま使われるので、直接話法における tel は発言の発話者を表します。一方で、間接話法における tel はその文を述べた人を表します。したがって、直接話法からラクトットを取り去って kin を前に付けば間接話法になるわけではありません。実際、最初の例では、直接話法におけるラクトット内の tel が、間接話法では ces に置き換わっています。

2 ▶ 時制と時間表現に関する注意点

直接話法と間接話法で *tel* の意味が変わることを述べましたが、同じような理由で、直接話法における時制や時間表現は発言した時間基準になります。しかし、第14課で学んだ通り、*kin* 節内の時制や時間表現も主節の動詞の時間基準になるので、多くの場合で言い換えは必要ありません。

例を1つ挙げておきましょう。

kéces a tel e «*câses a tel e yetih avalát te tazît.*».

▶ 「有名なアイドルに昨日会った。」と私は言った。

kéces a tel e kin *câses a tel e yetih avalát te tazît.*

▶ 有名なアイドルに昨日会ったと私は言った。

1つ目の文では直接話法が使われているので、ラクトットの中身は発言そのものです。したがって、*câses* の過去時制は発言時点より過去であることを意味し、*tazît* は発言日の前日を指します。一方、2つ目の文では間接話法が使われています。*kin* 節の中の時制や時間表現は、主節である *kéces* が成立した時間を基準とした意味になるわけですが、この時間とはまさに発言した時間のことなので、*kin* 節の中での時間の基準は直接話法のときと変わりません。そのため、*câses* は過去時制のままで良く、*tazît* もそのまま用いることができます。英語では *the day before* などと言い換える必要がありますが、シャレイア語ではその必要はありません。

3 ▶ 句読点の使い方

直接話法においてラクトットで囲まれる内容は文なので、ラクトット内でない場合と同様に、最後にデックなどが必要です。したがって、ラクトットで囲まれた部分が文末に置かれた場合、ラクトット内の文の終わりを示すデックと全体の文の終わりを示すデックが連続する形になります。

ただし、ラクトット内が数単語だけの1文の場合は、ラクトット内のデックを省略することがあります。

sitifes a ces e «*te lôk acál*».

▶ 彼は「またね」と囁いた。

kéces a tel e «*sîya*», *dà semiset a ces.*

▶ 私は「こんにちは」と言ったが、彼は黙っていた。

ラクトの内部が疑問文になっている場合、最後にはパデックが置かれますが、パデックが省略されることはありません。同様に、ラクトの内部が感嘆文になっていて、最後にヴァデックで置かれる場合も、ヴァデックは省略しません。

4 ▶ 文から独立した発話部

直接話法を含む文において、ラクトで囲まれた部分を助詞ごとその文から取り除き、ラクトで囲まれた部分だけをその文の直後に独立して置くことができます。

例えば、以下の文を考えてみましょう。

zavages a tel e «di'dufêcis a'c ca tel!».

▶ 私は「私に近づくな!」と叫んだ。

発話部を含む e 句を文から取り除き、文の後に改めて発話部を置くと、以下のようになります。

zavages a tel. «di'dufêcis a'c ca tel!»

▶ 私は叫んだ。「私に近づくな!」

なお、この例のようにラクトで囲まれた部分が文から独立して置かれている場合、ラクトの中身が短くても文末のデックを省略することはしません。

5 ▶ 叙述の現在時制

直接話法や間接話法は物語の記述でよく出てくるものですが、シャレイア語での物語の書き方には1つ特有な慣習があるので、それについてここで触れておきます。

日本語では、「おばあさんは川へ洗濯に行きました」のように、物語の記述には過去時制を用いるのが一般的です。しかしシャレイア語では、物語では過去時制ではなく現在時制を用います。物語を過去に起こった事実として述べるのではなく、その場でまさに物語の内容が起こっているかのように話すのだと考えてください。このように使われる現在時制は、特別に「叙述の現在時制」と呼ばれます。

zesqikas a ces la tal al'atis é al'aqec e xoq lîdac e a hinof.

▶ 彼女は1度か2度、お姉さんが読んでいる本を覗き込んだ。

この文は、『不思議の国のアリス』の一節をシャレイア語に訳したものです。主

節の動詞である **zesqikas** は現在時制で用いられていますが、これが叙述の現在時制です。

叙述の現在時制が使われているとき、過去時制は物語が進行している時間よりさらに前の時間を表すことになります。例えば、回想などがこれに当たります。日本語ではどちらも過去時制を用いることが多いので、物語の途中なのか回想なのかが分かりづらくなる場合がありますが、シャレイア語なら時制を見るだけで一目瞭然です。

第5課で現在時制と無相は同時に用いられないことを学びましたが、叙述の現在時制が用いられている場合は、主節でも現在時制無相が用いられることがあります。これは、現在時制が表す時間が物語の進行に伴って動くため、時間軸上の幅のある時間を表すようになるためだと考えてください。

新出単語

動 sitif — 動 囁く
動 zesqik — 動 覗き込む
動 deliv — 動 落ちる

名 nâd — 名 木
動 nalsol — 動 植える

修辞的な表現

ca yéf i tel, nicasas a tel e fokeq.

▶ 私の妻だ、私が鍵を渡したのは。

qolvabes a ces e yelichelas, axodol, zi sod i tel.

▶ 彼は私の家からネックレスを持ち去ったが、それは高価なものだ。

pa qetat a zel dusokat e a ces.

▶ 彼が知らないことなどあろうか。

a hitál!

▶ 鳥だ!

1 ▶ 強調

助詞句は基本的に動詞の後に並べられますが、助詞句を文頭に移動させ、直後にタデックを置くことで、その助詞句を強調させることができます。第10課で、文末に置いた助詞句はその文の言いたいことを表しており強調されることを学びましたが、この構文を用いることで、それよりもさらに強く強調することができます。

ca yéf i tel, nicasas a tel e fokeq.

▶ 私の妻だ、私が鍵を渡したのは。

この例文では、ca 句を文頭に移動させることで、鍵を渡した相手が妻であることを特別強調しています。

副詞も同様に文頭に移動させることで強調することができます。また、文頭で強調される助詞句は2個以上でも構いませんし、助詞句と副詞を同時に強調することもできます。ただし、特に強調したいもの1つだけを文頭に移動させることが多いです。

ofev, ditat qikis a'c e fecaq ica qâz.

▶ 早く、父親への手紙を書いてください。

te sot a zissohiz, dôkak e dezet ivo sokulsác.

▶ 今学生が、教室の椅子を壊した。

2 ▶ 挿入

別の語句を修飾する語句は、その前後にタデックを置くことで、被修飾語句の補足説明をしているというニュアンスに変わります。この構文を「挿入構文」と呼びます。ここで、別の修飾する語句とは、例えば、動詞に係る助詞句や副詞、および名詞に係る形容詞や限定節などです。なお、挿入する語句が文末にある場合は、タデックは前だけに置きます。

具体例を挙げて説明します。

qolvabes a ces e yelicnelas, **axodol**, zi sod i tel.

▶ 彼は私の家からネックレスを持ち去ったが、それは高価なものだ。

この例文では、yelicnelas を修飾する axodol の前後にタデックを打つことで、axodol の部分が挿入構文になっています。したがって、この文で表現したい内容は axodol を除いた「彼が私の家からネックレスを持ち去った」という部分であり、「ネックレスが高価である」という情報はあくまで補足であるというニュアンスになります。

挿入構文の場合に限り、副詞を助詞句と助詞句の間に置くことができます。ただし、1つの助詞句の中に割り込んで置くことはできません。

vomac catsatoz li tel, **olof**, a dales vo naflat afik.

▶ 私は、ときどきなのだが、犬をこの公園で散歩させる。

形容詞が挿入される場合は、挿入構文でない場合とで意味が大きく変わることがあるので注意してください。

qetat ca hif izi dèt a malek **amay** al'aqec.

▶ 机の上に2個の甘い飴がある。

qetat ca hif izi dèt a malek, **amay**, al'aqec.

▶ 机の上に2個の飴があるが、それらは甘い。

最初の文は挿入構文を用いていないものです。この場合、malek amay al'aqec で「2個の甘い飴」という意味の名詞の塊になっており、文全体はそれが机の上にあることを述べています。したがって、甘いもの以外の飴が机の上にあるかもしれません。一方、2つ目の文では挿入構文を用いているので、「甘い」を意味する amay は「2個の飴」を補足説明しているにすぎません。すなわち、この文が主に意味する内容は机の上に2個の飴があることなので、それらの飴以外に飴

はないことになります。

固有名詞および *fit* や *ces* などの指示語のように、その語句だけで何を指しているかが1つに定まるものに対して、さらに何らかの修飾語句で説明を加えたいときは、常に挿入構文を用います。すでに1つに決まるものに対して、さらに修飾語句で意味を限定する必要はないので、必然的にその修飾語句は補足説明になるためだと考えてください。

xolacac a ces vo raxas, salot a e solkut avâc ehiv.

▶ 彼は最も広い国であるロシアで暮らしている。

この例にある *raxas* は「ロシア」という意味の単語ですが、ロシアは世界に1つしかありません。したがって、それを何らかの語句で修飾したい場合は、その語句は挿入構文になります。実際、上の例では *salot* 以下が挿入構文になっています。

3 ▶ 反語

第9課では、通常の文の前に *pa* を置くことで諸否疑問文を作ることができると学びました。このとき、諸否疑問文であれば文末の記号をバデックに変えますが、デックのままにすると反語のニュアンスを出すことができます。

pa kocaqat a zel dusokat e a ces.

▶ 彼が知らないことなどあろうか。

この文の文末がバデックであれば、「彼が知らないことはありますか」という疑問文になります。文末をデックで終わらせることで、反語的にその疑問文の答えは「いいえ」であること、すなわち「彼が知らないことはない」ということを意味するようになります。

疑問詞を含む疑問文も反語にすることができます。

pa kilat lesos a pas e cal.

▶ 誰がそんなことをすることができますか。

この文は、「誰がそれを行うことができますか」という疑問文が反語表現になっており、「誰もそれを行うことはできない」という意味になっています。

4 ▶ 遊離助詞句

外で鳥を見つけて「鳥だ」と言う場合など、口語では名詞だけを単独で述べた

いときがあるでしょう。シャレイア語では、名詞は必ず助詞を伴う必要がある
ので、このような場合でも助詞が必要になります。この場合では **a** を用いるのが
普通です。

a hitál!

▶ 鳥だ!

このような動詞を伴わない単独の助詞句は「遊離助詞句」と呼ばれます。第 9 課
では疑問詞疑問文には助詞句単独で答えると学びましたが、これも遊離助詞句
の一種です。さらに、第 30 課で出てきた間投詞のように用いられる助詞句も、
動詞を伴わずに単独で用いられるので、遊離助詞句の一種になります。

綺麗な花を見かけて「綺麗だなあ」という場合など、形容詞を単独で述べたい
場合も遊離助詞句を使います。このような場合に用いる助詞句は、**a** ではなく **e**
になります。

e ayerif.

▶ 綺麗だなあ。

新出単語

名 sokulsác — 名 教室

名 zel — 名 こと

名 zissohiz — 名 生徒, 学生

名 dèt — 名 机

名 fecaq — 名 メール, 手紙

動 catsat — 動 散歩する

動 qolvab — 動 持ち去る

名 raxas — 名 ロシア

動 nicas — 動 渡す

名 malek — 名 館

名 yelicnelas — 名 ネックレス

名 hif — 名 上

演習問題 7

1. 次の文の空欄に適切な表現を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) salat a soxsot aquk e adâd emic ini met i tel.

▶ あの辞書は私のより 2.5 cm 厚い。

(2) sôdes a ces e tomek avôl evêl ini tel.

▶ 彼は私の 3 倍の肉を食べた。

(3) hisezes a zâl e hinad ahiq ehiv ive met ivo japan.

▶ 私たちは日本で 14 番目に高い山に登った。

2. 次の文の空欄に **levo**, **lehi**, **lede**, **letu** を用いた表現を入れて、指定された意味の文を作りなさい。

(1) salat a levlis afik e .

▶ この眼鏡は 5000 円以下だ。

(2) ditat dunifetis a'c e zat .

▶ 23 kg を超えるものを持って来ないでください。

(3) kavat a ces e refet .

▶ 彼には 100 人以上の友達がいる。

3. 次の語句を並び替えて、指定された意味になるような文を作りなさい。タデックなどの約物は適宜補うこと。

(1) zissác | e | a | tê | tel | ces | i | salat

▶ 彼は、えっと、私の先生です。

(2) hafe | safazes | a | kin | loc | e | ca | tel

▶ 私に助言してくれてありがとう。

(3) qonoces | tel | e | motfel | a | dibe | e | kin

▶ めいぐるみを捨ててしまつてごめんなさい。

(4) fax | pâd | a | qetat | kilev | pa | ca | yo

▶ お母さん、鋏はどこにありますか？

4. 次の文中に直接話法が含まれていれば間接話法に書き換え、間接話法が含まれていれば直接話法に書き換えなさい。

- (1) tufoses a tel e «debat a tel.».
- (2) kéces a ces e «ricames a tel vo risis te tazîť.».
- (3) zavages a tel e kin hizelis okôk a ces.
- (4) cazes a ces ca tel e'n zedat câsis a's e'l te tacál.

5. 次の文中の下線部を文頭に移動させ、それを強調する文を作りなさい。

- (1) kûves otudcat a fax i tel ca sokul.
- (2) kéces e nodom a dutel.
- (3) pa kômat e sokul apéf a zis ivo fêd?
- (4) salat e anás a kin pariqes a dales i tel.

6. 次の下線部を挿入表現にする必要がある場合、挿入表現に直しなさい。語順を変えてはいけない。

- (1) rifevac a ces olîgîf zi váolin.
- (2) rifevac olîgîf a ces zi váolin.
- (3) rafleses a tel ca zis déqat a vo fêd.
- (4) rafleses a tel ca ces déqat a vo fêd.

7. 次の空欄に適切な遊離助詞句を入れて、指定された意味になるような文を作りなさい。

- (1) likxelac vo hîx a xîf avéf. .
▶ 空で星々が輝いている。綺麗ですね。
- (2) pí, . pa qetat vade pil a ces ca fêd?
▶ あれ、私の猫だ。どうしてここにいるんだろう？

8. 次の文を日本語に訳しなさい。

- (1) salat a deqtal afik e aháp emic ilevo dok ajes ini met aquk.
- (2) kéveles e fodek afik a zis avôl evêl ile vâl 3·7 ini les te vác azît.
- (3) xôyes a ces e sokul otîv iletu meris axaf.
- (4) dibe e kin tevodes a tel e nât ivo nasfek.
- (5) e taqletyem axaslef! séqis a tel ca loc e letyem afik.
- (6) yo loc, pa sokat a loc e'n qetat ca pâd a kolothil?
- (7) di'kécis a'c e «te lôk acál», lo di'dulis e «câvo».
- (8) li kin lizac a ces e rát aqonef olov, dîtikad ebam a tel.
- (9) pa bâgis a ces, asafey ô akebiq.
- (10) sê, yo zis atov, a xiflohis!

9. 次の文をシャレイア語に訳しなさい。

- (1) 彼女は私の父より4歳年上だ。
- (2) 彼は私たちの家の10倍大きい家に住んでいる。
- (3) これは、この店の商品の中で下から5番目に高価だ。
- (4) 私は毎日2.5Lより多くの水を飲む。
- (5) 昨日私に傘を貸してくれてありがとう。
- (6) ケルディス、あなたは本当に彼女にメールを送ったのですよね？
- (7) あなたはもう寝ようとしていますか？ 良い夢を。
- (8) 彼は私に「図書館で一緒に英語を勉強しましょう。」と言った。
- (9) あの女性だ、あなたから財布を盗んだのは。
- (10) 先月私が買ったあのコートを私はどこにしまったのだろうか？

新出単語

動 safaz — 助言する	名 cifèkkis — 名 財布
名 soxsot — 名 辞書	名 qolkiv — 名 商品
名 taqletyem — 名 バレンタイン	名 xif — 名 星
動 tevod — 動 折る	動 xôy — 動 片付ける 形 片付いた
動 tudcat — 副 予期せず 形 予期しない	動 liz — 動 語る
動 tufos — 動 呟く	名 lîtes — 名 L
動 dâd — 形 厚い	名 litéz — 名 傘
名 deqtal — 名 タブレット	動 likxel — 形 輝いた 動 輝く
動 dîtik — 動 イライラする	動 lîgif — 副 集中して 動 集中する
名 kilev — 名 鉄	動 lokud — 動 しまう
名 kolothil — 名 空港	動 lôl — 動 送る
名 fodek — 名 イベント, 催し	動 nás — 形 事実の
動 véf — 形 たち	名 motfel — 名 ぬいぐるみ
間 pî — 間 あれ	動 háp — 形 軽い

演習問題解答

演習問題 1

1.

- (1) licac
- (2) aqôl
- (3) obâl
- (4) terez
- (5) evoc

2.

- (1) 形容詞
- (2) 動詞, 過去時制継続相通常態
- (3) 特殊詞
- (4) 副詞
- (5) 動詞, 未来時制経過相補助態
- (6) 連述詞

3.

- (1) licac
- (2) sôdez
- (3) hitet
- (4) hizelis
- (5) déxat
- (6) lîdec

4.

- (1) sôdes a tel e sakil amay.
- (2) déqes okebiq a ces.
- (3) debat etim a tel.
- (4) lîdes a tel e xoq afik evoc.

5.

- (1) zédices odalaz a ces. または zédices a ces odalaz.
- (2) déxes a tel etut.
- (3) fegis a ces e zeqil.
- (4) séqes a tel e qixov axodol afik.
- (5) xolacac a qasot vo teqiv aqon ebam.
- (6) catac a hinof i tel.
- (7) kômet a yaf i ces e solak i tel.
- (8) terez li tel a fay e lefom.

6.

- (1) 私は運動している。
- (2) 彼は冷たい水を飲んだ。
- (3) 女性が公園で叫んでいる。
- (4) 彼はパソコンを昨日売った。

- (5) 彼は私の家に今来た。

- (6) 私は赤い腕時計をここに必ず持つてくるだろう。

- (7) 私は友達を椅子に座らせた。

- (8) 彼は私をととても驚かせた。

- (9) 私は息子に眠るよう真剣に頼んだ。

- (10) 私の妹は少し甘いリンゴをこの店で買った。

7.

- (1) kâkak a monaf. または kâkes a monaf.

- (2) sôdac a ces e lesit.

- (3) déqat a tel te sot.

- (4) palevac a ces e fokeq vo sod.

- (5) séqes a tel e letyem asaret ca ces.

- (6) lanis a qasot i tel ca naflat te tacál.

- (7) lices a tel e soki q aqôl i ces.

- (8) sâfat ebam a tel e loqis.

- (9) rezez li ces a tel.

- (10) kômeq li ces te sot a yaf e lâfas.

演習問題 2

1.

- (1) salat a cit e dev.

- (2) salit a ces e cosyepel.

- (3) salat a tirmal afik e asaret.

- (4) salet a yaf i tel e adalaz.

2.

- (1) qetet a qasot i tel ca sod.

- (2) kavat a ces e qaled.

- (3) dukavat a xoq afik e qinat.

- (4) duqetet a tel ca sokul i ces.

3.

- (1) edubam

- (2) dutolêcis

- (3) aduhafas

- (4) dulef

4.

- (1) yepelac a dus.

- (2) leses a tel e dol te saq.

- (3) qetat a dat vo sokul afik.

- (4) salat a refet adak i tel e axalket.

(5) nozejis a ces odûg.

5.

(1) ya, dudebat a tel.

(2) du, kûtat a tel e qixov.

(3) du, qetat a refet i tel ca cêd.

6.

(1) pa lanes a loc ca pâd?

(2) pa selbutac a ces ca pas te sot?

(3) pa fexases a qaled i tel te pet?

(4) pa salat a hinof i loc e apéf?

7.

(1) vo nafiat.

(2) te lon i saq.

(3) e sod avaf.

8.

(1) déqites e tel a qaled.

(2) yamefes e ces a zissác.

(3) kômaq a ces li solov e ledis.

9.

(1) 私はそのとき子供だった。

(2) 私には姉がいない。

(3) 彼女はボーイフレンドではない人に青い帽子をあげた。

(4) 私は去年誰からもお金を借りなかった。

(5) あなたはあの古い洋服を捨てましたか?

(6) 彼は明日オフィスにいますか?

(7) あなたはどんなスマートフォンを持っていますか?

(8) あなたは誰の腕時計を盗んだのですか?

(9) このパソコンはまだ修理されていない。

(10) なぜあなただけが彼に叱られているのですか?

10.

(1) salat a fit e dev i tel.

(2) salat a soqal afik e alevac.

(3) qetat a tel te tazît ca kosxoq.

(4) dupaqofat a tel e sokiç.

(5) pa qopates a loc e xoq i tel?

(6) pa cákes a loc zi pâd ca fêd?

(7) pa liteqac a pas ca sod i tel?

(8) pa sokes a ces e yêt acic qî pil?

(9) sôdes e sakil afik.

(10) medelat e sôlaç i tel.

演習問題 3

1.

(1) fesalat a tel e sakil é lesit.

(2) salat a xoq afik e aqôl à asokos.

(3) pa sâfat a loc e dales á monaf?

(4) kômat a ces e colis o hâl o fozâl.

(5) pa qetat a loc te sot ca sod á kosax?

2.

(1) vilisac a tel, lo catac a ces.

(2) so fegis a ces e sod, beqomes a ces zi tel e kisol.

(3) déxet a ces, te zêfes a tel ca kosben.

3.

(1) rezec a ces. dà, dodet a ces.

(2) sâfat a tel e dales. lo, sâfat a yaf i tel e monaf.

(3) dulanés a tel ca kosax. vade, benaget a tel.

4.

(1) sâfat a tel e kin ricamos a tel.

(2) sokat a ces e kin folanes ovip a tel.

(3) harez a tel li kin tòdes a tel e refet vo kûzteqiv.

5.

(1) fedakak a tel e kin déxet a ces.

(2) lices a tel e kin rahitac a tiqat vo fòn.

(3) bâgez a tel li kin pâmat a ces e kozis.

6.

(1) rafat yepelis a tel.

(2) dozat lakac a loc vo fêd qî qilxaléh.

(3) kilat qikos a ces e tolék asaret ebam.

(4) nibites lîdas a tel e xoq.

7.

(1) vomac teros otêl a tel e cêrzaf.

(2) vomac licos a tel e lasav otulit.

(3) vomac dufetekos a refet e tel zite tazîthil.

8.

(1) 私はサラダとハンバーグを食べた。

(2) あの人あなたの姉ですか、それとも妹ですか、それとも娘ですか?

(3) 音楽を聞くことで、私は落ち着いた。

(4) 彼は突然立ち上がった。そして、素早く部屋から出た。

- (5) 母は私に卵を買ってくるよう頼んだ。
 (6) 長い間本を読んでいたことが私を疲れさせた。
 (7) 私はあの男を必ず見つけようと思って
いる。
 (8) 彼の話は本当ではないようだ。
 (9) 私はよく私の祖父の家に行っていた。
 (10) 私は彼に最近会っていない。

9.

- (1) salat a lâfas acik e ahafas ô afehal.
 (2) pa feges a loc e tosol afik te saq á tazî?
 (3) pa lices a loc e nât azaf é abik é anav?
 (4) te telefes a fax e téd, déxet a tel.
 (5) cife lices a ces e sôlaq, sôdes a ces e
tonasxav.
 (6) kéces a ces e kin qetat a faxhil i ces ca
kosben.
 (7) zitiles a ces e kin sitayis a ces ca tel.
 (8) zazez a ces li kin edif liqetas a tel ca
ces.
 (9) rafat lanis a tel ca riy fe refet.
 (10) vomac rifevos a ces vo sokul afik zi
gitâs.

演習問題 4

1.

- (1) ditat sohizis a'c.
 (2) ditat dufovalis a'c zi sokul afik.
 (3) ditat teris a zâl te tacâl e celvir.

2.

- (1) te fetekes a ces e tel, qetet a'l vo kolot.
 (2) buqotet a ces e dales, dà mafetes a's e
cit.
 (3) dibulat a tel e'n medeles a'l e qiliv.
 (4) nibites a zâl ca ces e'n feracis a's ca'l.
 (5) di'yeleis a'c e sotis.

3.

- (1) sokesat a tel e dev, dà ducikekat a'l e
met.
 (2) kûtat a tel e loqis azaf, lo zedat fegis a
ces e met abik.
 (3) pa sâfat a loc e monaf? / ya, milcitac a
tel e met avôl.

4.

- (1) lanes a tel ca kosdes, lo les a ces ca
sod.
 (2) keqilec a tel vo fosnal, dà lac te sot vo
sodaq.
 (3) vade qorases a ces ca amerikas, rafat lis
a tel evoc.
 (4) sohizes a tel e qilferânes, dà dules e
qilangel.

5.

- (1) paveqat a tel e qiqcop. palevac a tel e
met.
 (2) pâziqat a tel e qiqcop. pa cikekat a loc e
cit?
 (3) sâfat a tel e lacat afik. rafat lîdis a tel e
met akâf evoc.
 (4) sâfat a tel e lacat afik. rafat lîdis a tel e
cit ovop.

6.

- (1) salat e refet i tel a zis hitat a vo qôd.
 (2) pa salat e pet a vafos sâfat e a loc?
 (3) zéfak a zâl ca zîd xâfes vo e ces.
 (4) kocaqat a hitâl dusokat e kofet i a tel.

7.

- (1) salat a fit e dev feges e a tel.
 (2) békes a ces e dezet déqat ca a tel.
 (3) câses a tel e tiqat salat a fax i e cosrasâl.
 (4) lices a tel e sod hikutat e hidal i zi yekal.

8.

- (1) 少しの間ここに留まっています。
 (2) このパソコンを絶対に使うな。
 (3) 私はドイツに住んでいたが、今は住ん
でいない。
 (4) 私は飲み物を持っていなかったので、
飲み物を買った。
 (5) 彼はあなたの指輪を盗んだが、なぜそ
うしたのだろう？
 (6) あなたはあの会社に勤めている人と知
り合いですか？
 (7) 私は彼が歌っている歌の題名が思い出
せない。
 (8) 私が一昨日泳いだ海はとても美しい。
 (9) 私が椅子に座ったのと同じときに母に
呼ばれた。

(10) 私は道路で車が壊れた男性を手助けした。

9.

- (1) ditat tayelis a'c e zîdtolék.
- (2) di'dumafetis a'c e tadel acik.
- (3) ditat lanis ofelaz a zâl te ciqid acâl ca kosrahit.
- (4) qoletes a ces e solak azaf, lo feges a's e met abik.
- (5) sâfat a tel e sûd aditil, lo lat a ces evoc.
- (6) kozeses a ces e'n liqetis a's ca tel, dà dules.
- (7) kûves ca sokul a monaf milcitac e a tel.
- (8) salat e yetih avalât a fakel câses e a loc te tazît.
- (9) pa sokat a loc e kosxolâl qetat ca a qinat afik?
- (10) kavat a tel e refet salat a hinof i e asafey ebam.

演習問題 5

1.

- (1) qetat a voston acik ca zîd afêc ica fêd.
- (2) salat a ces e cossâc ie dessotâk.

2.

- (1) pa salat e pas a fakel ite tazît?
- (2) fêkat a tel e qazek ivo naflat aquk.
- (3) feges a tel e likok iso teros a'l e cêr.

3.

- (1) sâfat a tel e lic ie lasav.
- (2) bâgez a tel li belset ia qasot.

4.

- (1) sokat a tel e rát ike'n fexases a nîl.
- (2) salat a celvir afik e asaret iti rédac a tel.
- (3) rafat qorasis a tel fe zis akelzef itace ces.

5.

- (1) debet a tel ti déxas a'l ofev.
- (2) lîdqeles a ces e xoq acik feli yepelas a's.

6.

- (1) salat a qaled i tel e asafey emic ini tel.
- (2) teres a tel e korac amay evêl ini micés.
- (3) salat a ces e asiref ehiv ive refet i tel.
- (4) sôdes a tel e retat avôl edès ini ces.

(5) qîlac a ces e cekul axodol edoqhiv ive zâl.

7.

- (1) salat a ces e azisqom emic ini let te zîk.
- (2) ricames a tel ovit emic ini kilat los a ces.
- (3) câkes a ces odomet emic ini revet a tel e'n lis.
- (4) kocaqat te saq vo fêd a zis avôl edès ini let te tazît.

8.

- (1) 彼は故郷から遠い場所で働いている。
- (2) ここにあるフルーツを自由に食べてください。
- (3) この川で泳ぐのは危険だ。
- (4) 私は英語を勉強するための参考書を買った。
- (5) 彼は私に本を返すという約束を忘れているのだろうか?
- (6) 私の妹はあそこでまるで魚のように泳いでいる。
- (7) 私はほど頻繁にはパーティーに参加しない。
- (8) あなたはあなたが思っているより多くの人に好まれている。
- (9) 私ほど多様な人形を持っている人はいない。
- (10) 私にとって最もおもしろくないものはスポーツだ。

9.

- (1) qetat a kedxovas avôl ca fecil ica kolot afik.
- (2) lidôces a tel ca refet e seklac ite tazît.
- (3) sâfat ebam a ces e cedeq ie qoras.
- (4) salat e ayât a rátris ike'n niselsodis a ces ca ferânes.
- (5) salet a lacat afik e aniscadey iti rédas a zâl.
- (6) rafat nisis a tel te parec ca cosrasâl itace ces.
- (7) salat a sokiç acik e axodol emic ini pafîsec a tel e'n lat.
- (8) kofides a ces e kadeg aratel evêl ini levkit.
- (9) tayeles a ces e sokul otîv evêl ini qîfat las.
- (10) pa salat a pas e alot ehiv ive sofez i loc?

演習問題 6

1.

- (1) kômot a ces e levlis oduvák.
- (2) licis a tel e seklaç afik oduvop.
- (3) sâfat a zis aduves e sakil.

2.

- (1) dilat kûtas a tel e kisol avosfom.
- (2) dilis kesêtas a ris e zecel afik.

3.

- (1) pa cákis a pas ive qaled o yaf ca fêd?
- (2) pa liqetes a loc ca tel te pet ive tazît o tazîthil?

4.

- (1) dusokat a tel e'n bâgat a ces vade pil.
- (2) decatak a ces e'n lanis á dulis a's ca hinad te tacál.

5.

- (1) xafetsez
- (2) tisilkaqotik-qecilvon
- (3) yosetoqek-yosil
- (4) dafbacetcidilgetas-jesziqetotik
- (5) lamil-ziqetotik-getoqek
- (6) yosilkaqettisotik-pivasqecilsezetvon-dafbacilziqas-lamcidilotik

6.

- (1) milcitac a tel e monaf al'aqec.
- (2) vomes licos a ces e xiflohis la tal al'axaf.
- (3) lekutes a tel e hilvit la tal ac'apivet.

7.

- (1) salat a loces afik e alot ile mulôt 120 (atisilqecet).
- (2) hitazes a ces e gildat adôz ile dok 80 (akaqet).
- (3) keqilac a ces e sodcav aqôl ile latvác 24 (aqecetpiv).

8.

- (1) fodakis a zál e felâl te taq 11 (tasettas) ben 4 (pav).
- (2) ditat fetiqis a'c ca fêd te tat ile tef 11 (atisettis).

9.

- (1) この街に親切でない人はいない。

- (2) 全員がその提案に賛成するとは限らないだろう。

- (3) 私は彼の話の全てを信じているわけではない。

- (4) あなたはシャスティールとメフィスのどちらと一緒に買い物したのですか?

- (5) 私は彼になぜ疲れているのか伝えた。

- (6) あなたかあなた以外のどちらが窓を割ったのかは重要ではない。

- (7) 彼はあなたを 10 階の部屋で待っています。

- (8) 彼は 5 時間この部屋でピアノをずっと練習していた。

- (9) ここは 634 m の塔の頂上だ。

- (10) 次の授業は 15 時 10 分に始まる。

10.

- (1) dukûtat a ces e sokiç aduhap. または kûtat a ces e sokiç adak aduhap.

- (2) qifit xasakas odukôk a loc qi qîk afik. または dilît qifas xasakas okôk a loc qi qîk afik.

- (3) pa kilat rifevos a loc zi pet ive gitâs o váolin?

- (4) retesat a tel e'n kûves a ces qi pil ca kedet afik.

- (5) rafat sokis a tel e'n qetat á dulat a fay ca kosax te sot.

- (6) zicatis a loc ca tel e loqsif te tacál. pa dulis?

- (7) feges a qâz i tel e lesit al'apiv vo vossok.

- (8) pa lekutes a loc ca loqiv vo japan la tal acates?

- (9) ditat nifetis okôk a'c e sòdeq aquk dite tat ile tef 18.

- (10) kavat a tel e refet al'aqec xáfes e te taq 29 ben 2.

演習問題 7

1.

- (1) salat a soxsot aquk e adâd emic ile mulôt 2・5 (aqecjes) ini met i tel.

- (2) sôdes a ces e tomek avôl evêl ile vâl ayos ini tel.

- (3) hisezes a zál e hinad ahiq ehiv ile cav 14 (atisetpiv) ive met ivo japan.

2.

- (1) salat a levlis afik e axodol ilede yen 5000 (axafas).
- (2) ditat dunifetis a'c e zat adôz ilehi dok 23 (aqecetyos).
- (3) kavat a ces e refet avôl ilevo lêk 100 (atasil).

3.

- (1) salat a ces, tê, e zissác i tel.
- (2) hafe e kin safazes a loc ca tel.
- (3) dibe e kin qonoces a tel e motfel.
- (4) yo fax, pa qetat a kilev ce pâd?

4.

- (1) tufoses a tel e kin debat a tel.
- (2) kéces a ces e kin rícomes a's vo risis te tazît.
- (3) zavages a tel e «hizelis okôk a ces.».
- (4) cazes a ces ca tel e «zedat câsis a tel e loc te tacál.».

5.

- (1) otudcat, kûves a fax i tel ca sokul.
- (2) a dutel, kéces e nodom.
- (3) e sokul apéf, pa kômat a zis ivo fêd?
- (4) a kin pariçes a dales i tel, salat e anás.

6.

- (1) rifevac a ces, olîgîf, zi váolin.
- (2) rifevac olîgîf a ces zi váolin. (修正なし)
- (3) rafleses a tel ca zis déqat a vo fêd. (修正なし)
- (4) rafleses a tel ca ces, déqat a vo fêd.

7.

- (1) likxelac vo hîx a xif avéf. e ayerîf.
- (2) pí, a monaf i tel. pa qetat vade pil a ces ca fêd?

8.

- (1) このタブレットはあのタブレットより 0.5 kg 以上軽い。
- (2) このイベントには去年の 3.7 倍の人が参加した。
- (3) 彼は部屋を 5 分未満で片付けた。
- (4) 庭の花を折ってしまつてごめんなさい。
- (5) ハッピーバレンタイン! あなたにこのチョコレートをあげます。
- (6) すみません、空港はどこにあるか知っていますか?
- (7) 「またね」と言つて、「さようなら」とは言わないで。
- (8) 彼がつまらない話をずっと語っていることだ、私をととてもイライラさせているのは。
- (9) 優しくて落ち着いた彼が怒ることなどあろうか。
- (10) ねえ、みんな、流れ星だ!

9.

- (1) salat a ces e alosod emic ile latvác apiv ini qâz i tel.
- (2) keqilac a ces e sod avaf evêl ile vâl atiset ini met i zál.
- (3) salat a fit e axodol edoqhiv ile cav axaf ive qolkiv ivo vosis afik.
- (4) vomac teros a tel te taq atov e rix avôl ilehi lîtes 2・5.
- (5) hafe e kin lôqes a loc ca tel te tazît e litéz.
- (6) yo 'keldis, lôles oyát a loc ca ces e fecaq. pa dules?
- (7) pa zedat déxis a loc ovip? e pér asas.
- (8) kéces a ces ca tel e «ditat sohizis ofelaz a zál e qilangel.».
- (9) a fakel aquk, beqomes zi loc e cifèkkis.
- (10) pa lokudes a tel ca pâd e fozâl aquk, feges e a'! te ben azît?

語彙集 (シャレイア語から)

縮 's — 縮 ces
動 sas — 形 良い
名 sakil — 名 リンゴ
動 sáf — 動 好む
動 safaz — 動 助言する
動 safety — 形 優しい
動 sav — 動 する方が良くなる
名 sávak — 名 授業
動 sácal — 動 賛成する
名 saq — 名 今日
動 sal — 動 である
名 sálak — 名 葉
動 saret — 形 おいしい
問 sê — 問 ねえ
動 sez — 形 7
名 seklac — 名 映画, ドラマ
動 séq — 動 あげる
動 selbut — 動 叱る
名 serin — 名 湖
動 semis — 動 黙る
動 sitay — 動 挨拶する
動 sitet — 形 酸っぱい
動 sitif — 動 囁く
動 sivel — 形 詳しい
動 siref — 形 おとなしい 副 おとなしく
問 siya — 問 こんにちは
助 so — 接 ～するために
名 sot — 名 今
名 sotis — 名 子供
名 sotishil — 名 孫
名 sod — 名 家
動 sôd — 動 食べる
名 sodcat — 名 企画
名 sodcav — 名 アパート
名 sodaq — 名 都市
名 sòdeq — 名 書類
動 sok — 動 知る
名 sokxoq — 名 図書室
動 sokes — 形 必要な 動 必要とする
名 soki — 名 腕時計
動 sokos — 形 価値のある
名 sokul — 名 部屋
名 sokulsác — 名 教室
名 sofez — 名 家族

名 socad — 名 事件
名 soqal — 名 ボール
動 sox — 動 考える
名 soxsot — 名 辞書
名 soxal — 名 参考書, 教科書
名 solkut — 名 国
名 solricam — 名 水着
名 solak — 名 洋服
名 sòlaq — 名 スマートフォン
名 solov — 名 親
名 solol — 名 肩
動 sohiz — 動 勉強する
名 sûd — 名 食べ物
動 zaz — 動 驚く
名 zat — 名 もの
動 zâg — 形 熱い
動 zaf — 形 赤い
動 zavag — 動 叫ぶ
名 zál — 名 私たち
動 zamek — 動 焼く 形 焼かれた
動 zesqik — 動 覗き込む
動 zed — 動 しようと思う
動 zédic — 動 運動する
名 zef — 名 赤
動 zêf — 動 着く, 到着する
動 zêfziz — 動 追いつく
動 zèvof — 動 練習する
動 zécak — 形 勇敢な
名 zecel — 名 問題
名 zeqil — 名 机
名 zel — 名 こと
動 zêr — 形 強い
動 zehav — 動 乗り越える
動 zêhis — 動 作り上げる
助 zi — 助 ～から (起点)
名 zis — 名 人
名 zissác — 名 先生, 教師
名 zissohiz — 名 生徒, 学生
動 zisqom — 形 弱気な
動 zît — 形 前の
助 zite — 助 ～から 接 ～するときから
動 zitul — 動 躊躇する
名 zid — 名 場所
名 zidtolék — 名 キッチン

名 zîk — 名 昔, 以前
 動 zîfim — 動 帰る
 動 zicat — 動 返す
 動 ziq — 形 0.7
 動 ziltis — 動 からかう
 縮 't — 縮 cit
 助 tazi — 助 〜にとって
 名 tazît — 名 昨日
 名 tazîthil — 名 一昨日
 名 tat — 名 (時刻表現を作る)
 名 tadel — 名 ボタン
 名 takâd — 名 チーム, 団体
 名 tacâl — 名 明日
 助 tace — 助 〜のような
 名 taq — 名 日
 名 taqsîq — 名 クリスマス
 名 taqxâf — 名 誕生日
 名 taqletyem — 名 パレンタイン
 名 taqit — 名 壁
 名 taqòd — 名 島
 名 tal — 名 回
 名 talem — 名 タオル
 動 tayel — 動 掃除する
 助 te — 助 〜に(時刻) 接 〜するとき
 間 tê — 間 えっと
 名 téd — 名 扉
 名 tédser — 名 窓
 名 tef — 名 時
 動 tevod — 動 折る
 動 tepit — 動 貼る
 名 tècaq — 名 船
 名 teqiv — 名 町
 名 tel — 名 私
 動 têl — 動 ときどき
 間 telê — 間 えっと
 動 telef — 動 叩く
 名 telis — 名 ご飯
 動 ter — 動 飲む
 助 ti — 接 〜するほど
 動 tis — 形 1
 動 tikos — 動 決める
 動 tigum — 動 苦しむ
 名 tific — 名 子供
 動 tiv — 副 素早く
 名 tiqat — 名 男の子
 名 tilirstpiv — 名 四つ葉のクローバー
 名 tir — 名 飲み物

名 tirmal — 名 ジュース
 名 tiris — 名 赤ちゃん
 述 tim — 述 少し
 名 tosol — 名 帽子
 動 tòd — 動 出会う
 動 tov — 形 各
 名 tolék — 名 料理
 動 tòlec — 動 転がる
 名 tonasxav — 名 昼食
 名 tonaslon — 名 夕食
 名 tomek — 名 肉
 名 tomekxol — 名 ハンバーグ
 特 tut — 特 だけ
 動 tudkol — 副 急に 形 急な
 動 tudcat — 副 予期せず 形 予期しない
 動 tuf — 形 少ない
 動 tufil — 形 珍しい
 動 tufos — 動 吹く
 動 tûl — 形 小さい
 動 tulaf — 形 空の
 動 tulit — 副 たまに
 結 dà — 結 しかし
 動 dasos — 形 重要な
 名 dat — 名 何も〜しない
 動 dàd — 形 厚い
 動 dak — 形 どんな〜も〜しない
 動 daf — 形 0.1
 動 dalaz — 形 元気な 副 元気に
 名 dales — 名 犬
 述 dèd — 述 より〜ない
 名 dessotàk — 名 数学
 名 deset — 名 ベッド
 名 desek — 名 靴
 名 dezet — 名 椅子
 名 dèt — 名 机
 名 dekél — 名 ホテル
 名 dev — 名 ペン
 動 deb — 動 疲れる
 動 decat — 動 決断する
 動 deq — 動 させる
 動 déq — 動 座る
 名 deqtal — 名 タブレット
 動 déqit — 動 馬鹿にする
 動 deqig — 動 命じる
 動 déx — 動 寝る
 動 deliv — 動 落ちる
 動 denit — 動 下りる

縮 di' — 縮 ditat
 動 dit — 動 してください
 助 dite — 助 〜までに 接 〜するまでに
 動 dītik — 動 イライラする
 動 dītil — 形 辛い
 特 dif — 特 さえ
 間 dibe — 間 ごめんなさい
 動 dibul — 動 反省する
 動 dil — 動 でない
 動 doz — 動 しなければならなくなる
 動 dōz — 形 重い
 動 dod — 動 悲しむ
 名 dok — 名 kg
 動 dôk — 動 壊す, 割る
 動 dovek — 動 踏む
 述 doqhiv — 述 最も〜ない
 名 dol — 名 どんなことも〜しない
 動 domet — 副 遅く
 間 du — 間 いいえ
 名 dus — 名 誰も〜しない
 名 dud — 名 悲しみ
 動 dûg — 副 決して〜しない
 動 dum — 副 全く〜しない
 名 kadeg — 名 石
 動 kâk — 動 現れる
 動 kâf — 形 似ている 動 似る
 動 kav — 動 もつ
 動 kaq — 形 8
 名 kalad — 名 会社
 助 ke — 助 〜という
 動 kesèt — 動 解決する
 動 kesel — 形 水色の
 動 kezis — 動 留まる
 名 keteq — 名 写真
 名 kedsig — 名 塔
 名 kedxovas — 名 神社, 寺
 名 kedet — 名 建物
 動 kével — 動 参加する
 動 kebiq — 動 落ち着く 形 落ち着いた
 動 kéc — 動 言う
 動 keqil — 動 住む
 助 kelzef — 形 頼もしい 副 頼もしそうに
 名 kisol — 名 お金
 動 kig — 動 切る
 名 kic — 名 話, 発言
 動 kil — 動 できるようになる
 名 kilev — 名 鉞

機 kin — 機 〜ということ
 名 kosdes — 名 大学
 名 koskalad — 名 オフィス
 名 kosben — 名 病院
 名 kosxoq — 名 図書館
 名 kosxolâl — 名 美術館
 名 kosrahit — 名 遊園地
 動 kosat — 動 信じる
 名 kosax — 名 学校
 動 kosiz — 副 丁寧に
 動 kozes — 動 約束する
 名 kozis — 名 約束
 動 kotik — 動 見つける
 間 kôde — 間 なるほど
 動 kôk — 副 必ず
 名 kofcaf — 名 題名
 名 kofet — 名 名前
 動 kofid — 動 見つける
 動 kocaq — 動 存在する
 名 kolettéc — 名 港
 名 kolot — 名 駅
 名 kolothil — 名 空港
 名 korac — 名 お酒
 動 kôm — 動 着る
 名 kûzteqiv — 名 街角
 動 kût — 動 所持する
 名 kutaf — 名 口
 名 kûd — 名 奥
 動 kuf — 動 手に入れる
 動 kûv — 動 入る
 動 kulak — 形 鍵のかかった 動 鍵をかける
 動 get — 形 0.8
 動 gisiv — 動 刺す
 名 gitâs — 名 ギター
 動 gipik — 形 危険な
 名 gildat — 名 岩
 動 gilit — 形 尖った
 名 ginet — 名 針
 名 gullilsoz — 名 頭痛
 名 fakel — 名 女性
 名 fax — 名 母親
 名 faxhil — 名 祖母
 名 fay — 名 娘
 助 fe — 助 〜と一緒に
 動 fesal — 動 欲する
 名 fesotqik — 名 同僚
 動 fêz — 動 そう思われる

名	fèz	名	最近	名	vâi	名	倍
動	fetek	動	連絡する	動	valcas	動	眺める
動	fetiḡ	動	集まる	動	valát	形	有名な
名	fêd	名	ここ	動	vahix	動	死ぬ
動	fedat	動	知り合いになる	名	váolin	名	バイオリン
動	fedak	動	気づく	助	ve	助	～の中で
動	fèk	動	知る	動	ves	形	全ての
動	feket	動	起きる	述	vèk	述	すぎる
動	feg	動	買う	動	véf	形	たち
動	feglic	動	買い物する	動	vév	形	同じ
動	fev	副	すぐに	動	vêḡ	形	多様な, いろいろな
動	fév	動	借りる	述	vêl	述	同じくらい
動	fêc	形	近い 動 近づく	名	velex	名	色
名	fecaḡ	名	メール, 手紙	名	vis	名	全て
名	fecil	名	周辺	動	vit	副	速く 形 速い
動	fexas	動	結婚する	動	vític	動	見かける, 一瞥する
動	felaz	副	一緒に	動	vituf	形	単純な
名	felâl	名	パーティー	動	vîp	副	もう
助	feli	助	～のように 接 ～するように	動	vilis	動	走る
動	ferac	動	手伝う, 手助けする	助	vo	助	～で(場所)
名	ferânes	名	フランス	名	vossok	名	スーパー
動	fehal	形	かわいらしい	名	voston	名	レストラン
名	fit	名	これ	動	vosfom	形	膨大な
動	fik	形	この	名	vosras	名	カフェ
名	ficot	名	布	名	vosis	名	店
動	fiḡ	動	待つ	動	vop	副	再び
名	filed	名	おばあさん	特	voc	特	も
名	fosnal	名	村	名	vocik	名	テラス
名	fozâl	名	コート	動	vôi	形	たくさんの, 多い
動	fodak	動	開催する	名	voláḡ	名	バス
名	fodek	名	イベント, 催し	動	von	形	9
名	fokeḡ	名	鍵	動	vom	動	繰り返す
動	fôv	動	開ける	機	pa	機	～か(疑問)
動	foval	動	出る	名	pas	名	誰
名	fobôs	名	お化け	動	pâziḡ	動	置き忘れる
動	fôc	動	始める	名	pâd	名	どこ
動	foqon	動	諦める	動	pafis	動	想像する
動	folan	動	出かける	動	pafik	動	思い出す
名	fôn	名	外	動	paveḡ	動	なくす
動	fus	形	0.9	動	pac	動	尋ねる
助	vade	接	～するので	動	paqof	動	なくす
名	vadef	名	理由	動	palev	動	探す
動	vák	副	いつも	名	parec	名	将来
動	vaf	形	大きい	動	párel	形	謎の
名	vafos	名	動物	動	pariḡ	動	消える, いなくなる
動	vâc	形	広い	動	pâm	動	忘れる
名	vác	名	年	問	pésa	問	おやすみなさい

名 pet — 名 何
 動 pek — 形 どの
 動 péf — 形 どのような
 名 pér — 名 夢
 動 pehor — 動 上の空になる
 間 pí — 間 あれ
 動 pít — 動 怖がる
 動 piv — 形 4
 名 pil — 名 どんなこと
 動 poqos — 動 眺める
 名 bak — 名 青
 動 bâg — 動 怒る
 動 bac — 形 0.4
 動 bâl — 副 突然 形 突然の
 述 bam — 述 とても
 名 bés — 名 熊
 動 bék — 動 ぶつかる
 動 beqom — 動 盗む
 助 belset — 動 いたずらする
 名 ben — 名 月
 動 benag — 動 病気になる, 患う
 動 bik — 形 青い
 動 bigit — 形 冷たい
 動 bozet — 動 殴る
 動 būd — 形 悪い
 動 būdez — 動 妬む
 動 buqot — 動 嫌う
 縮 'c — 縮 loc
 助 ca — 助 〜に (相手), 〜へ (到達点)
 動 câs — 動 会う
 動 casat — 形 効果的な
 動 caz — 動 伝える
 動 cazec — 副 真剣に
 動 cat — 動 歩く
 動 catsat — 動 散歩する
 動 cates — 形 最初の
 動 cadzes — 動 勤める
 動 cák — 動 来る
 名 cakís — 名 提案
 動 cafos — 動 見せる
 名 cav — 名 番目
 間 câvo — 間 さようなら
 動 cac — 形 新しい
 名 cal — 名 そのこと
 動 cáI — 形 次の
 動 caliq — 動 出発する
 助 ce — 接 そして〜

名 ces — 名 彼, 彼女
 名 cêd — 名 そこ
 動 cedeq — 動 計画する
 名 cekul — 名 鞆
 名 celvir — 名 ワイン
 名 cêr — 名 お茶
 名 cêrzaf — 名 紅茶
 名 cit — 名 それ
 動 citkul — 動 所属する
 動 cid — 形 0.2
 動 cik — 形 その
 動 cikek — 動 持つ, 携帯する
 助 cife — 接 〜しながら
 名 cifekkís — 名 財布
 動 cipas — 動 頼む
 名 ciqid — 名 週
 名 cilit — 名 レモン
 名 cossác — 名 教師, 先生
 名 cosrasál — 名 医者
 名 cosyepel — 名 歌手
 名 colis — 名 シャツ
 名 qasot — 名 息子
 名 qâz — 名 父親
 名 qazrêy — 名 ボーイフレンド
 名 qâzhil — 名 祖父
 名 qazek — 名 男
 名 qaled — 名 弟
 動 qet — 動 いる, ある
 動 qetan — 動 動く
 動 qec — 形 2
 動 qerit — 動 聴く
 助 qi — 助 〜で (道具) 接 〜することで
 名 qisec — 名 人形
 動 qidok — 動 修理する
 動 qik — 動 作る
 名 qík — 名 方法
 動 qiket — 動 働く
 動 qif — 動 できるようになる
 動 qivlat — 動 運転する
 名 qiqcop — 名 消しゴム
 名 qixov — 名 バソコン
 動 qîl — 動 使う
 名 qilferânes — 名 フランス語
 名 qilxaléh — 名 シャレイア語
 名 qilangel — 名 英語
 名 qiliv — 名 テレビ
 名 qilox — 名 言語

名 qinat — 名 絵	動 lan — 動 行く
動 qinil — 動 運ぶ	名 lanqos — 名 老人
名 qos — 名 あの人	動 lam — 形 0.6
名 qôd — 名 あそこ	助 le — 助 〜の(数量)
動 qopat — 動 隠す	結 lé — 結 または
動 qôcas — 動 呼ぶ	動 les — 動 する
動 qôl — 形 古い	名 lesit — 名 ミカン
名 qolkiv — 名 商品	名 letyem — 名 チョコレート
動 qolvab — 動 持ち去る	名 letad — 名 階
動 qolet — 動 売る	助 letu — 助 〜未満の
動 qoras — 動 旅行する	助 lede — 助 〜以下の
動 qon — 形 遠い 動 遠ざかる	名 ledis — 名 ズボン
動 qonef — 形 つまらない	名 lêk — 名 個
動 qonoc — 動 捨てる	動 lekut — 動 乗る
動 quk — 形 あの	名 lef — 名 知人
動 xaslef — 形 素晴らしい	名 lefom — 名 牛乳
動 xasak — 動 成功する	名 levkit — 名 ガラス
名 xasol — 名 魂	名 levlis — 名 眼鏡
動 xáf — 動 産む	動 levac — 形 オレンジ色の
動 xal — 形 5	助 levo — 助 〜以上の
動 xalket — 形 かわいい, オシャレな	助 lehi — 助 〜超過の
名 xánas — 名 中国	助 li — 助 〜が(補助態主語)
動 xedfet — 形 静かな	名 lisid — 名 フォーク
名 xif — 名 星	動 liz — 動 語る
名 xiflohis — 名 流れ星	名 lîtes — 名 L
動 xodol — 形 高価な	名 litéz — 名 傘
動 xòc — 形 賢い	動 liteq — 動 通過する
名 xoq — 名 本	動 lîd — 動 読む
動 xolac — 動 暮らす	名 lidvalox — 名 故郷
動 xôy — 動 片付ける 形 片付いた	動 lîdqeł — 動 朗読する
名 japan — 名 日本	動 lides — 動 判断する
動 jes — 形 0.5	動 lidòc — 動 勧める
名 jêmanis — 名 ドイツ	動 lik — 形 固有の
名 jirâf — 名 キリン	動 likxel — 形 輝いた 動 輝く
動 judôl — 形 汚い	名 liker — 名 ピアノ
動 l — 動 する	名 likis — 名 線
縮 'l — 縮 tel, zál	名 likok — 名 コップ
結 lá — 結 または	動 ligif — 副 集中して 動 集中する
名 lasav — 名 アニメ	動 lic — 動 見る
名 laztad — 名 スポーツ	動 lican — 動 応答する
名 latvác — 名 年	動 liqet — 動 電話する
名 látac — 名 卵	結 lo — 結 かつ
動 lak — 動 話す, 会話する	動 losod — 形 年をとった
名 lakad — 名 文字	動 lot — 形 長い
名 lâfas — 名 ワンピース	名 lôt — 名 m
名 lacat — 名 小説	名 lôk — 名 時間
名 laxol — 名 人間	助 loke — 助 〜に関して

動 lokud — 動 しまう
 動 lof — 副 よく,しばしば
 名 lofyet — 名 リボン
 動 lov — 副 ずっと
 名 loc — 名 あなた
 名 loces — 名 棒
 名 lôcet — 名 テープ
 動 lôq — 動 貸す
 名 loqsif — 名 自転車
 名 loqis — 名 車
 名 loqiv — 名 電車
 動 lôx — 副 永遠に 形 永遠の
 動 löl — 動 送る
 名 lon — 名 夜
 動 lohis — 動 飛ぶ
 名 rát — 名 話
 名 rátris — 名 噂
 動 ratel — 形 透明な
 名 rakal — 名 ゲーム
 動 raf — 動 望む
 動 rafles — 動 会話する
 名 raxas — 名 ロシア
 動 rahas — 動 楽しむ
 動 rahit — 動 遊ぶ
 動 rescal — 動 鑑賞する
 動 rez — 動 笑う
 名 retat — 名 お菓子
 動 retes — 動 気になる
 動 réd — 動 泣く
 名 refet — 名 友達
 名 rev — 名 思う
 名 reláf — 名 曲
 助 ri — 接 もし～
 名 ris — 名 誰でも
 名 risis — 名 川
 名 ritif — 名 魚
 動 rifev — 動 演奏する
 名 rifiv — 名 音楽, 曲
 動 ric — 形 6
 動 ricam — 動 泳ぐ
 名 rix — 名 名詞
 名 riy — 名 海
 名 rihic — 名 虹
 縮 'n — 縮 kin
 動 nás — 形 事実の
 名 nasfek — 名 庭
 名 nát — 名 花

名 nâd — 名 木
 名 naflat — 名 公園
 動 nav — 形 黄色い
 名 naved — 名 野菜
 動 nalsol — 動 植える
 名 nalid — 名 サラダ
 名 nelas — 名 首
 名 nemok — 名 鼻
 助 ni — 助 ～より 接 ～するより
 動 nis — 動 なる, 変わる
 動 nistecaf — 形 幸運な
 動 niscadey — 動 感動的な
 動 nixsok — 形 おもしろい
 動 niselsod — 動 引越す
 名 nitez — 名 坂
 動 nifet — 動 持ってくる
 動 nîp — 動 去る
 動 nibit — 動 中断する
 動 nicas — 動 渡す
 動 niciq — 動 動く
 名 nîl — 名 兄
 動 nozej — 動 失敗する
 名 nodom — 名 嘘
 動 nof — 形 0
 名 matef — 名 パン
 動 mafet — 動 触る
 名 macak — 名 ケーキ
 名 malac — 名 フルーツ
 名 malek — 名 飴
 名 márec — 名 桃
 動 marit — 動 洗う
 動 may — 形 甘い
 動 mez — 副 まだ
 名 met — 名 それ
 動 medel — 動 壊す
 動 mèl — 副 ゆっくりと
 動 melos — 動 遅れる
 名 meris — 名 分
 述 mic — 述 より
 名 micés — 名 イチゴ
 動 milcit — 動 飼う
 名 motfel — 名 ぬいぐるみ
 名 monaf — 名 猫
 動 mul — 形 0.0
 名 mulôt — 名 cm
 問 ya — 問 はい
 問 yâ — 問 やあ

動 yát — 形 本当の 副 本来に
 名 yaf — 名 妹
 動 yalif — 形 人気のある
 動 yamef — 動 褒める
 動 yesac — 副 上手に 形 上手な
 名 yét — 名 真実
 名 yetih — 名 アイドル
 名 yekal — 名 雪
 名 yéf — 名 妻
 動 yepel — 動 歌う
 名 yepil — 名 歌
 動 yeles — 動 世話をする
 名 yelicsiloz — 名 指輪
 名 yelicnelas — 名 ネックレス
 動 yerif — 形 綺麗な
 名 yen — 名 円
 動 yis — 動 好む
 助 yo — 助 〜よ (呼びかけ)
 動 yos — 形 3
 動 hafas — 形 ピンク色の
 間 hafe — 間 ありがとう
 動 haves — 副 自由に 形 自由な
 動 hap — 形 安い
 動 háp — 形 軽い
 名 hâl — 名 スカート
 動 har — 動 気分が良くなる
 動 hâr — 動 笑う
 動 hanot — 動 放り投げる
 名 hay — 名 女の子
 動 hisez — 動 登る
 動 hizel — 動 勝つ

動 hit — 動 立つ, 立ち上がる
 動 hitaz — 動 持ち上げる
 名 hitál — 名 鳥
 名 hidsol — 名 橋
 名 hidal — 名 屋根
 動 hikut — 動 覆う
 名 híf — 名 上
 述 hiv — 述 最も
 名 hivas — 名 空
 動 hiq — 形 高い
 名 hîx — 名 空
 名 hîxlon — 名 夜空
 名 hilvit — 名 飛行機
 動 hilef — 動 大好きになる
 名 hilít — 名 頂上
 名 hinad — 名 山
 名 hinof — 名 姉
 動 hut — 形 0.3
 助 a — 助 〜が (主語)
 結 á — 結 または
 結 à — 結 しかし
 縮 ac' — 縮 acál ile cav
 縮 al' — 縮 avôi ile lêk
 名 amerikas — 名 アメリカ
 助 e — 助 〜を (目的語)
 結 é — 結 または
 名 elefanet — 名 ゾウ
 助 i — 助 〜の
 結 o — 結 と
 結 ò — 結 かつ

語彙集 (日本語から)

動 挨拶する — 動 sitay
 名 アイドル — 名 yetih
 動 会う — 動 câs
 名 青 — 名 bak
 形 青い — 動 bik
 名 赤 — 名 zef
 形 赤い — 動 zaf
 名 赤ちゃん — 名 tiris
 動 諦める — 動 foqon
 動 開ける — 動 fôv
 動 あげる — 動 séq
 名 明日 — 名 tacál
 名 あそこ — 名 qôd
 動 遊ぶ — 動 rahit
 形 新しい — 動 cac
 形 熱い — 動 zâg
 形 厚い — 動 dâd
 動 集まる — 動 fetiq
 名 あなた — 名 loc
 名 兄 — 名 nîl
 名 アニメ — 名 lasav
 名 姉 — 名 hinof
 形 あの — 動 kuk
 名 あの人 — 名 qos
 名 アパート — 名 sodcav
 形 甘い — 動 may
 名 飴 — 名 malek
 名 アメリカ — 名 amerikas
 動 洗う — 動 marit
 動 現れる — 動 kâk
 間 ありがとう — 間 hafe
 動 ある — 動 qet
 動 歩く — 動 cat
 間 あれ — 間 pî
 間 いいえ — 間 du
 動 言う — 動 kéc
 名 家 — 名 sod
 動 行く — 動 lan
 名 石 — 名 kadeg
 名 医者 — 名 cosrasál
 名 椅子 — 名 dezet
 名 以前 — 名 zîk
 動 いたずらする — 動 belset
 名 イチゴ — 名 micés

動 一瞥する — 動 vîtic
 副 一緒に — 動 felaz
 形 いっぱいの — 動 votiq
 副 いつも — 動 vâk
 動 いなくなる — 動 pariq
 名 犬 — 名 dales
 名 イベント — 名 fodek
 名 今 — 名 sot
 名 妹 — 名 yaf
 動 イライラする — 動 dîtik
 動 いる — 動 qet
 名 色 — 名 velex
 形 いろいろな — 動 vêq
 名 岩 — 名 gildat
 名 上 — 名 hif
 動 植える — 動 nalsol
 動 動く — 動 nîciq 動 qetan
 名 嘘 — 名 nodom
 名 歌 — 名 yepil
 動 歌う — 動 yepel
 名 腕時計 — 名 sokiq
 名 海 — 名 riy
 動 座む — 動 xáf
 動 売る — 動 qolet
 名 噂 — 名 rátris
 動 上の空になる — 動 pehor
 動 運転する — 動 qivlat
 動 運動する — 動 zédic
 名 絵 — 名 qinat
 副 永遠に — 動 lôx
 形 永遠の — 動 lôx
 名 映画 — 名 sekîac
 名 英語 — 名 qilangel
 名 駅 — 名 kolot
 間 えっと — 間 tê 間 telê
 名 円 — 名 yen
 動 演奏する — 動 rîfev
 形 おいしい — 動 saret
 動 追いつく — 動 zêfzic
 動 応答する — 動 lican
 形 多い — 動 vôi
 動 覆う — 動 hikut
 形 大きい — 動 vaf
 名 お菓子 — 名 retat

名 お金 — 名 kisol
 動 起きる — 動 feket
 動 置き忘れる — 動 pāziq
 名 奥 — 名 kùd
 動 送る — 動 lōl
 動 遅れる — 動 melos
 動 怒る — 動 bāg
 名 お酒 — 名 korac
 形 オシャレな — 動 xalket
 副 遅く — 動 domet
 形 落ち着いた — 動 kebiq
 動 落ち着く — 動 kebiq
 名 お茶 — 名 cēr
 動 落ちる — 動 deliv
 名 弟 — 名 qaled
 名 男 — 名 qazek
 名 男の子 — 名 tiqat
 名 一昨日 — 名 tazîthil
 形 おとなしい — 動 siref
 副 おとなしく — 動 siref
 動 驚く — 動 zaz
 形 同じ — 動 vév
 述 同じくらい — 述 vël
 名 おばあさん — 名 filed
 名 お化け — 名 fobôs
 名 オフィス — 名 koskalad
 形 重い — 動 dôz
 動 思い出す — 動 pafik
 名 思う — 名 rev
 形 おもしろい — 動 nisxok
 名 親 — 名 solov
 間 おやすみなさい — 間 pésa
 動 泳ぐ — 動 ricam
 動 下りる — 動 denit
 動 折る — 動 tevod
 形 オレンジ色の — 動 levac
 名 音楽 — 名 rifiv
 名 女の子 — 名 hay
 名 ガールフレンド — 名 fagrêy
 名 回 — 名 tal
 名 階 — 名 letad
 動 解決する — 動 kesèt
 動 開催する — 動 fodak
 名 会社 — 名 kalad
 動 買い物する — 動 feglic
 動 会話する — 動 rafles 動 lak
 動 買う — 動 feg

動 飼う — 動 milcit
 動 返す — 動 zicac
 動 帰る — 動 zifim
 形 輝いた — 動 likxel
 動 輝く — 動 likxel
 名 鍵 — 名 fokeq
 形 鍵のかかった — 動 kulak
 動 鍵をかける — 動 kulak
 形 各 — 動 tov
 動 隠す — 動 qopat 動 qokuz
 名 学生 — 名 zissohiz
 名 傘 — 名 litéz
 形 賢い — 動 xóc
 名 歌手 — 名 cosyepel
 動 貸す — 動 lôq
 名 家族 — 名 sofez
 名 肩 — 名 solol
 形 片付いた — 動 xôy
 動 片付ける — 動 xôy
 動 語る — 動 liz
 形 価値のある — 動 sokos
 動 勝つ — 動 hizel
 形 かつこいい — 動 xalket
 名 学校 — 名 kosax
 名 悲しみ — 名 dud
 動 悲しむ — 動 dod
 副 必ず — 動 kôk
 名 彼女 — 名 ces
 名 鞆 — 名 cekul
 名 カフェ — 名 vosras
 名 壁 — 名 taqit
 形 辛い — 動 ditil
 動 からかう — 動 ziltis
 名 ガラス — 名 levkit
 形 空の — 動 tulaf
 動 借りる — 動 fév
 形 軽い — 動 háp
 名 彼 — 名 ces
 名 川 — 名 risis
 形 かわいらしい — 動 fehal
 動 変わる — 動 nis
 動 考える — 動 sox
 動 鑑賞する — 動 rescal
 動 感動的な — 動 niscadey
 名 木 — 名 nâd
 形 黄色い — 動 nav
 動 消える — 動 pariq

名 企画 — 名 sodcat
 動 聴く — 動 qerit
 形 危険な — 動 gipik
 名 ギター — 名 gitàs
 形 汚い — 動 judòl
 動 気づく — 動 fedak
 名 キッチン — 名 zîdtolék
 動 気になる — 動 retes
 名 昨日 — 名 tazît
 動 気分が良くなる — 動 har
 動 決める — 動 tikos
 形 急な — 動 tudkol
 副 急に — 動 tudkol
 名 牛乳 — 名 lefom
 名 今日 — 名 saq
 名 教科書 — 名 soxal
 名 教師 — 名 cossác 名 zissác
 名 教室 — 名 sokulsác
 名 曲 — 名 reláf 名 rifiv
 動 嫌う — 動 buqot
 名 キリン — 名 jiráf
 動 着る — 動 kóm
 動 切る — 動 kig
 形 綺麗な — 動 yerif
 名 kg — 名 dok
 名 空港 — 名 kolothil
 名 薬 — 名 sálak
 名 口 — 名 kutaf
 名 靴 — 名 desek
 名 国 — 名 solkut
 名 首 — 名 nelas
 名 熊 — 名 bés
 動 暮らす — 動 xolac
 動 繰り返す — 動 vom
 名 クリスマス — 名 taqsíq
 動 来る — 動 cák
 動 苦しむ — 動 tigum
 名 車 — 名 loqis
 形 詳しい — 動 sivel
 動 計画する — 動 cedeq
 動 携帯する — 動 cikek
 名 ケーキ — 名 macak
 名 ゲーム — 名 rakal
 名 消しゴム — 名 qiqcop
 動 結婚する — 動 fexas
 副 決して～しない — 動 dûg
 動 決断する — 動 decat

形 元気な — 動 dalaz
 副 元気に — 動 dalaz
 名 言語 — 名 qilox
 名 個 — 名 lèk
 形 幸運な — 動 nistecaf
 名 公園 — 名 nafiat
 形 効果的な — 動 casat
 形 高価な — 動 xodol
 動 交換する — 動 felqot
 名 紅茶 — 名 cèrzaf
 名 コート — 名 fozâl
 名 故郷 — 名 lidvalox
 名 ここ — 名 fèd
 名 コップ — 名 likok
 名 こと — 名 zel
 名 子供 — 名 tific 名 sotis
 形 この — 動 fik
 動 好む — 動 sâf 動 yis
 名 ご飯 — 名 telis
 間 ごめんなさい — 間 dibe
 形 固有の — 動 lik
 名 これ — 名 fit
 動 転がる — 動 tòlec
 動 怖がる — 動 pît
 動 壊す — 動 medel 動 dôk
 間 こんにちは — 間 siya
 名 最近 — 名 fèz
 形 最初の — 動 cates
 名 財布 — 名 cifèkkis
 特 さえ — 特 dif
 名 坂 — 名 nitez
 動 探す — 動 palev
 名 魚 — 名 ritif
 動 叫ぶ — 動 zavag
 動 囁く — 動 sitif
 動 刺す — 動 gisiv
 動 させる — 動 deq
 間 さようなら — 間 câvo
 名 サラダ — 名 nalid
 動 去る — 動 nîp
 動 触る — 動 mafet
 動 参加する — 動 kével
 名 参考書 — 名 soxal
 動 賛成する — 動 sácal
 動 散歩する — 動 catsat
 名 時 — 名 tef
 動 幸せになる — 動 xây

動 叱る — 動 selbut
 名 時間 — 名 lõk
 名 事件 — 名 socad
 形 事実の — 動 nás
 名 辞書 — 名 soxsot
 形 静かな — 動 xedfet
 動 失敗する — 動 nozej
 動 してください — 動 dit
 名 自転車 — 名 loqsif
 動 しなければならなくなる — 動 doz
 動 死ぬ — 動 vahix
 副 しばしば — 動 lof
 名 島 — 名 taqòd
 動 しまう — 動 lokud
 名 写真 — 名 keteq
 名 シャツ — 名 colis
 名 シャレイア語 — 名 qilxaléh
 名 週 — 名 ciqid
 名 ジュース — 名 tirmal
 副 集中して — 動 ligif
 動 集中する — 動 ligif
 形 自由な — 動 haves
 副 自由に — 動 haves
 名 周辺 — 名 fecil
 形 重要な — 動 dasos
 動 修理する — 動 qidok
 名 授業 — 名 sávak
 動 出発する — 動 caliq
 形 上手な — 動 yesac
 副 上手に — 動 yesac
 名 小説 — 名 lacat
 動 しようと思う — 動 zed
 名 商品 — 名 qolkiv
 名 将来 — 名 parec
 動 助言する — 動 safaz
 動 所持する — 動 kút
 名 女性 — 名 fakel
 動 所属する — 動 citkul
 名 書類 — 名 sòdeq
 動 知り合いになる — 動 fedàt
 動 知る — 動 sok 動 fèk
 副 真剣に — 動 cazec
 名 真実 — 名 yét
 名 神社 — 名 kedxovas
 動 信じる — 動 kosat
 名 数学 — 名 dessotàk
 名 スーパー — 名 vossok

名 スカート — 名 hàl
 述 すぎる — 述 vèk
 形 少ない — 動 tuf
 副 すぐに — 動 fev
 述 少し — 述 tim
 動 勧める — 動 lidòc
 名 頭痛 — 名 gulisoz
 副 ずっと — 動 lov
 形 酸っぱい — 動 sitet
 動 捨てる — 動 qonoc
 副 素早く — 動 tív
 形 素晴らしい — 動 xaslef
 名 全て — 名 vis
 形 全ての — 動 ves
 名 スポーツ — 名 laztad
 名 ズボン — 名 ledis
 名 スマートフォン — 名 sòlaq
 動 住む — 動 keqil
 動 する — 動 les 動 l
 動 する方が良くなる — 動 sav
 動 座る — 動 déq
 動 成功する — 動 xasak
 名 生徒 — 名 zissohiz
 動 世話をする — 動 yeles
 名 線 — 名 likis
 名 先生 — 名 cossác 名 zissác
 名 cm — 名 mulòt
 名 ゴウ — 名 elefanet
 動 そう思われる — 動 fèz
 動 掃除する — 動 tayel
 動 想像する — 動 pafis
 名 そこ — 名 cèd
 名 外 — 名 fòn
 形 その — 動 cik
 名 そのこと — 名 cal
 名 祖父 — 名 qāzhil
 名 祖母 — 名 faxhil
 名 空 — 名 hix 名 hivas
 名 それ — 名 cit 名 met
 動 存在する — 動 kocaq
 名 大学 — 名 kosdes
 動 大好きになる — 動 hilef
 動 大成功する — 動 xaslih
 名 題名 — 名 kofcaf
 名 タオル — 名 talem
 形 高い — 動 hiq
 形 たくさんの — 動 vòl

特 だけ — 特 tut
 動 尋ねる — 動 pac
 動 叩く — 動 telef
 形 たち — 動 véf
 動 立ち上がる — 動 hit
 動 立つ — 動 hit
 名 建物 — 名 kedet
 動 楽しむ — 動 rahas
 動 頼む — 動 cipas
 形 頼もしい — 動 kelzef
 副 頼もしそうに — 動 kelzef
 名 タブレット — 名 deqtal
 名 食べ物 — 名 sùd
 動 食べる — 動 sòd
 名 卵 — 名 látac
 名 魂 — 名 xasol
 副 たまに — 動 tulit
 動 黙る — 動 semis
 形 多様な — 動 vèq
 名 誰 — 名 pas
 名 誰でも — 名 ris
 名 誰も～しない — 名 dus
 形 単純な — 動 vituf
 名 誕生日 — 名 taqxáf
 名 団体 — 名 takâd
 形 小さい — 動 tûl
 名 チーム — 名 takâd
 形 近い — 動 fêc
 動 近づく — 動 fêc
 名 知人 — 名 lef
 名 父親 — 名 qâz
 名 中国 — 名 xânas
 名 昼食 — 名 tonasxav
 動 中断する — 動 nibit
 動 躊躇する — 動 ziti
 名 頂上 — 名 hilit
 名 チョコレート — 名 letyem
 動 通過する — 動 liteq
 動 使う — 動 qîl
 動 疲れる — 動 deb
 名 月 — 名 ben
 形 次の — 動 cál
 動 着く — 動 zêf
 名 机 — 名 zeqil 名 dèt
 動 作り上げる — 動 zêhis
 動 作る — 動 qik
 動 伝える — 動 caz

動 勤める — 動 cadzes
 動 吹く — 動 tufos
 名 妻 — 名 yéf
 形 つまらない — 動 qonef
 形 冷たい — 動 bigit
 形 強い — 動 zêr
 動 連れていく — 動 fevet
 動 出会う — 動 tòd
 動 である — 動 sal
 名 提案 — 名 cakis
 副 丁寧に — 動 kosiz
 名 テープ — 名 lôcet
 動 出かける — 動 folan
 名 手紙 — 名 fecaq
 動 できるようになる — 動 qif 動 kil
 動 手助けする — 動 ferac
 動 手伝う — 動 ferac
 動 でない — 動 dil
 動 手に入れる — 動 kuf
 名 寺 — 名 kedxovas
 名 テラス — 名 vocik
 動 出る — 動 foval
 名 テレビ — 名 qiliv
 名 電車 — 名 loqiv
 動 電話する — 動 liqet
 名 ドイツ — 名 jêmanis
 名 塔 — 名 kedsig
 動 到着する — 動 zêf
 名 動物 — 名 vafos
 形 透明な — 動 ratel
 名 同僚 — 名 fesotqik
 形 遠い — 動 qon
 動 遠ざかる — 動 qon
 形 尖った — 動 gilit
 動 ときどき — 動 têt
 名 どこ — 名 pād
 名 年 — 名 vác 名 latvác
 名 都市 — 名 sodaq
 名 図書館 — 名 kosxoq
 名 図書室 — 名 sokxoq
 形 年をとった — 動 losod
 副 突然 — 動 bâl
 形 突然の — 動 bâl
 述 とても — 述 bam
 動 留まる — 動 kezis
 形 どの — 動 pek
 形 どのような — 動 péf

名 扉 — 名 téd
 動 飛ぶ — 動 lohis
 名 友達 — 名 refet
 名 ドラマ — 名 seklac
 名 鳥 — 名 hitál
 名 どんなこと — 名 pil
 名 どんなことも～しない — 名 dol
 形 どんな～も～しない — 動 dak
 形 長い — 動 lot
 動 眺める — 動 poqos 動 valcas
 名 流れ星 — 名 xiflohis
 動 泣く — 動 réd
 動 なくす — 動 paqof 動 paveq
 動 殴る — 動 bozet
 形 謎の — 動 párel
 名 何 — 名 pet
 名 何も～しない — 名 dat
 名 名前 — 名 kofet
 動 なる — 動 nis
 間 なるほど — 間 kôde
 名 肉 — 名 tomek
 名 虹 — 名 rihic
 形 似ている — 動 kâf
 名 日本 — 名 japan
 動 似る — 動 kâf
 名 庭 — 名 nasfek
 形 人気のある — 動 yalif
 名 人形 — 名 qisec
 名 人間 — 名 laxol
 名 ぬいぐるみ — 名 motfel
 動 盗む — 動 beqom
 名 布 — 名 ficot
 間 ねえ — 間 sê
 名 猫 — 名 monaf
 動 妬む — 動 bûdez
 名 ネックレス — 名 yelicnelas
 副 熱心に — 動 zacàt
 動 眠くなる — 動 meber
 動 寝る — 動 déx
 動 覗き込む — 動 zesqik
 動 望む — 動 raf
 動 登る — 動 hisez
 名 飲み物 — 名 tir
 動 飲む — 動 ter
 動 乗り越える — 動 zehav
 動 乗る — 動 lekut
 名 パーティー — 名 felâl

間 はい — 間 ya
 名 倍 — 名 vâl
 名 バイオリン — 名 váolin
 動 入る — 動 kûv
 動 馬鹿にする — 動 déqit
 形 激しい — 動 gicaz
 副 激しく — 動 gicaz
 動 運ぶ — 動 qinil
 名 鋏 — 名 kilev
 名 橋 — 名 hidsol
 動 始める — 動 fôc
 名 場所 — 名 zíd
 動 走る — 動 vilis
 名 バス — 名 voláq
 名 パソコン — 名 qixov
 動 働く — 動 qiket
 名 発言 — 名 kíc
 名 花 — 名 nât
 名 鼻 — 名 nemok
 名 話 — 名 rát 名 kíc
 動 話す — 動 lak
 名 母親 — 名 fax
 形 速い — 動 vit
 副 速く — 動 vit
 名 針 — 名 ginet
 動 貼る — 動 tepit
 名 バレンタイン — 名 taqletyem
 名 バン — 名 matef
 動 反省する — 動 dibul
 動 判断する — 動 lides
 名 ハンバーグ — 名 tomekxol
 名 番目 — 名 cav
 名 日 — 名 taq
 名 ピアノ — 名 líker
 名 飛行機 — 名 hilvit
 名 美術館 — 名 kosxolâl
 動 引越す — 動 niseslod
 動 必要とする — 動 sokes
 形 必要な — 動 sokes
 名 人 — 名 zis
 名 病院 — 名 kosben
 動 病気になる — 動 benag
 形 広い — 動 vâc
 形 ピンク色の — 動 hafas
 名 フォーク — 名 lisid
 副 再び — 動 vop
 動 ぶつかる — 動 bék

名 船 — 名 tècaq
 動 踏む — 動 dovek
 名 フランス — 名 ferânes
 名 フランス語 — 名 qilferânes
 形 古い — 動 qôl
 名 フルーツ — 名 malac
 名 分 — 名 meris
 名 ベッド — 名 deset
 名 部屋 — 名 sokul
 名 ベン — 名 dev
 動 勉強する — 動 sohiz
 名 棒 — 名 loces
 名 帽子 — 名 tosol
 形 膨大な — 動 vosfom
 名 方法 — 名 qîk
 動 放り投げる — 動 hanot
 名 ボイフレンド — 名 qazrêy
 名 ボール — 名 soqal
 形 他の — 動 qôc
 名 星 — 名 xif
 名 ボタン — 名 tadel
 動 欲する — 動 fesal
 名 ホテル — 名 dekél
 動 褒める — 動 yamef
 名 本 — 名 xoq
 副 本当に — 動 yát
 形 本当の — 動 yát
 形 前の — 動 zît
 名 孫 — 名 sotishil
 名 孫娘 — 名 fayhil
 副 まだ — 動 mez
 名 町 — 名 teqiv
 名 街角 — 名 kûzteqiv
 動 待つ — 動 fîq
 副 全く～しない — 動 dum
 名 窓 — 名 tédsér
 動 見かける — 動 vîtic
 名 ミカン — 名 lesit
 形 水色の — 動 kesel
 名 湖 — 名 serin
 名 水着 — 名 solricam
 名 店 — 名 vosis
 動 見せる — 動 cafos
 動 満たす — 動 votiq
 動 見つける — 動 kotik 動 kofid
 名 港 — 名 kolettèc
 動 見る — 動 lic

名 昔 — 名 zîk
 名 息子 — 名 qasot
 名 娘 — 名 fay
 名 村 — 名 fosnal
 名 名詞 — 名 rix
 動 命じる — 動 deqig
 名 m — 名 lôl
 名 メール — 名 fecaq
 名 眼鏡 — 名 levlis
 形 珍しい — 動 tufil
 特 も — 特 voc
 副 もう — 動 vip
 名 文字 — 名 lakad
 動 持ち上げる — 動 hitaz
 動 持ち去る — 動 qolvab
 動 もつ — 動 kav
 動 持つ — 動 cikek
 動 持って来る — 動 nifet
 述 最も — 述 hiv
 述 最も～ない — 述 doqhiv
 名 もの — 名 zat
 名 桃 — 名 mârec
 名 催し — 名 fodek
 名 問題 — 名 zecel
 間 やあ — 間 yâ
 形 焼かれた — 動 zamek
 動 焼く — 動 zamek
 名 約束 — 名 kozis
 動 約束する — 動 kozes
 名 野菜 — 名 naved
 形 優しい — 動 safey
 形 安い — 動 hap
 名 屋根 — 名 hidal
 名 山 — 名 hinad
 名 遊園地 — 名 kosrahit
 形 勇敢な — 動 zécac
 名 夕食 — 名 tonaslon
 形 有名な — 動 valát
 名 雪 — 名 yekal
 副 ゆっくりと — 動 mêl
 名 指輪 — 名 yelicsiloz
 名 夢 — 名 pér
 形 良い — 動 sas
 名 洋服 — 名 solak
 形 予期しない — 動 tudcat
 副 予期せず — 動 tudcat
 副 よく — 動 lof

名 夜空 — 名 hîxlon
 名 四つ葉のクローバー — 名 tilirstpiv
 動 呼ぶ — 動 qòcas
 動 読む — 動 lîd
 述 より — 述 mic
 述 より～ない — 述 dès
 名 夜 — 名 lon
 形 弱気な — 動 zisqom
 名 L — 名 lîtes
 名 リボン — 名 lofyet
 名 理由 — 名 vadeŋ
 名 料理 — 名 tolék
 動 旅行する — 動 qoras
 名 リンゴ — 名 sakil
 名 レストラン — 名 voston
 名 レモン — 名 cilît

動 練習する — 動 zèvof
 動 連絡する — 動 fetek
 名 老人 — 名 lanqos
 動 朗読する — 動 lîdqel
 名 ロシア — 名 raxas
 名 ワイン — 名 celvir
 動 患う — 動 benag
 動 忘れる — 動 pâm
 名 私 — 名 tel
 名 私たち — 名 zál
 動 渡す — 動 nicas
 動 笑う — 動 hâr 動 rez
 動 割る — 動 dôk 動 baval
 形 悪い — 動 bûd
 名 ワンピース — 名 lâfas

入門 シャレイア語

2018 年 11 月 27 日 第 1 版発行

2025 年 3 月 27 日 第 2 版発行

著者

Ziphil Shaleiras

ziphil.shaleiras@gmail.com

<https://ziphil.com>

表紙デザイン

ふせ みゆり

X: @fracqxs

本書の無断での複製や転載は、著作権法上の例外を除き禁止されています。